

# 橋本市男女共同参画に関する市民意識・実態調査

## 報 告 書

平成 24 年 3 月

橋 本 市

# 目 次

I. 調査の概要	1
II. 調査結果の概要	2
III. 調査の結果	6
1. ご自身について	6
問1 性別	6
問2 年齢	6
問3 住居地区	7
問4 結婚	8
問5 子どもの有無	8
問6 子どもの学年・ステージ	9
問7 家族構成	10
2. 就労について	11
問8 仕事の状況	11
問9 働く予定の有無	12
問10 現在の生活の経済的状況	13
問11 女性が仕事をすることについての考え	13
問12 結婚・出産・介護を機に仕事をやめた経験の有無	16
問13 仕事継続希望の有無	17
問14 仕事が継続できなかった理由	18
問15 男女がともに働き続けるために必要なこと	20
3. 仕事と家庭について	24
問16 「男は仕事、女は家庭」の考え方について	24
問17 仕事と生活の優先度	27
問18 家庭での役割分担	30
問19 「男性がもっと家庭生活に参加する必要がある」という考え方について	34
問20 男性が家事・育児・介護などに参加していくため必要なこと	36
問21 育児休業などの制度の利用について	41
問22 制度を利用したことがない理由	45
問23 家庭における子どもの教育方針について	46
4. 防災・災害対応について	49
問24 防災訓練への参加	49
問25 災害時における避難所で女性に対して大切と思うこと	51
5. セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントについて	53
問26 セクシャル・ハラスメント及びパワー・ハラスメントについて	53
6. ドメスティック・バイオレンス（DV）について	57
問27 「夫（または妻）、恋人からの暴力」（DV）について	57
7. 男女共同参画に対する考えについて	62
問28 橋本市及び自分の周りでの男女の地位について	62
問29 男女共同参画社会実現に向けて必要なこと	66
■ 参考資料	71
自由記述式回答結果	71
アンケート調査票	

# I. 調査の概要

## 1. 調査目的

第二次橋本市男女共同参画計画を策定するにあたり、市民の男女共同参画に関する意識と実態について把握し、基礎資料を得ることを目的に実施しました。

## 2. 対象

橋本市内に在住する 20 歳以上の市民 2,000 人（無作為に抽出）

## 3. 調査方法

- ・調査票（質問紙）を作成し、無記名で回答を記入していただきました。
- ・調査票は、郵送で配布、回収しました。

## 4. 調査期間

平成 23 年 11 月 21 日～12 月 5 日

## 5. 回収結果

配布数 (件)	回収数 (件)	無効票 (件)	有効回収票 (件)	有効回収率 (%)
2,000	875	0	875	43.8

## 6. 報告書の見方

- ・集計図表は、小数点第 2 位を四捨五入して算出しました。したがって、回答の百分率比(%)を合計しても 100%にならない場合があります。
- ・回答比率は、その設問の回答者数を母数として算出しました。したがって、複数回答の設問は、全ての比率を合計すると 100%を超える場合があります

## Ⅱ. 調査結果の概要

### 1. 就労について

女性が仕事をすることについての考えは、「子どもができたら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が48.2%で最も多く、次いで「子どもができてもずっと仕事をする方がよい」が24.6%などとなっている。

結婚・出産・介護を機に仕事をやめた人の割合は、女性が55.4%、男性が3.0%で、女性の方が圧倒的に高い。そして、仕事をやめたときの女性の継続希望は43.2%を占めている。

仕事を続けられなかった理由は、家事や育児との両立がむずかしく、育児・介護休業などの制度も不十分であったことや、家族の協力が得られなかったことが主な理由となっている。

男女がともに働き続けるために、育児・介護休暇を取りやすくすることや保育サービスの充実、家族での家事の分担などが強く求められている。

### 2. 仕事と家庭について

「男は仕事、女は家庭」といった性別による固定的な役割分担について、肯定層は39.4%、否定層は59.2%で否定層の方が20ポイントも高くなっている。平成11年調査における類似の質問項目の結果と比較すると、肯定層は24ポイント低下し、否定層が30ポイント高くなっていることから、かなり意識が変化してきたことがわかる。性別にみると、女性における肯定層の割合は34.3%で、男性よりも12.2ポイント低く、否定層は64.1%で11.4ポイント高い。

しかしながら、仕事と生活の優先状況をみると、女性は「家庭生活」、男性は「仕事」を優先する傾向があり、また家庭での役割分担を10項目でみたときに、実態としては「生活費を稼ぐ」ことが主に男性の役割であること以外、「家計の管理」、「掃除・洗濯」、「日常の買物」、「食後の片付け・食器洗い」、「育児（乳幼児の世話）」については、主として女性が担っていることがわかった。

男性がもっと家庭生活に参加する必要があることについては、男女ともにほとんどの人が賛成であり、そのために必要と考えられている夫婦間での家事分担の話し合いや、育児・介護休業を取りやすい環境を整備すること、男女の役割分担についての社会通念・慣習・しきたりを改めることなどを進めていけば、男性の参加が一層進むことが予想される。

育児休業や介護休業などの制度については、育児休業制度の利用では女性は7.6%で男性よりも6.8ポイント高いが、他の制度の利用については男女とも2%に満たない。また制度を知らない人も少なくない。職場の理解や利用実績の向上など利用しやすい環境づくりを進めるとともに、制度の周知も必要である。

家庭における子どもの教育方針について、性別にこだわらず、個性を伸ばす、身の回りの家事ができるように育てる、経済的に自立できるように育てることについては、男女ともに90%程度が賛成である。それらに対して、女らしく、男らしくしつけることについては、賛成が65%で、反対が20%であり、反対は女性の方が男性よりも8ポイント高く、「らしさ」については、女性の方が拒む傾向がある。

### 3. 防災・災害対応について

#### (1) 防災訓練への参加

地域における防災訓練への参加は、女性が26.3%、男性が35.9%で女性の方が9.6ポイント低い。

#### (2) 災害時における避難所で女性に対して大切に思うこと

##### ①災害時における避難所での個人的な希望

災害時における避難所での個人的な希望については、「プライバシーを確保できる仕切り」が35.9%で最も多く、次いで「男性の視線が気にならない更衣室・授乳室、入浴設備」が22.3%、「安全な男女別トイレ」が20.1%などとなっている。

性別にみると、男性では「男性の視線が気にならない更衣室・授乳室、入浴設備」が26.8%で女性よりも7.7ポイント高い。

##### ②災害時における避難所での運営について

災害時における避難所での運営については、「女性医師・保育師や女性相談員による悩み相談」が27.4%で最も多く、次いで「女性だから食事の準備をするなど固定的な役割を押し付けないこと」が21.1%、「避難所の運営に女性がリーダーとして関わること」が20.6%などとなっている。

性別にみると、女性では「女性医師・保育師や女性相談員による悩み相談」が30.5%で男性よりも7.3ポイント高い。

### 4. セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントについて

#### (1) セクシャル・ハラスメント及びパワー・ハラスメントの被害経験

##### ①セクシャル・ハラスメントの被害経験の有無

セクシャル・ハラスメントの被害経験については、「職場で被害にあったことがある」が5.4%で最も多く、次いで「地域の中で被害にあったことがある」が1.3%、「学校で被害にあったことがある」が0.8%などとなっている。

性別にみると、女性では「職場で被害にあったことがある」が9.2%で男性よりも8.9ポイント高い。

##### ②パワー・ハラスメントの被害経験の有無

パワー・ハラスメントの被害経験については、「職場で被害にあったことがある」が11.0%で最も多く、次いで「地域の中で被害にあったことがある」が1.3%、「学校で被害にあったことがある」が0.5%などとなっている。

## (2) セクシャル・ハラスメント及びパワー・ハラスメントの被害の相談

### ①セクシャル・ハラスメントの被害にあった時の相談相手・場所

セクシャル・ハラスメントの被害にあった時の相談相手・場所については、「友人・知人に」が42.0%で最も多く、次いで「どこ（だれ）にも相談しなかった」が34.8%、「家族や親戚に」が21.7%などとなっている。

### ②パワー・ハラスメントの被害にあった時の相談相手・場所

パワー・ハラスメントの被害にあった時の相談相手・場所については、「家族や親戚に」及び「どこ（だれ）にも相談しなかった」がいずれも33.0%、「友人・知人に」が32.2%などとなっている。

性別にみると、女性では「友人・知人に」が36.2%で男性よりも10.1ポイント高い。男性では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が41.3%で女性よりも13.8ポイント高い。

## 5. ドメスティック・バイオレンス（DV）について

### (1) 「夫（または妻）、恋人からの暴力」（DV）について

#### ①身体に対する暴力

「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体に対する暴行を受けた」については、「あった」が3.7%、「一、二度あった」が6.9%で、被害者は合わせて10.6%となっている。

#### ②恐怖を感じる脅迫

「あなた又はあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」については、「あった」が0.9%、「一、二度あった」が3.8%で、被害者は合わせて4.7%となっている。

#### ③精神的な嫌がらせ

「大切にしているものを壊す、人格を否定したりするような暴言や無視するなどの精神的ないやがらせを受けた」については、「あった」が2.9%、「一、二度あった」が7.9%で、被害者は合わせて10.8%となっている。

#### ④性的暴力

「いやがっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しないなどの性的暴力を受けた」については、「あった」が1.3%、「一、二度あった」が4.5%で、被害者は合わせて5.8%となっている。

#### ⑤経済的な制約

「生活費を渡さない、働きに行かせないなどの経済的な制約を受けた」については、「あった」が1.5%、「一、二度あった」が1.4%で、被害者は合わせて2.9%となっている。

## ⑥束縛

「電話や手紙を細かくチェックする、交友関係や外出を制限する、実家や友人に会わせないなどの制約を受けた」については、「あった」が1.6%、「一、二度あった」が1.6%で、被害者は合わせて3.2%となっている。

①～④は総じて性別にみると、女性では「何度もあった」「一、二度あった」あわせた被害者の割合は男性よりも高い。

### (2) DVの相談相手や相談場所

DVを受けた後の相談については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が46.2%で最も多く、次いで「家族や親戚に」が30.8%、「友人・知人に」が21.2%などとなっている。

性別にみると、男性では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が55.2%で女性よりも11.1ポイント高い。

### (3) 相談しなかった理由

どこ（だれ）にも相談しなかった理由は、「相談するほどではないと思った」が43.1%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すればやっていけると思った」が40.3%、「相談しても無駄と思った」が26.4%などとなっている。

性別にみると、男性では「相談するほどではないと思った」が56.3%で女性よりも17ポイント高い。

## 6. 男女共同参画に対する考えについて

### (1) 橋本市及び自分の周りでの男女の地位について

7つの分野で橋本市及び自身の周りで男女の地位がどの程度平等になっているかについてきいたところ、「学校教育の場」で平等と感じている人が多い。それに対して、「職場の中」や「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたり」で平等と感じている人は少ない。

またこれらを含め、「家庭生活」や「地域活動の場」、「法律や制度の上」においても、女性の不平等感の方が強い。

### (2) 男女共同参画社会実現に向けて必要なこと

男女共同参画社会実現に向けて必要なことについては、「学校などにおける男女平等教育の推進」が49.4%で最も多く、次いで「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」が43.4%、「職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底」43.3%、「介護サービスの充実」が41.7%、「女性の就労支援の充実」が36.5%などとなっている。

性別にみると、「介護サービスの充実」は女性が44.0%で男性よりも5.9ポイント高い。「地域活動における男女共同参画の推進」は男性が32.4%で女性よりも10.5ポイント高い。「広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発」は男性が26.2%で女性よりも10.1ポイント高い。

年代別にみると20歳代、30歳代では「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」が55%を超えて高い。20歳代では「職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底」が57.1%で他の年代層より高い。「介護サービスの充実」は50歳代で50%を超えて高い。「女性の就労支援の充実」は30歳代で46.4%と他の年代層より高い。



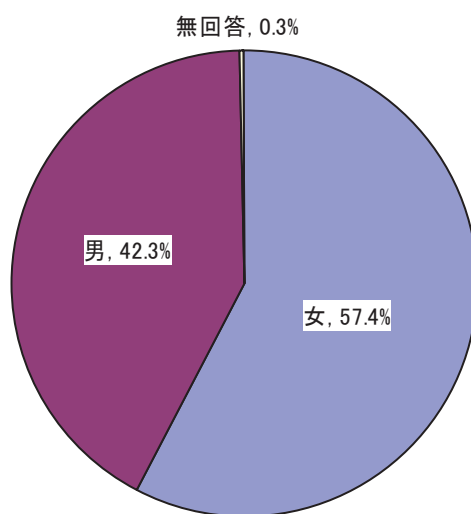
### Ⅲ. 調査の結果

#### 1. ご自身について

##### 問 1. 性別

回答者の性別は、女性が 57.4%、男性が 42.3%で女性の方が 15.1 ポイント多い。

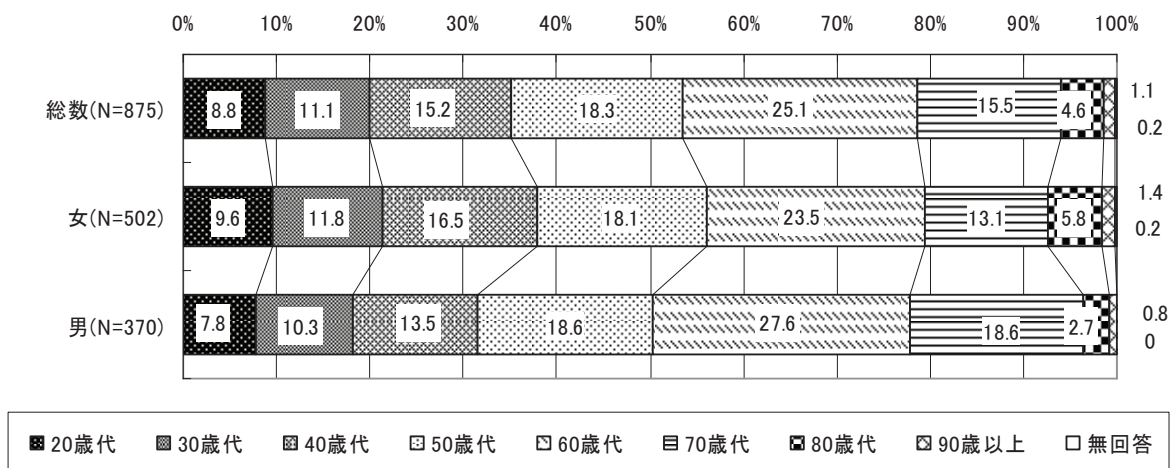
図 1 性別 (N=875)



##### 問 2. 年齢

年齢については、「60 歳代」が 25.1%で最も多く、次いで「50 歳代」が 18.3%、「70 歳代」が 15.5%などとなっている。

図 2① 年齢

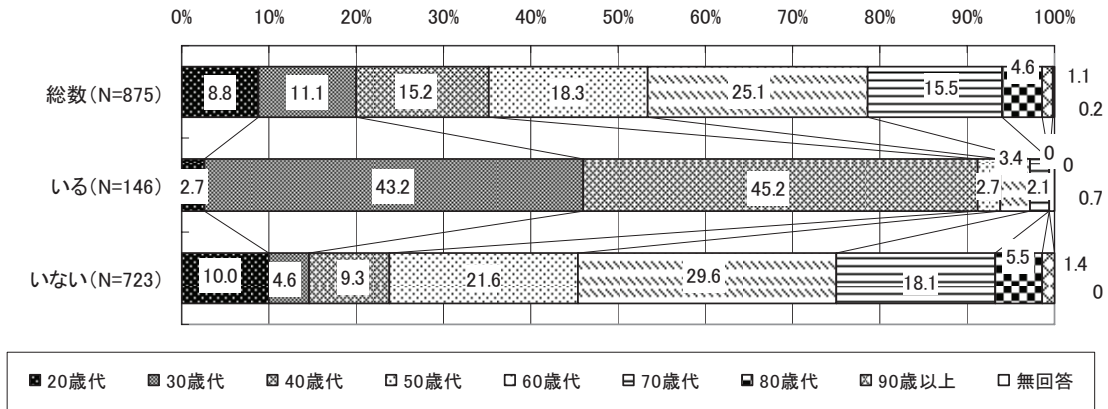




【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「30歳代」が43.2%で「いない」より38.6ポイント、「40歳代」が45.2%で「いない」より35.9ポイント高くなっている。

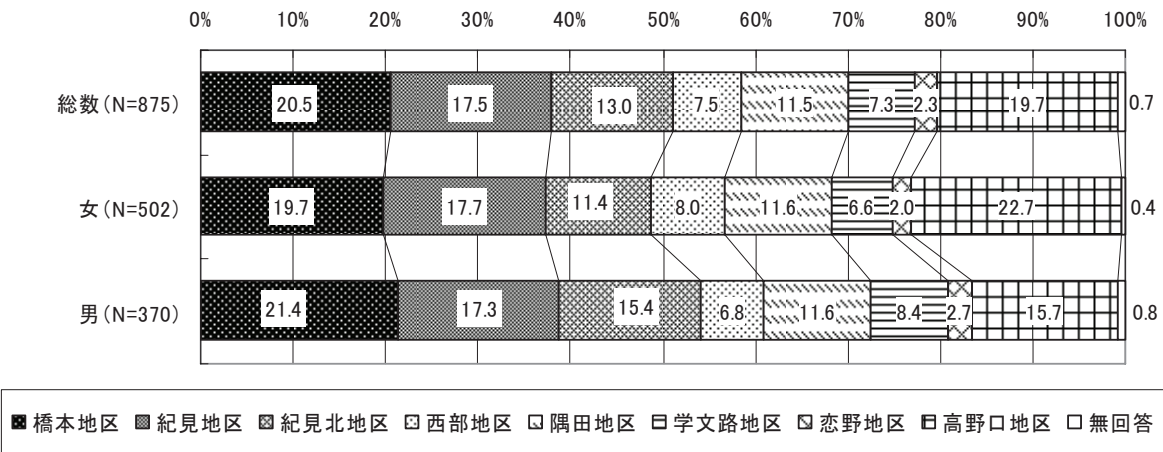
図2② 中学生以下の子どもの有無別 年齢



問3. 住居地区

住居地区については、「橋本地区」が20.5%で最も多く、次いで「高野口地区」が19.7%、「紀見地区」が17.5%、「紀見北地区」が13.0%などとなっている。

図3. 住居地区



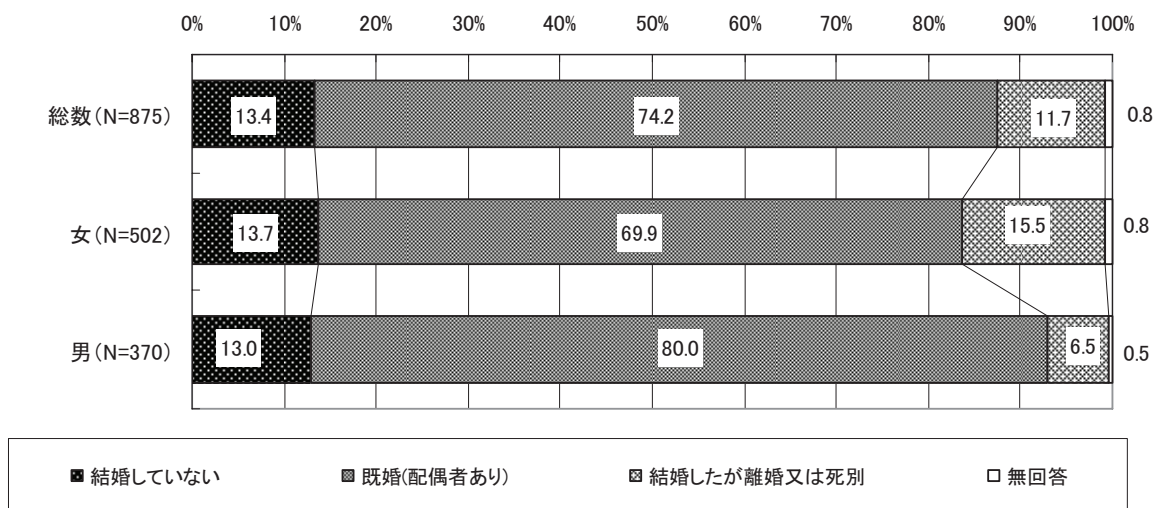
#### 問 4. 結婚（事実婚を含む）

結婚については、「既婚（配偶者あり）」が74.2%で最も多く、次いで「結婚していない」が13.4%、「結婚したが離婚又は死別」が11.7%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、男性では「既婚（配偶者あり）」が80.0%で女性よりも10.1ポイント高くなっている。

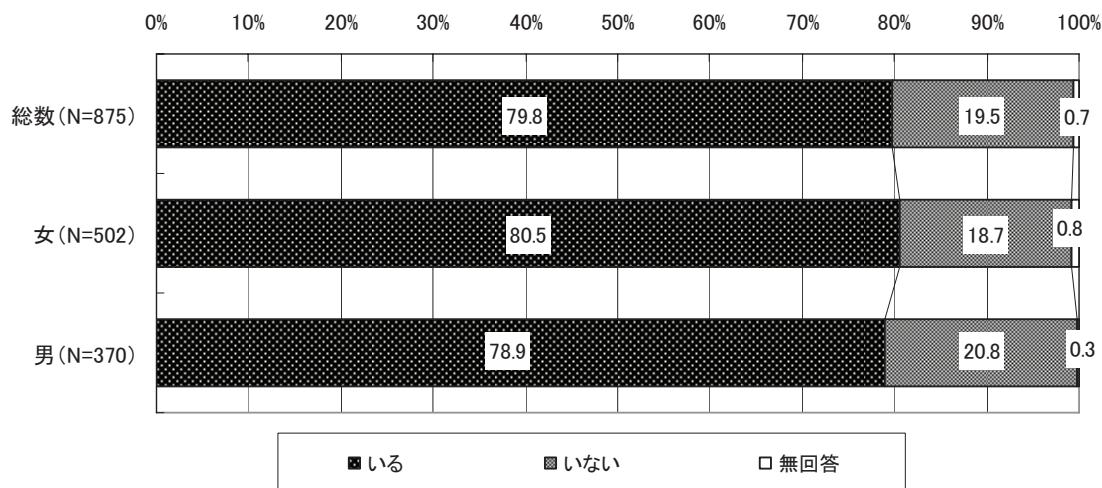
図 4. 結婚（事実婚を含む）



#### 問 5. 子どもの有無

子どもの有無については、「いる」が79.8%で、「いない」が19.5%である。

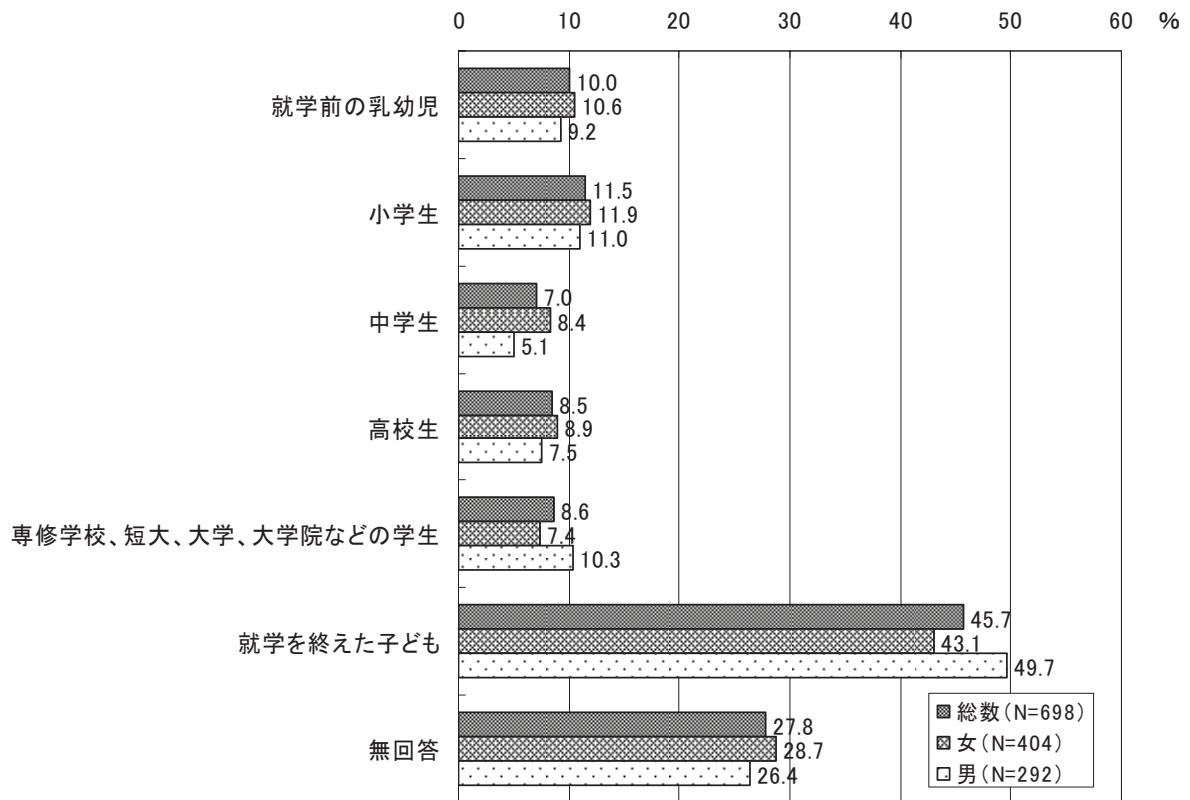
図 5. 子どもの有無



問6. 子どもの学年・ステージ（同居のみ）

子どもについては、「就学を終えた子ども」が45.7%で最も多く、次いで「小学生」が11.5%、「就学前の乳幼児」が10.0%などとなっている。

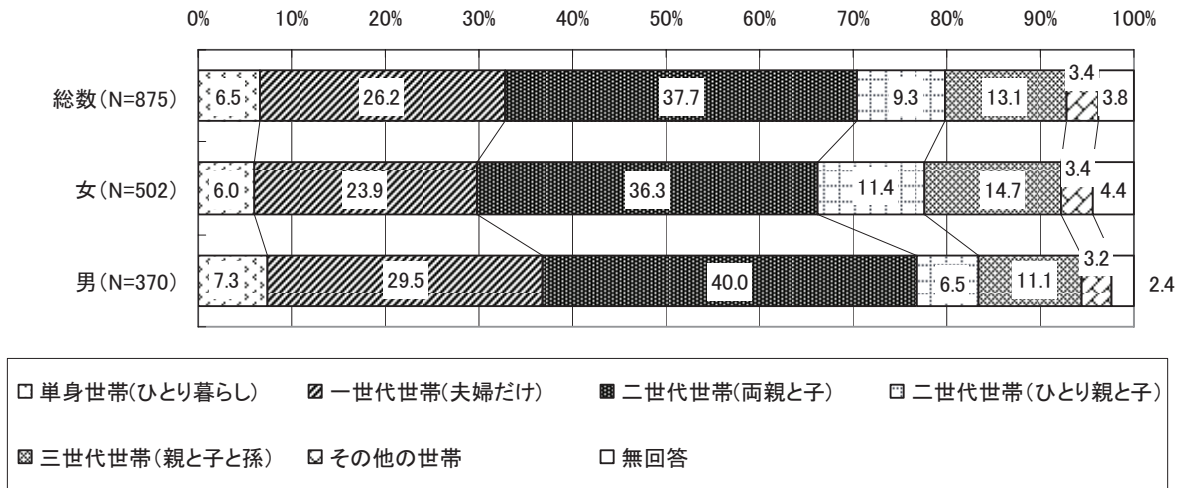
図6. 子どもの学年・ステージ（同居のみ・複数回答）



### 問 7. 家族構成（同居のみ）

同居家族については、「二世代世帯（両親と子）」が 37.7%で最も多く、次いで「一世代世帯（夫婦だけ）」が 26.2%、「三世代世帯（親と子と孫）」が 13.1%などとなっている。

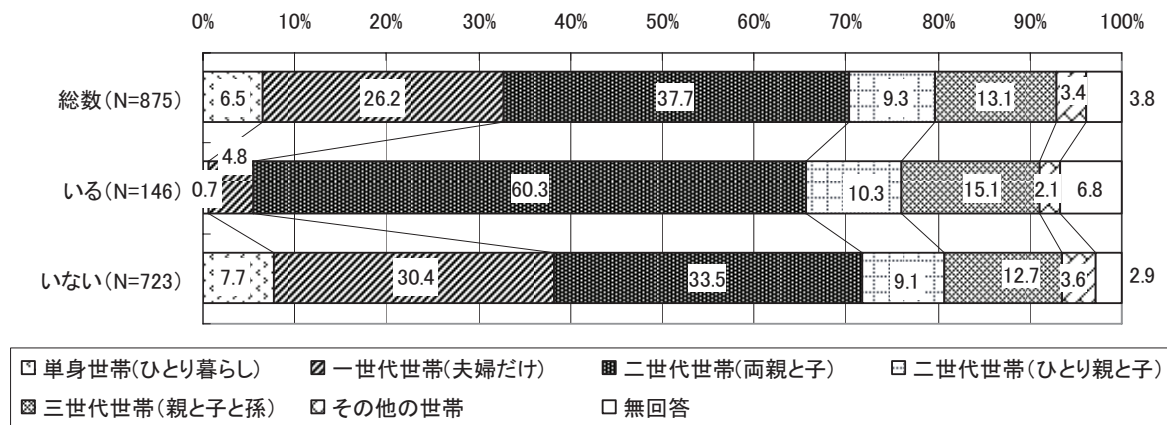
図 7①. 家族構成（同居のみ）



### 【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「二世代世帯（両親と子）」が 60.3%で「いない」より 26.8ポイント高くなっている。

図 7②. 中学生以下の子どもの有無別 家族構成（同居のみ）



## 2. 就労について

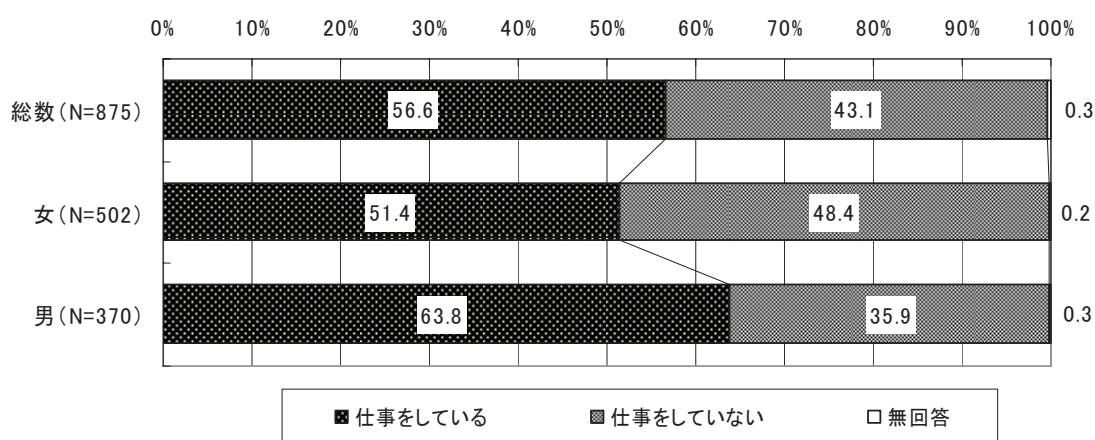
### 問8. 仕事の状況

収入を得ている仕事については、「仕事をしている」は56.6%で、「仕事をしていない」は43.1%となっている。

#### 【性別】

性別にみると、男性では「仕事をしている」が63.8%で女性よりも12.4ポイント高くなっている。

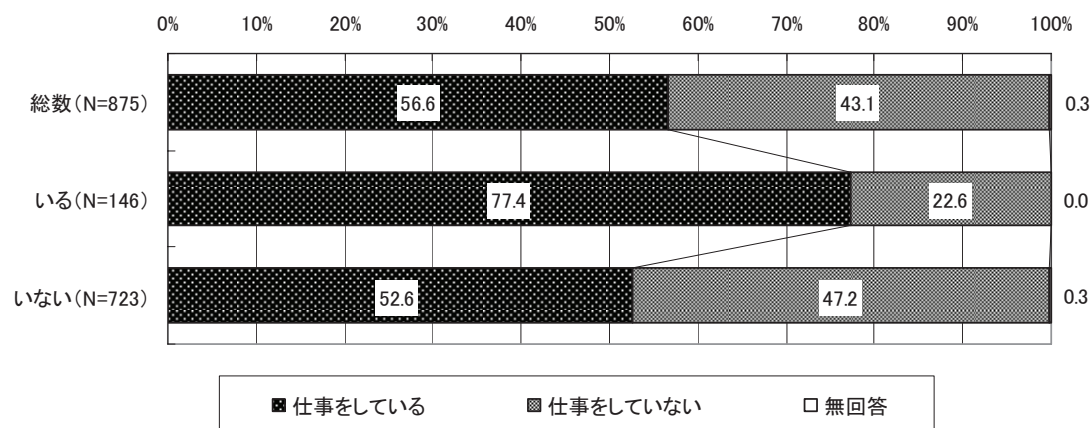
図8①. 仕事の状況



#### 【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「仕事をしている」が77.4%で「いない」より24.8ポイント高くなっている。

図8②. 中学生以下の子どもの有無別 仕事の状況



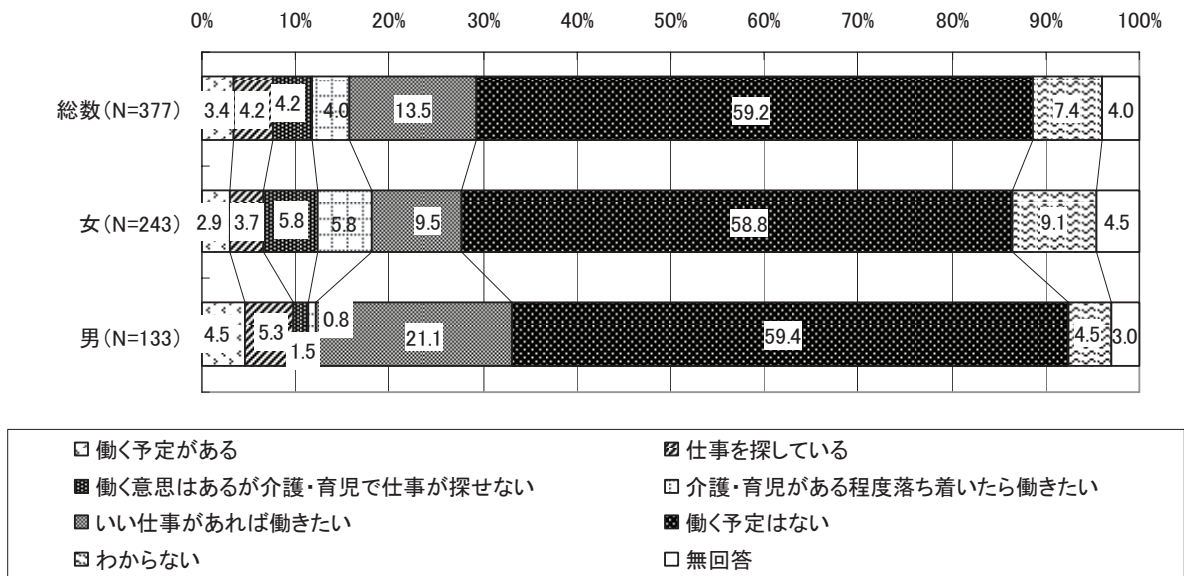
### 問9. 働く予定の有無

仕事していない人の働く予定については、「働く予定がある」は3.4%で、「仕事を探している」が4.2%、「働く意思はあるが介護・育児で仕事を探せない」が4.2%、「介護・育児がある程度落ち着いたら働きたい」が4.0%、「いい仕事があれば働きたい」が13.5%で、働く意思のある人は合わせて29.3%であり、「働く予定はない」は59.2%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、男性では「いい仕事があれば働きたい」が21.1%で女性よりも11.6ポイント高くなっている。

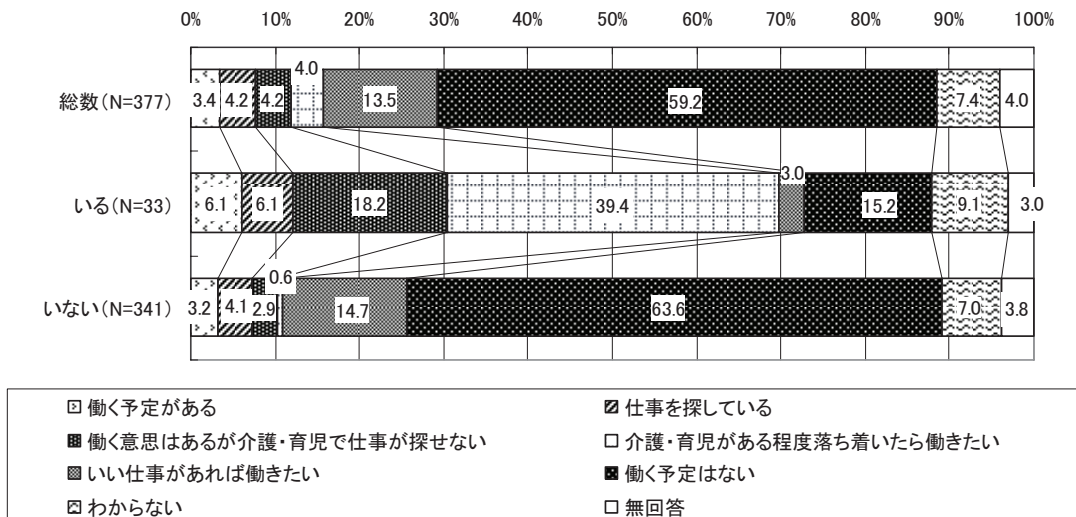
図9①. 働く予定の有無



#### 【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「介護・育児がある程度落ち着いたら働きたい」が39.4%で「いない」より38.8ポイント高くなっている。

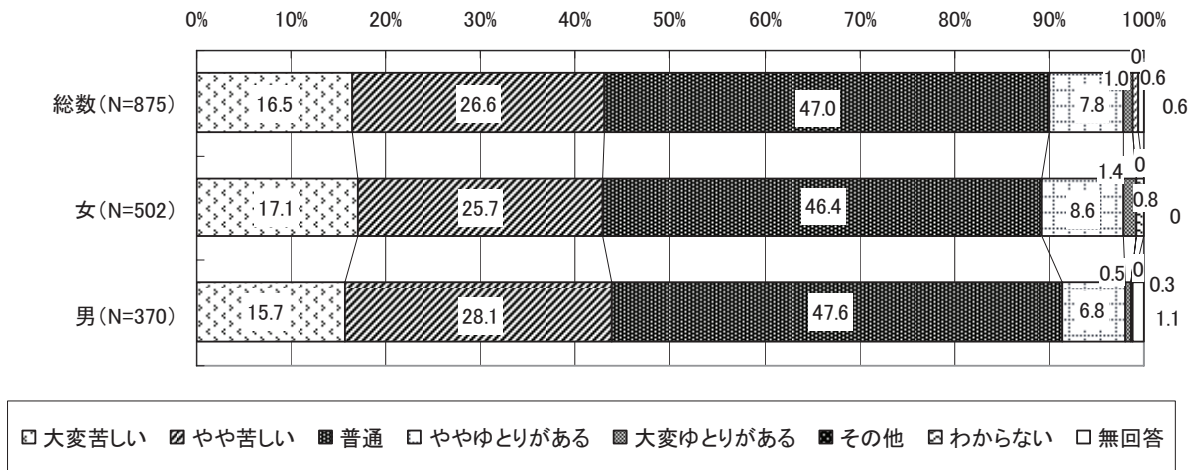
図9②. 中学生以下の子どもの有無別 働く予定の有無



## 問 10. 現在の生活の経済的状况

現在の生活の経済的状况については、「普通」が47.0%で最も多いが、「やや苦しい」が26.6%、「大変苦しい」が16.5%を合わせた苦しいと感じている人の割合は43.1%となっている。

図 10. 現在の生活の経済的状况



## 問 11. 女性が仕事をする事についての考え

女性が仕事をする事についての考えは、「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が48.2%で最も多く、次いで「子どもができてもずっと仕事をする方がよい」が24.6%などとなっている。

### 【前回との比較】

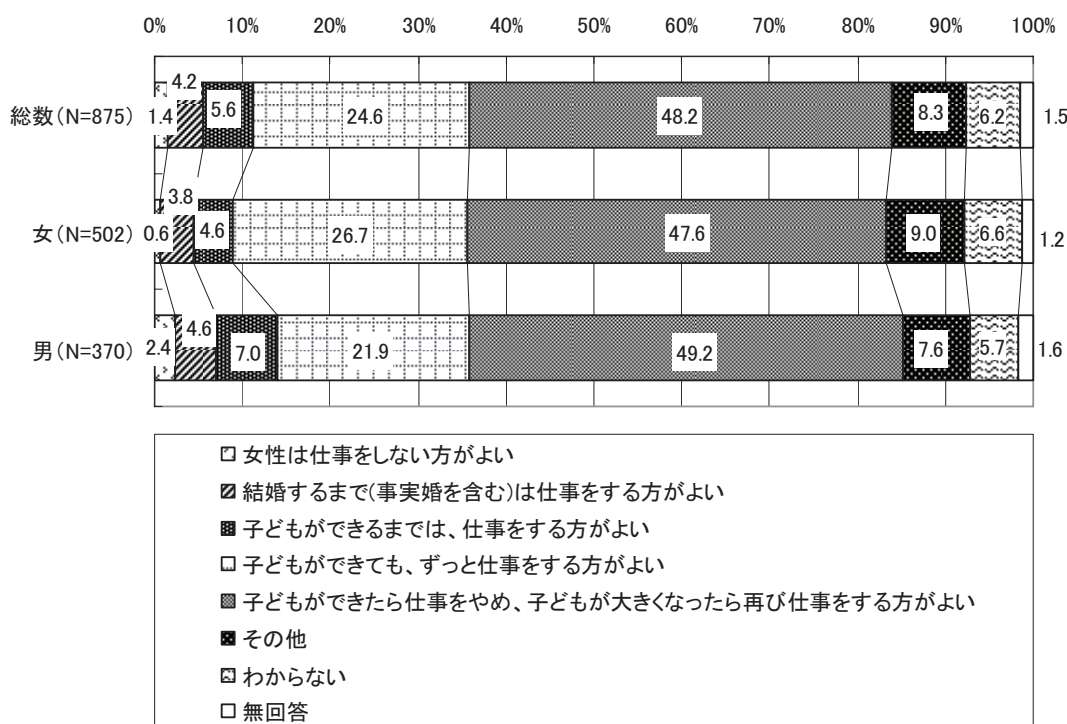
平成11年調査では、「女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児は主婦の役割としてきちんとやるべきだ」という考え方についてきている。

この結果と比較すると、今回の「子どもができれば仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」に該当する「結婚・出産で一時的に家庭に入り、育児が終わったら再び働く」とよい」の割合は、女性で9.9ポイント減っている。

男性では、今回の「結婚するまで（事実婚を含む）は仕事をする方がよい」及び「子どもができるまでは、仕事をする方がよい」に該当する「出産をきっかけとして家庭に入るとよい」及び「結婚をきっかけとして家庭に入るとよい」を合わせた割合は、10ポイント減っている。

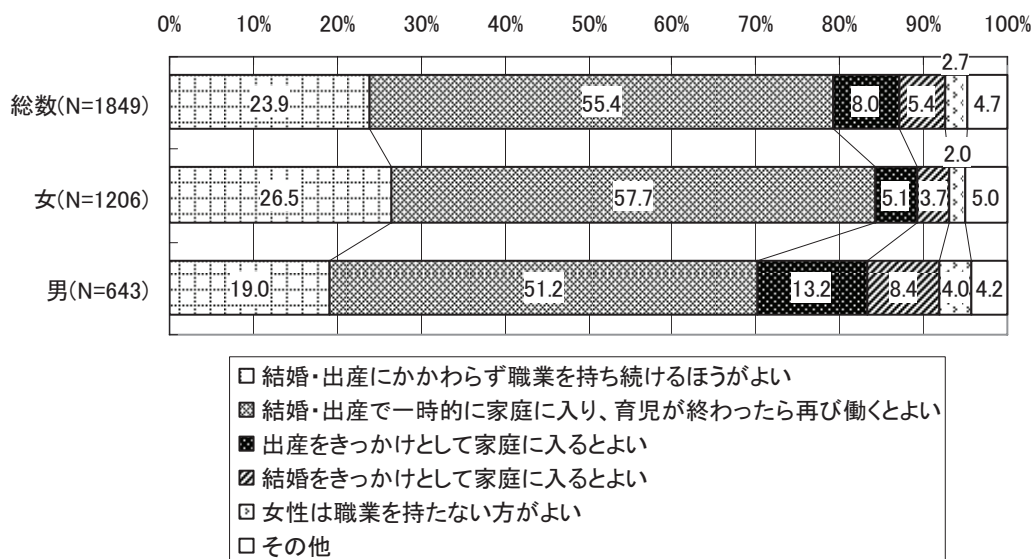


図 11①. 女性が仕事をするについての考え



平成 11 年調査

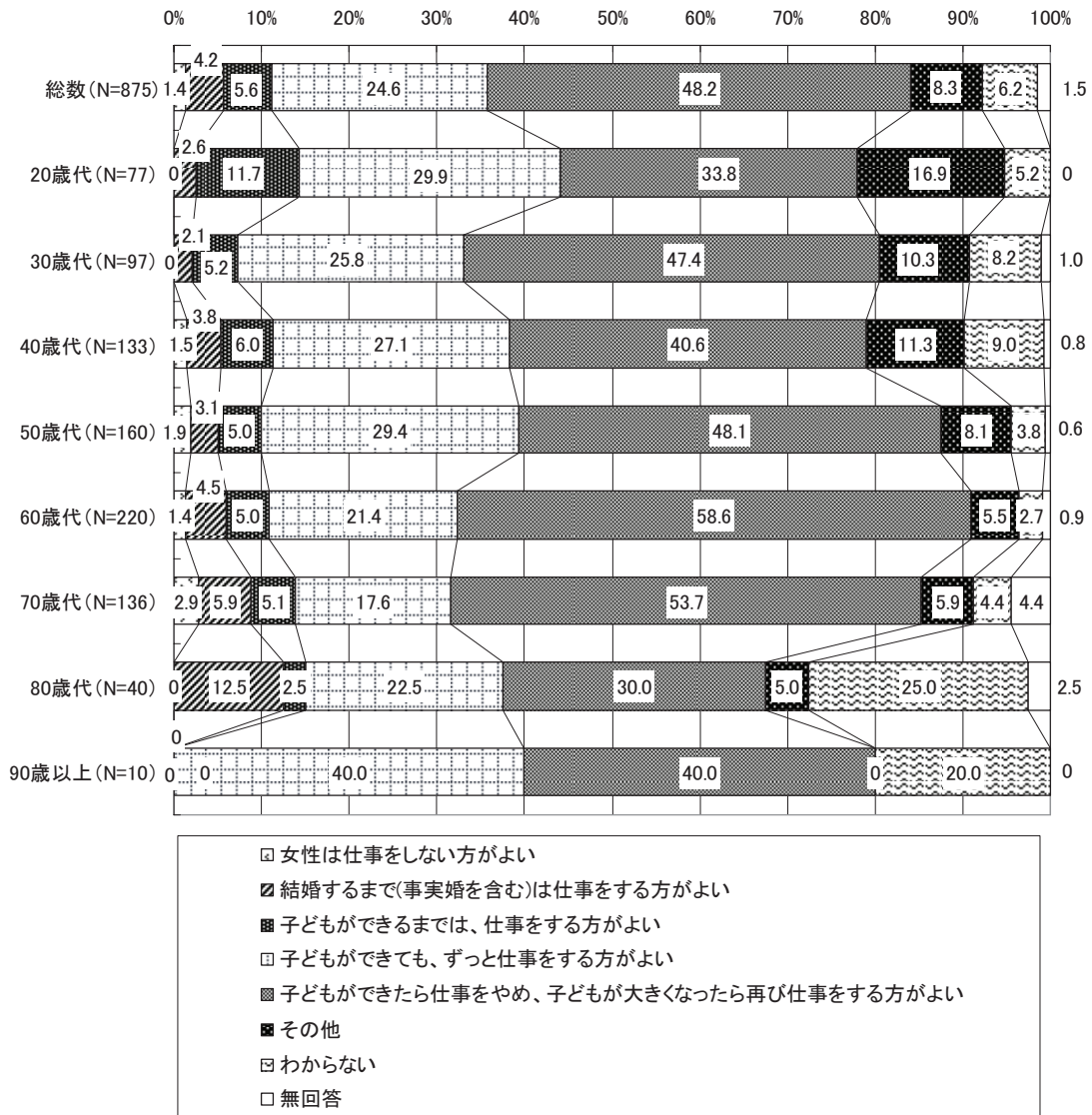
問 9 「女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児は主婦の役割としてきちんとやるべきだ」という考え方について



【年代別】

年代別にみると「子どもができて、ずっと仕事をする方がよい」は20歳代から50歳の年代層では、それ以上の年代層と比べてやや高い。60歳代で「子どもができたなら仕事をやめ、子どもが大きくなったら再び仕事をする方がよい」が58.6%で他の年代層よりもやや高い。

図 11②. 年代別 女性が仕事をするについての考え



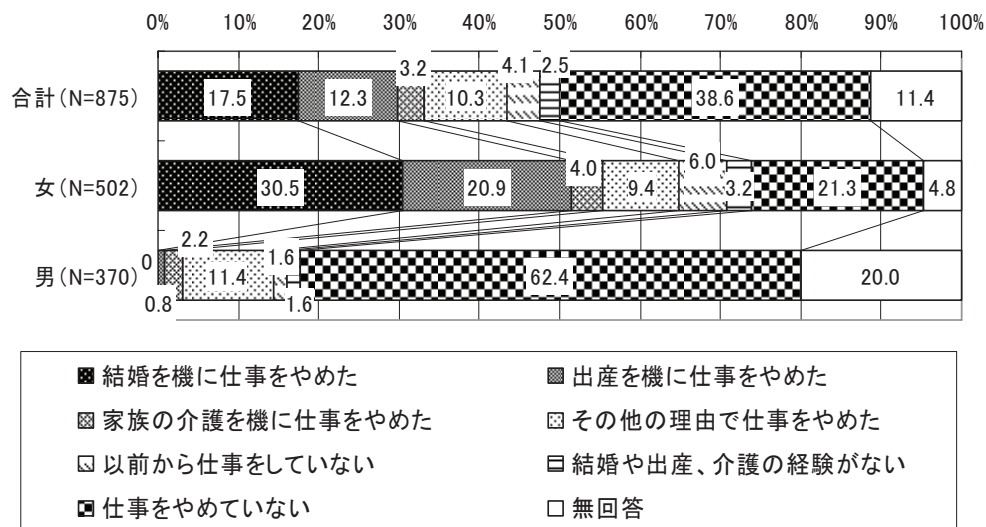
## 問 12. 結婚・出産・介護を機に仕事をやめた経験の有・無

結婚・出産・介護を機に仕事をやめた経験については、「仕事をやめていない」が 38.6%で最も多いが、「結婚を機に仕事をやめた」が 17.5%、「出産を機に仕事をやめた」が 12.3%、「家族の介護を機に仕事をやめた」が 3.2%で、これらを合わせて 33.0%が結婚・出産・介護を機に仕事をやめている。

### 【性別】

性別にみると、男性では「仕事をやめていない」が 62.4%で女性よりも 41.1 ポイント高い。女性では「結婚を機に仕事をやめた」が 30.5%で男性よりも 30.5 ポイント高い。また女性では「出産を機に仕事をやめた」が 20.9%で男性よりも 20.1 ポイント高い。

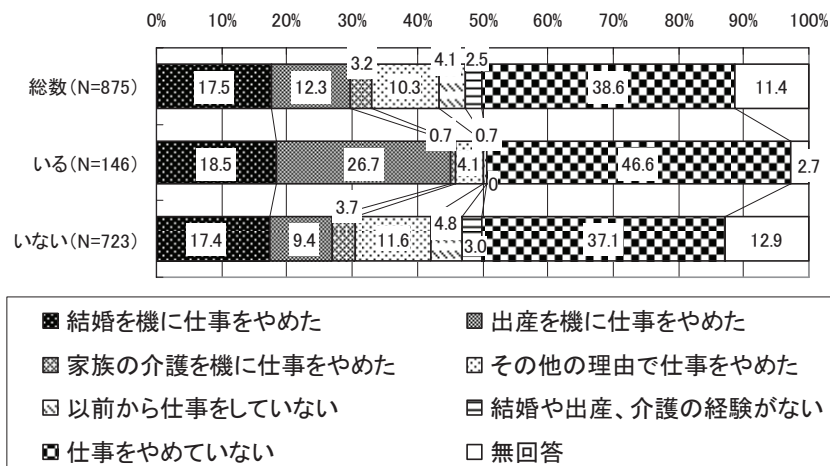
問 12①. 結婚・出産・介護を機に仕事をやめた経験の有・無



### 【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「出産を機に仕事をやめた」も 26.7%で「いない」よりも 17.3 ポイント高くなっている。また「仕事をやめていない」が 46.6%で「いない」よりも 9.5 ポイント高くなっている。

問 12②. 中学生以下の子どもの有無別 結婚・出産・介護を機に仕事をやめた経験の有・無



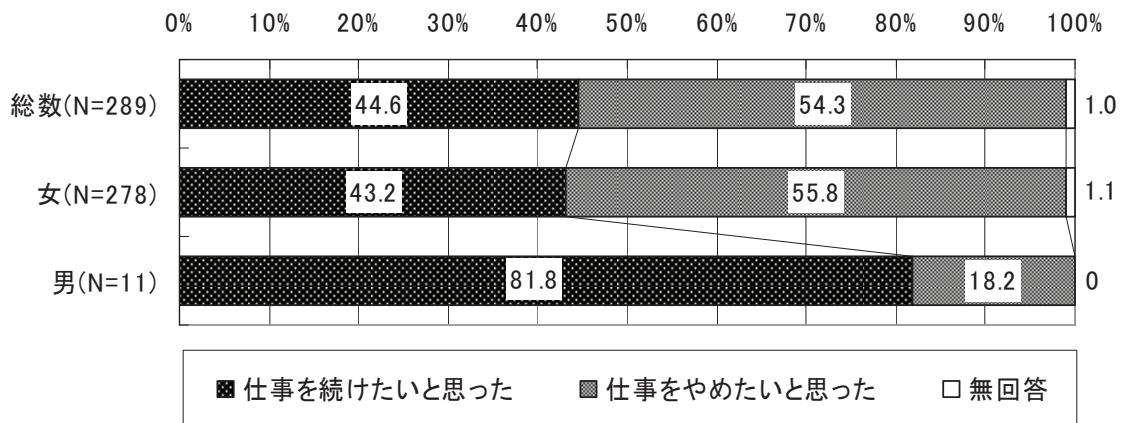
### 問 13. 仕事継続希望の有無

結婚・出産・介護を機に仕事をやめた人の仕事の継続希望について、「仕事を続けたいと思った」が44.6%、「仕事をやめたいと思った」が54.3%となっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性で「仕事を続けたいと思った」は43.2%である。

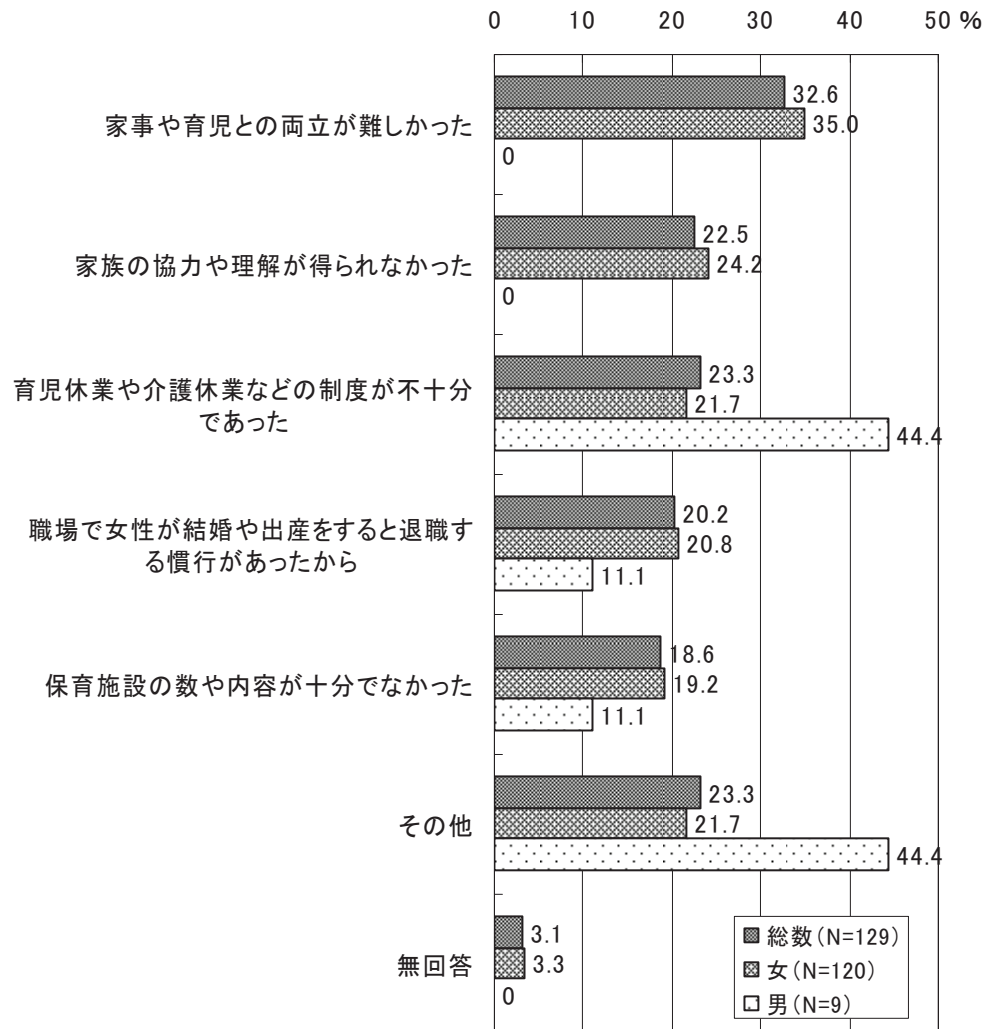
図 13. 仕事継続希望の有無



### 問 14. 仕事が継続できなかった理由

仕事を続けたいと思った人の続けられなかった理由については、「家事や育児との両立が難しかった」が32.6%で最も多く、次いで「育児休業や介護休業などの制度が不十分であった」が23.3%、「家族の協力が得られなかった」が22.5%などとなっている。

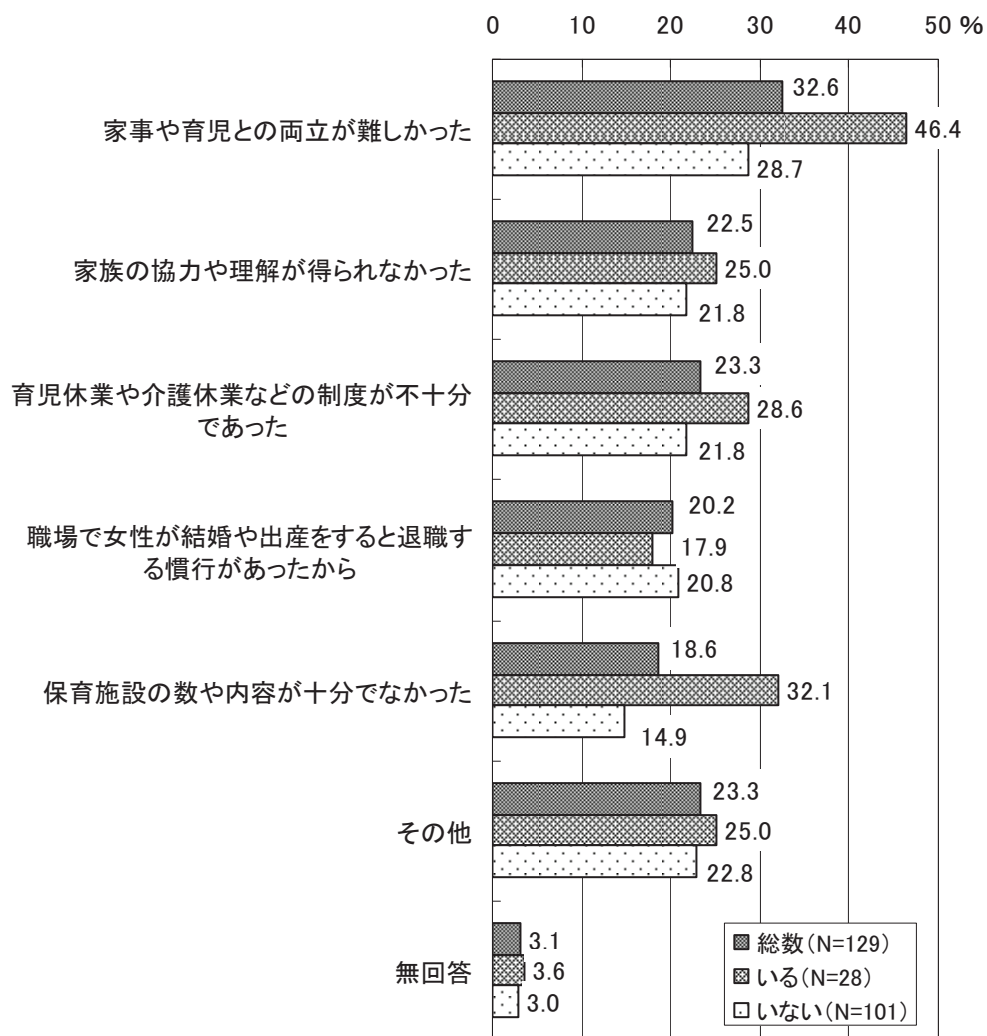
図 14①. 仕事が継続できなかった理由（複数回答）



【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「家事や育児との両立が難しかった」が46.4%で「いない」より17.7ポイント高い。また「保育施設の数や内容が十分でなかった」が32.1%で「いない」より17.2ポイント高くなっている。

図 14②. 中学生以下の子どもの有無別 仕事が継続できなかった理由（複数回答）



## 問 15. 男女がともに働き続けるために必要なこと

男女がともに働き続けるために必要なことについては、「職場において、男女ともに育児・介護休暇などをとりやすくする」が 69.6%で最も多く、次いで「保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実させる」が 65.4%、「家族で家事の分担を行う」が 56.2%などとなっている。

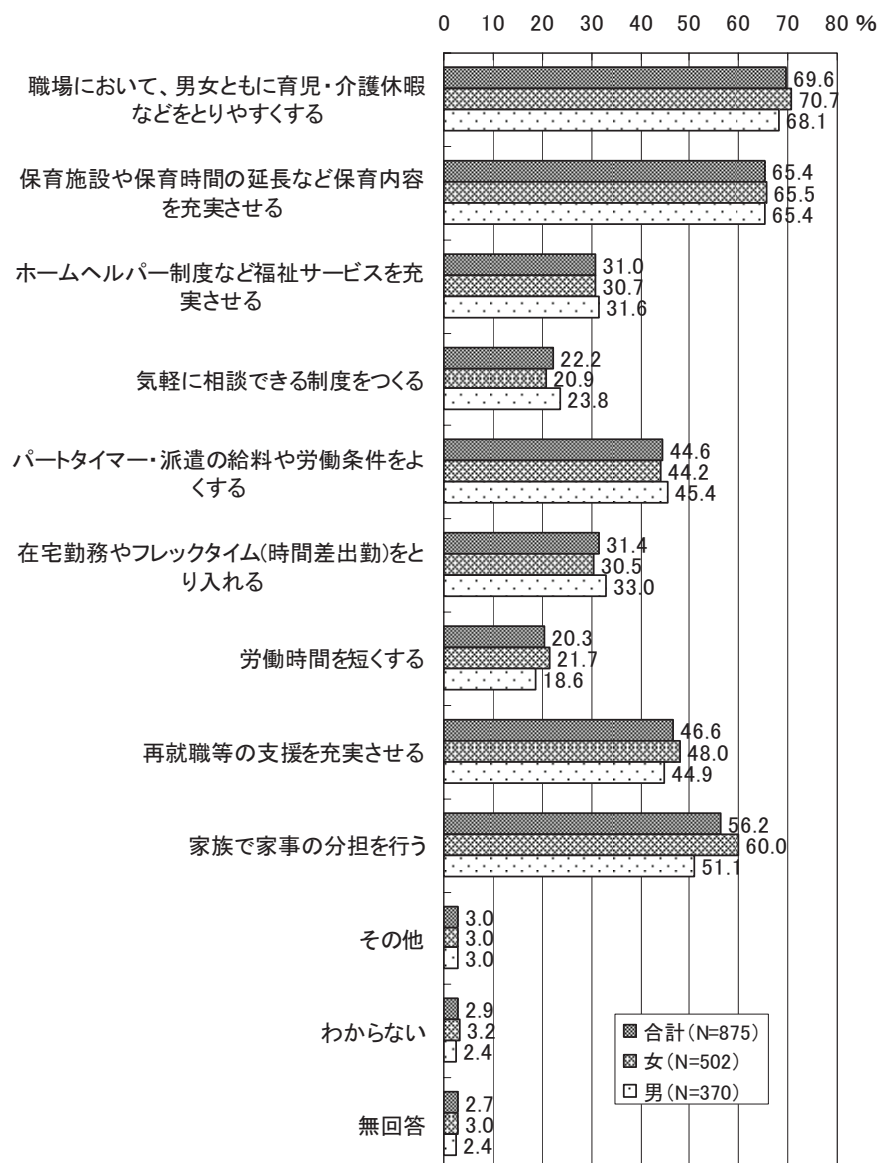
### 【性別】

性別にみると、女性では「家族で家事の分担を行う」が 60.0%で男性よりも 8.9 ポイント高い。

### 【前回調査との比較】

平成 11 年調査の結果と比較すると、育児・介護休暇への必要性が高まり、「労働時間の短縮」は 20.9 ポイント減っている。

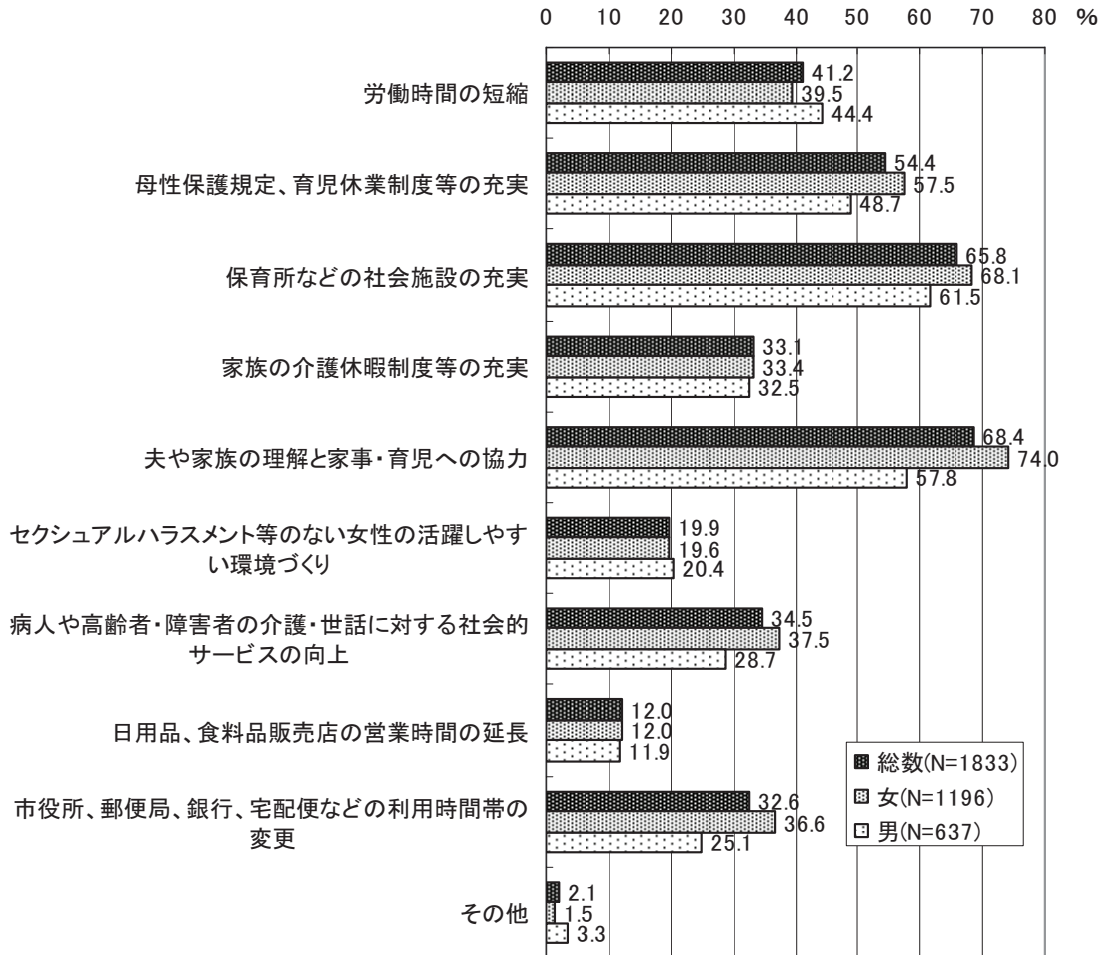
図 15①. 男女がともに働くために必要なこと（複数回答）





平成 11 年調査

問 26 女性が働き続けるために、また安心して社会的活動に参加するために必要なこと  
(複数回答)



## 【年代別】

年代別にみると20歳代から50歳代では「職場において、男女ともに育児・介護休暇などをとりやすくする」が70%を超えており、20歳代から70歳代まででは年齢が高くなる程、その割合は減少している。

20歳代と30歳代では「保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実させる」が70%を超えて高い。

表① 年代別 男女がともに働くために必要なこと（複数回答）

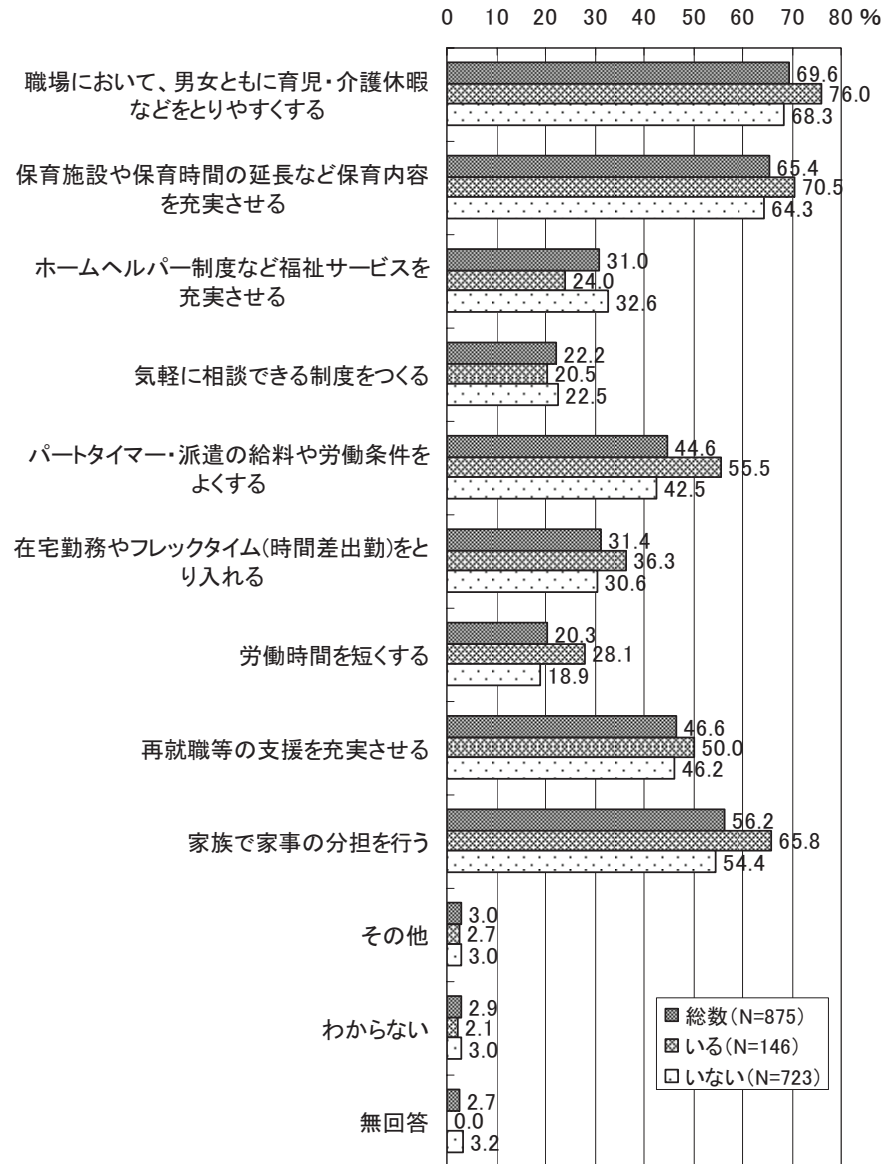
	職場において、男女ともに育児・介護休暇などをとりやすくする	保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実させる	ホームヘルパー制度など福祉サービスを充実させる	気軽に相談できる制度をつくる	パートタイマー・派遣の給料や労働条件をよくする	在宅勤務やフレックタイム(時間差出勤)をとり入れる
総数(N=875)	69.6	65.4	31.0	22.2	44.6	31.4
20歳代(N=77)	85.7	75.3	37.7	26.0	50.6	37.7
30歳代(N=97)	78.4	75.3	18.6	19.6	47.4	37.1
40歳代(N=133)	76.7	66.2	34.6	23.3	52.6	34.6
50歳代(N=160)	73.8	70.0	35.0	15.6	53.8	35.0
60歳代(N=220)	66.8	63.6	31.4	24.1	44.1	32.3
70歳代(N=136)	52.2	57.4	28.7	27.9	27.2	19.1
80歳代(N=40)	52.5	45.0	32.5	17.5	35.0	22.5
90歳以上(N=10)	60.0	40.0	10.0	10.0	10.0	20.0

	労働時間を短くする	再就職等の支援を充実させる	家族で家事の分担を行う	その他	わからない	無回答
総数(N=875)	20.3	46.6	56.2	3.0	2.9	2.7
20歳代(N=77)	33.8	51.9	63.6	6.5	-	1.3
30歳代(N=97)	30.9	42.3	56.7	5.2	1.0	1.0
40歳代(N=133)	22.6	46.6	69.9	2.3	2.3	-
50歳代(N=160)	18.8	55.6	55.0	1.9	1.3	-
60歳代(N=220)	20.0	52.3	50.5	3.2	3.2	1.4
70歳代(N=136)	6.6	33.8	55.1	1.5	0.7	9.6
80歳代(N=40)	17.5	30.0	45.0	2.5	20.0	15.0
90歳以上(N=10)	20.0	20.0	20.0	-	30.0	-

【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「パートタイマー・派遣の給料や労働条件をよくする」が 55.5%で「いない」より 13.0 ポイント高い。また「家族で家事の分担を行う」も 65.8%で「いない」より 11.4 ポイント高くなっている。

図 15②. 中学生以下の子どもの有無別 男女がともに働くために必要なこと（複数回答）



### 3. 仕事と家庭について

#### 問 16. 「男は仕事、女は家庭」の考え方について

「男は仕事、女は家庭」の考え方については、「そのとおりだと思う」5.7%と「どちらかといえばそう思う」33.7%を合わせた肯定層は39.4%、「そう思わない」36.3%、「どちらかといえばそう思わない」が22.9%を合わせた否定層は59.2%となっている。

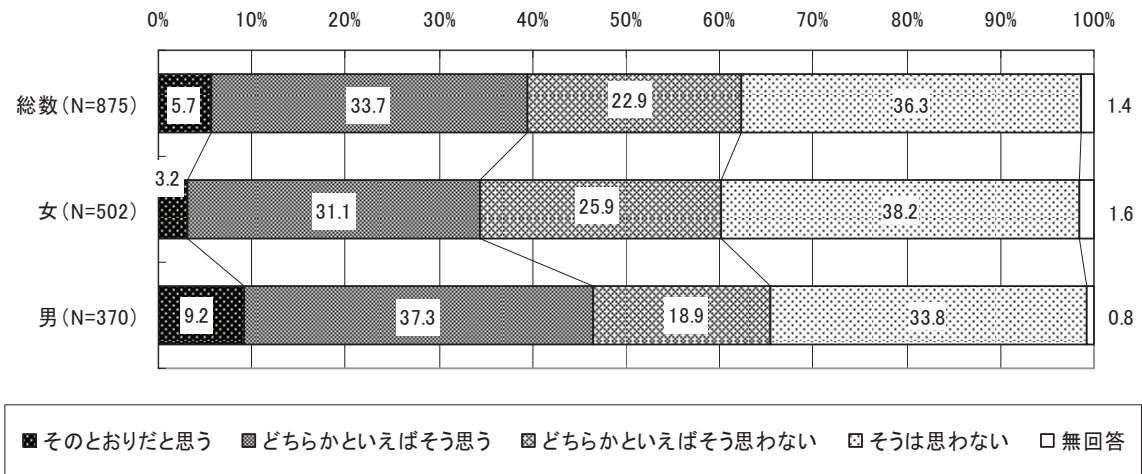
性別にみると、女性における肯定層の割合は34.3%で、男性よりも12.2ポイント低く、否定層は64.1%で11.4ポイント高い。

#### 【前回調査との比較】

平成11年調査では、「女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児は主婦の役割としてきちんとやるべきだ」という考え方についてきている。

その結果、今回の肯定層に該当する「賛成」及び「どちらかといえば賛成」を合わせた割合は、総数で24.4ポイント、女性で22.7ポイント、男性で28.8ポイント減っており、男性の方が減少ポイントが高い。

図 16① 男は仕事・女は家庭の考え方について



平成 11 年調査

問 9 「女性が仕事をもつことはよいが、家事・育児は主婦の役割としてきちんとやるべきだ」という考え方について

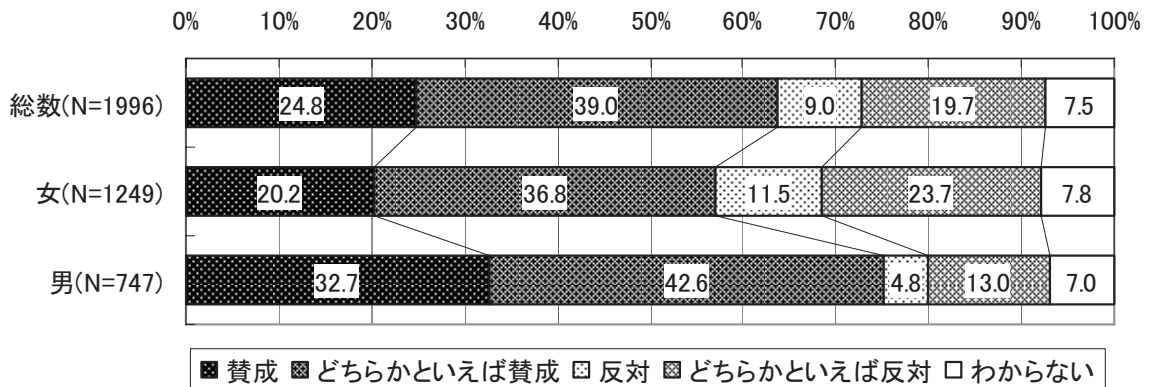
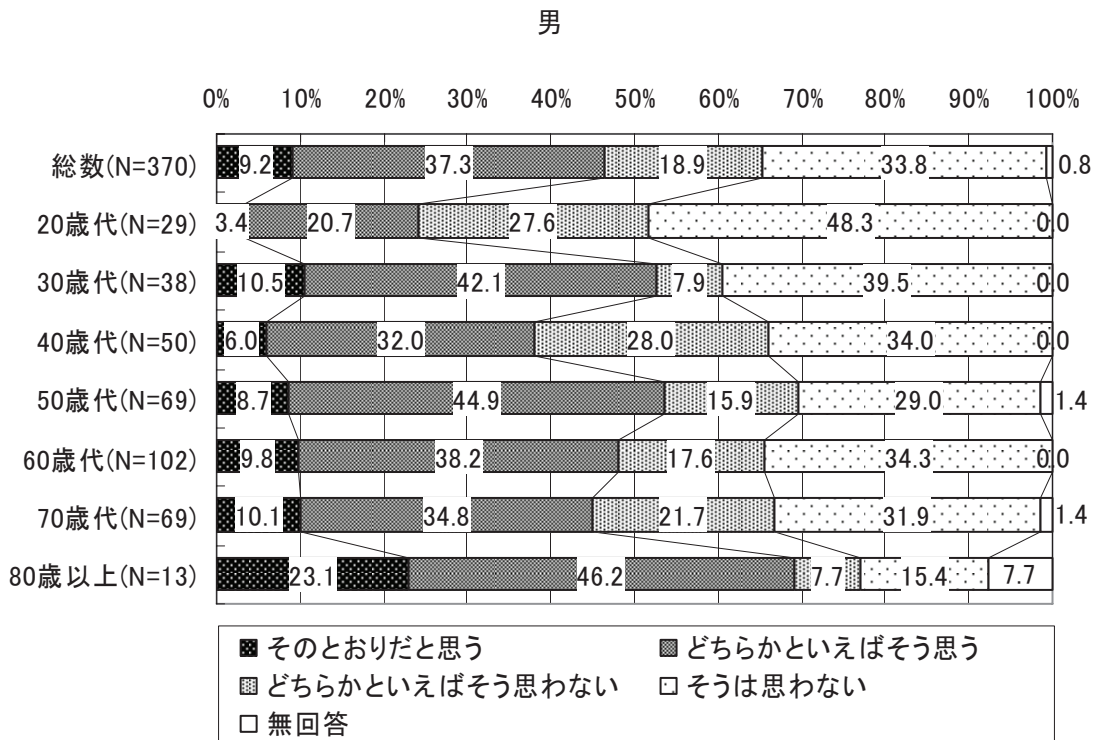
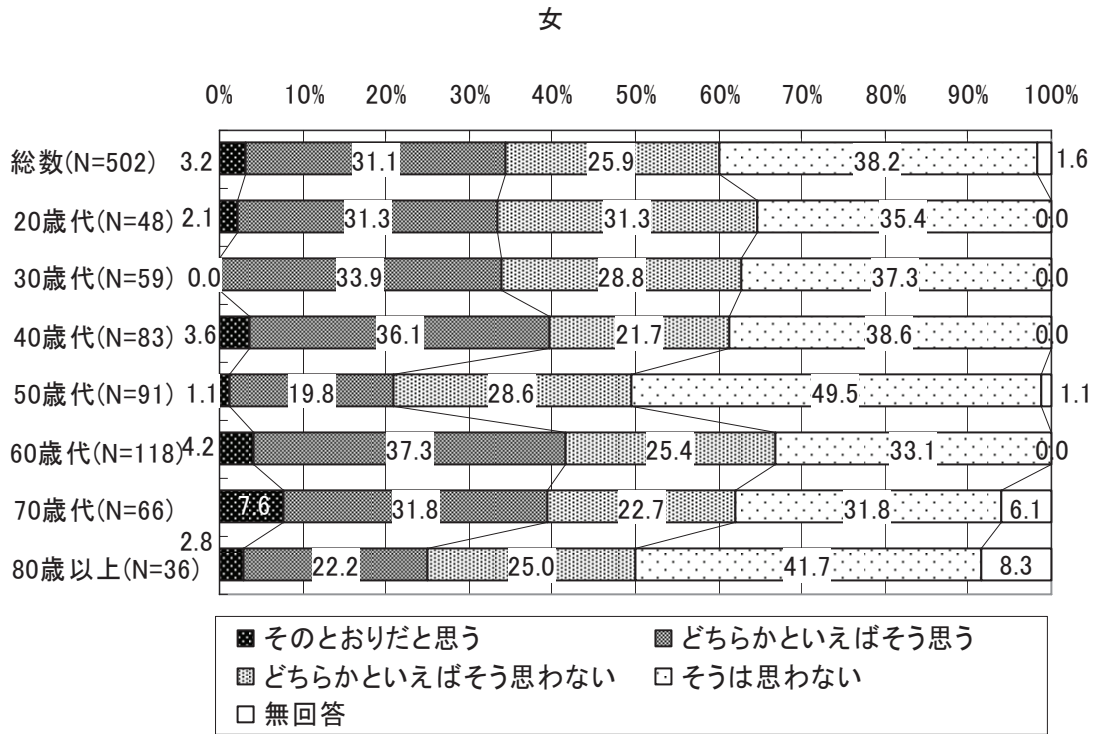


図 16② 性別年代別 男は仕事・女は家庭の考え方について



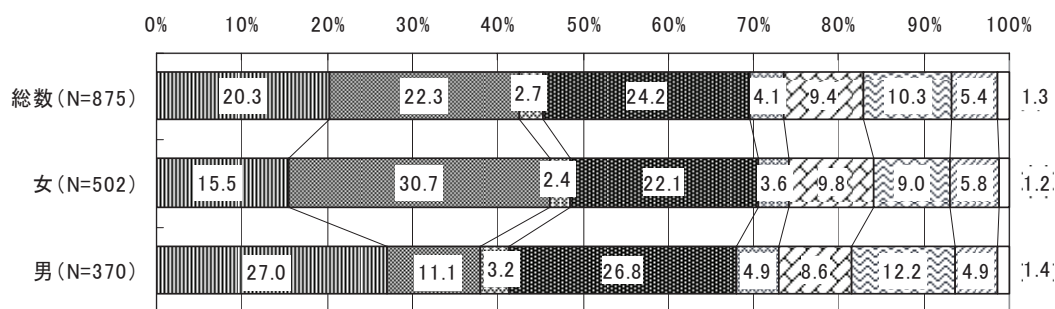
## 問 17. 仕事と生活の優先度

仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度については、「仕事と家庭生活をともに優先している」が24.2%で最も多く、次いで「家庭生活を優先している」が22.3%、「仕事を優先している」が20.3%などとなっている。

### 【性別】

性別にみると、女性では「家庭生活を優先している」が30.7%で男性よりも19.6ポイント高い。男性では「仕事を優先している」が27.0%で女性よりも11.5ポイント高い。

図 17①. 仕事・生活の優先度



- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- わからない
- 無回答

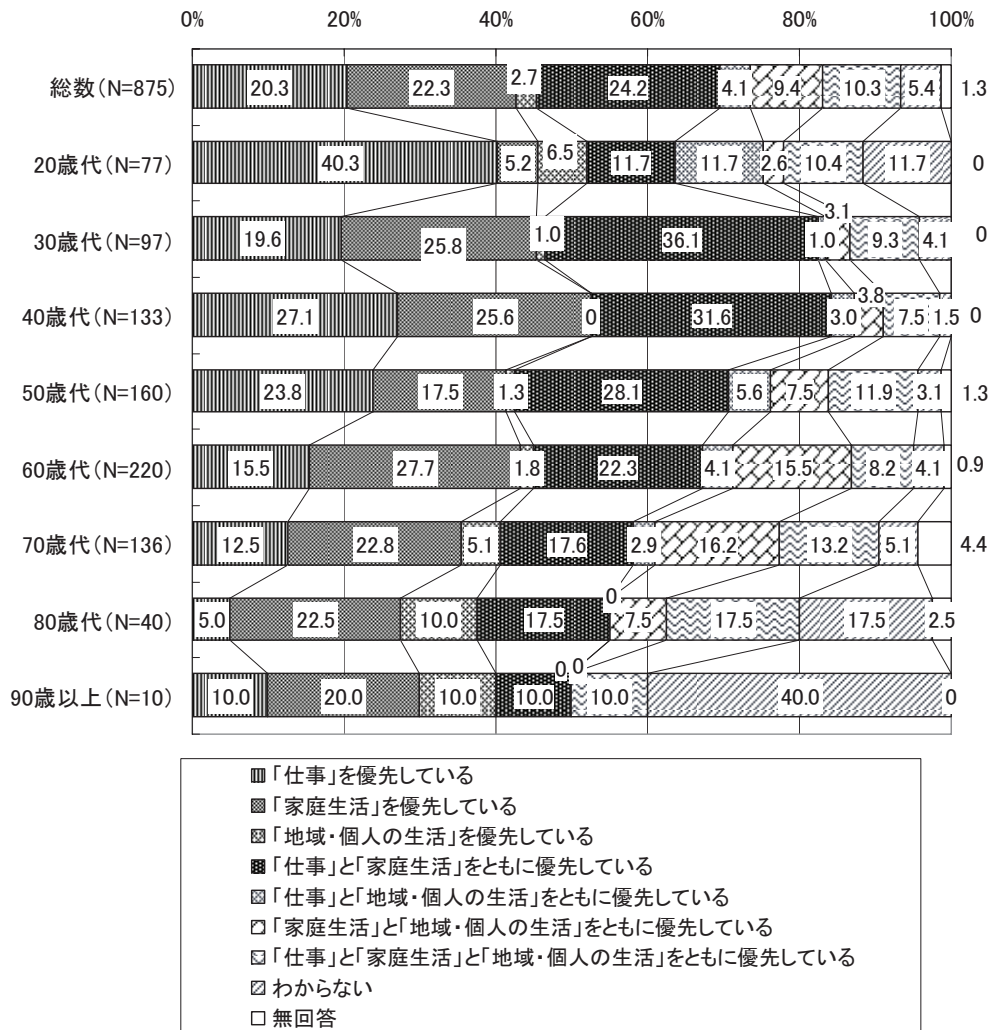


【年代別】

年代別にみると 30 歳代では「仕事と家庭生活をともに優先している」が 36.1%で総数よりも約 12 ポイント高い。また 30 歳代以上では、年齢が高くなる程その割合は減少している。

「仕事を優先している」は 20 歳代で 40.3%で総数よりも 20 ポイント高くなっている。

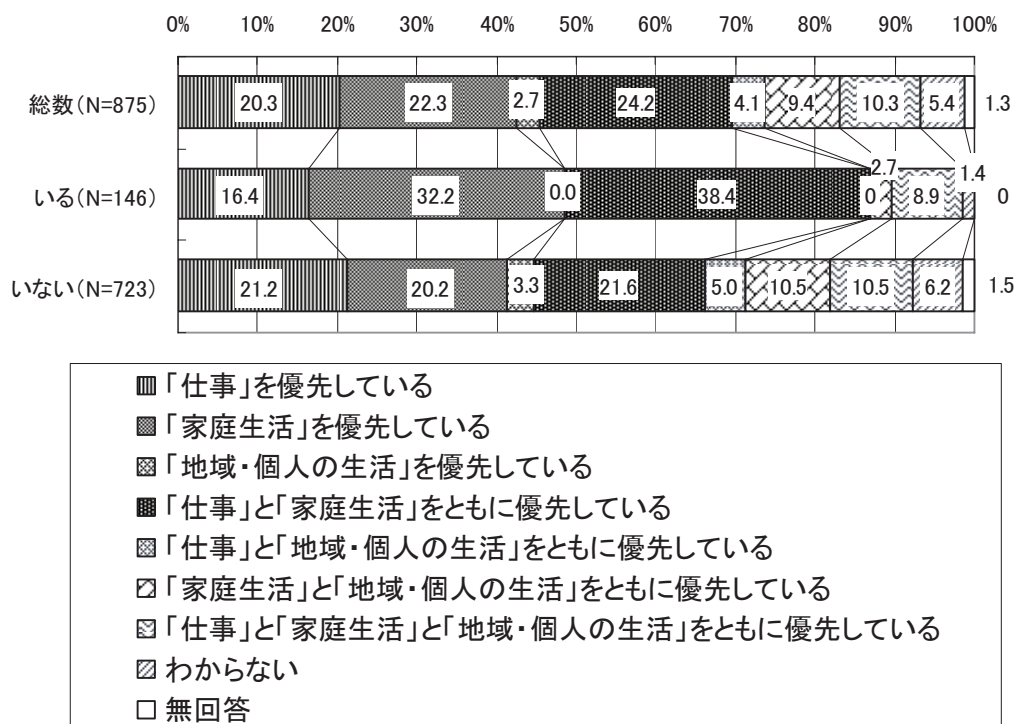
図 17②. 年代別 仕事・生活の優先度



【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「仕事と家庭生活をともに優先している」が38.4%で「いない」より16.8ポイント高い。また「家庭生活を優先している」は32.2%で「いない」より12.0ポイント高くなっている。

図 17③. 中学生以下の子どもの有無別 仕事・生活の優先度



## 問 18. 家庭での役割分担

### ①生活費を稼ぐ

「生活費を稼ぐ」については、「主として男性の役割」が 46.3%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性の役割」が 22.9%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、男性では「主として男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を足した「男性の役割」が 76.0%で女性よりも 11.9 ポイント高い。

### ②日々の家計の管理をする

「日々の家計の管理をする」については、「主として女性の役割」が 49.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性の役割」が 26.5%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性では「主として女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を足した「女性の役割」が 80.7%で男性よりも 12.1 ポイント高い。

### ③掃除・洗濯

「掃除・洗濯」については、「主として女性の役割」が 57.4%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性の役割」が 23.4%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性では「主として女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を足した「女性の役割」が 86.0%で男性よりも 11.9 ポイント高い。

### ④日常の買物

「日常の買物」については、「主として女性の役割」が 50.5%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性の役割」が 23.0%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性では「主として女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を足した「女性の役割」が 79.1%で男性よりも 13.2 ポイント高い。

### ⑤食事のしたく

「食事のしたく」については、「主として女性の役割」が 64.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性の役割」が 20.6%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性では「主として女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を足した「女性の役割」が 88.4%で男性よりも 9.2 ポイント高い。

### ⑥食後の片付け・食器洗い

「食後の片付け・食器洗い」については、「主として女性の役割」が 53.8%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性の役割」が 21.7%などとなっている。

**【性別】**

性別にみると、女性では「主として女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を足した「女性の役割」が82.8%で男性よりも17.1ポイント高い。

男性では「両方同じ程度の役割」は19.5%で女性よりも10.1ポイント高い。

**⑦家族の介護や看護**

「家族の介護や看護」については、「両方同じ程度の役割」が26.7%で最も多く、次いで「主として女性の役割」が25.6%、「どちらかといえば女性の役割」が19.8%などとなっている。

**【性別】**

性別にみると、女性では「主として女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を足した「女性の役割」が53.2%で男性よりも18.3ポイント高い。

男性では「両方同じ程度の役割」は35.9%で女性よりも16ポイント高い。

**⑧子どもの教育としつけ**

「子どもの教育としつけ」については、「両方同じ程度の役割」が38.3%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性の役割」が21.8%、「主として女性の役割」が16.5%などとなっている。

**【性別】**

性別にみると、女性では「主として女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を足した「女性の役割」が45.0%で男性よりも16.1ポイント高い。

男性では「両方同じ程度の役割」は45.7%で女性よりも12.8ポイント高い。

**⑨育児(乳幼児の世話)**

「育児(乳幼児の世話)」については、「主として女性の役割」が34.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば女性の役割」が24.8%などとなっている。

**【性別】**

性別にみると、女性で「どちらかといえば女性の役割」の割合が40.4%で男性よりも13.9ポイント高い。

**⑩地域活動への参加**

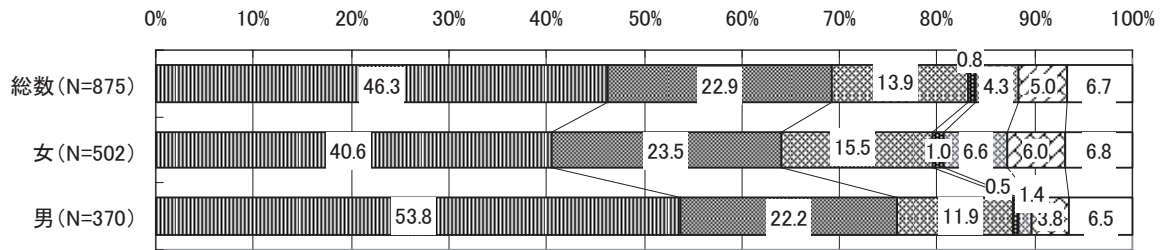
「地域活動への参加」については、「両方同じ程度の役割」が37.6%で最も多く、次いで「どちらかといえば男性の役割」が16.2%、「主として女性の役割」が14.6%などとなっている。

**【性別】**

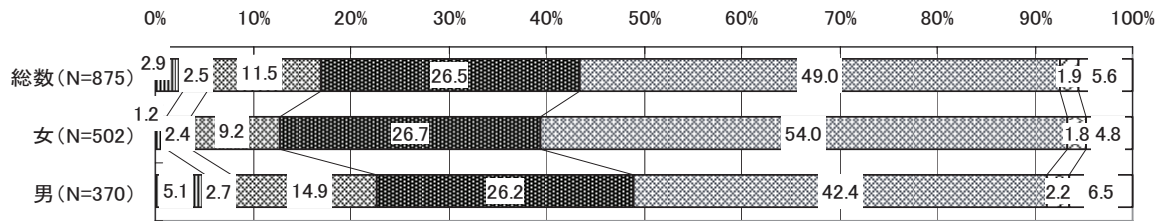
性別にみると、女性では「主として女性の役割」と「どちらかといえば女性の役割」を足した「女性の役割」が33.8%で男性よりも15.2ポイント高い。

男性では「主として男性の役割」と「どちらかといえば男性の役割」を足した「男性の役割」が31.6%で女性よりも12.3ポイント高い。

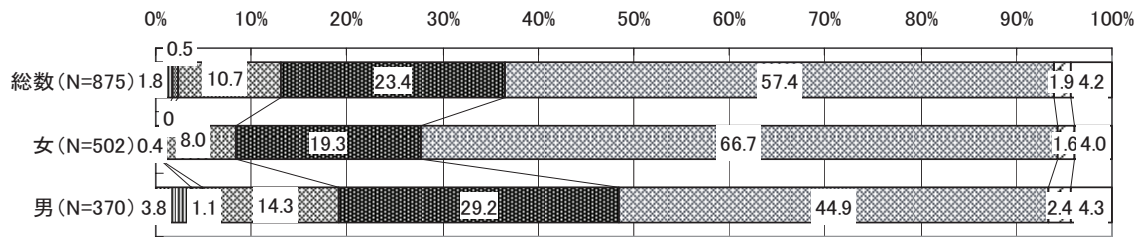
①生活費を稼ぐ



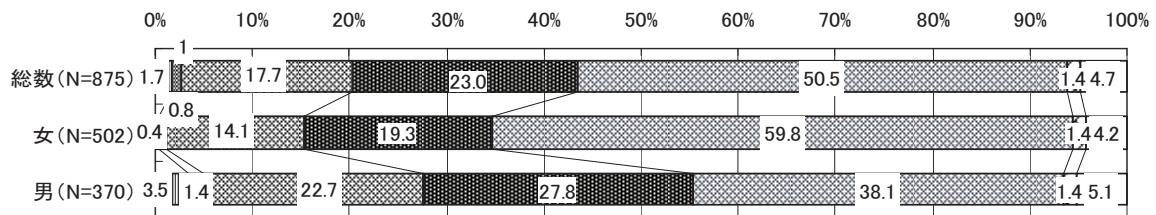
②日々の家計の管理をする



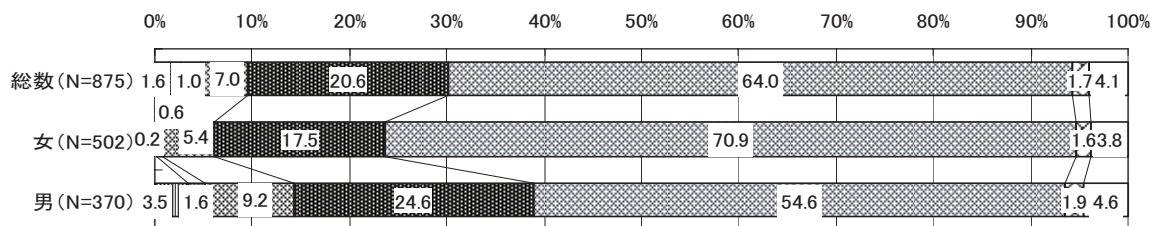
③掃除・洗濯



④日常の買物

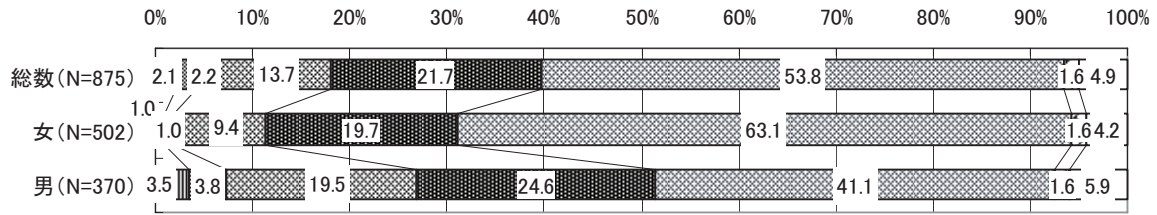


⑤食事のしたく

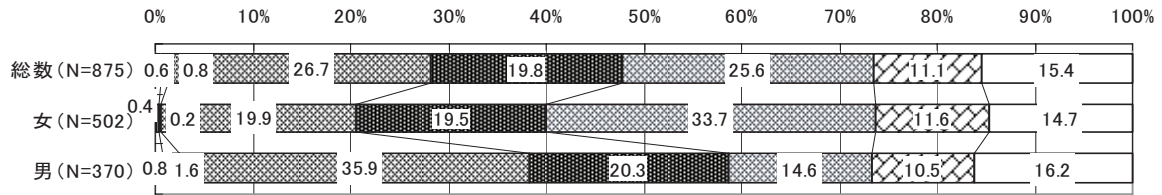


- 主として男性の役割
- どちらかといえば男性の役割
- 両方同じ程度の役割
- どちらかといえば女性の役割
- 主として女性の役割
- その他
- 無回答

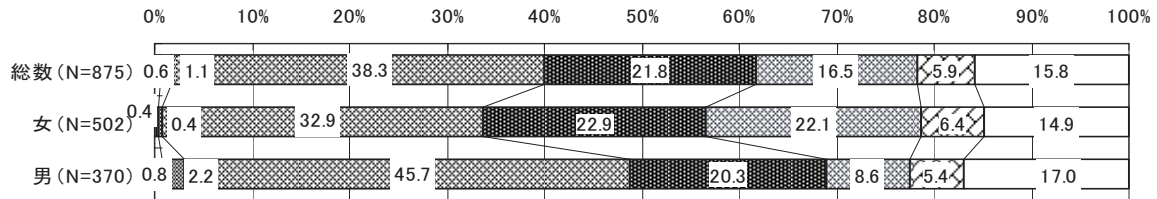
⑥食後の片付け・食器洗い



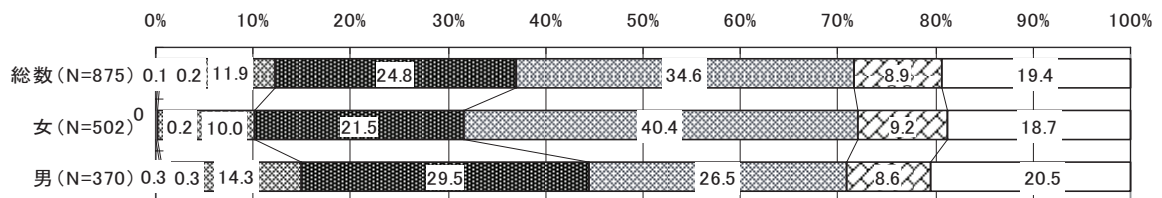
⑦家族の介護や看護



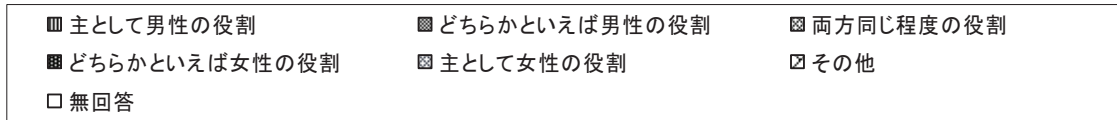
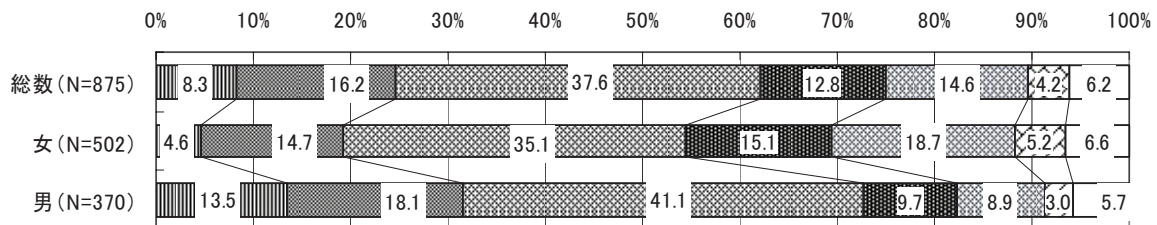
⑧子どもの教育としつけ



⑨育児(乳幼児の世話)



⑩地域活動への参加



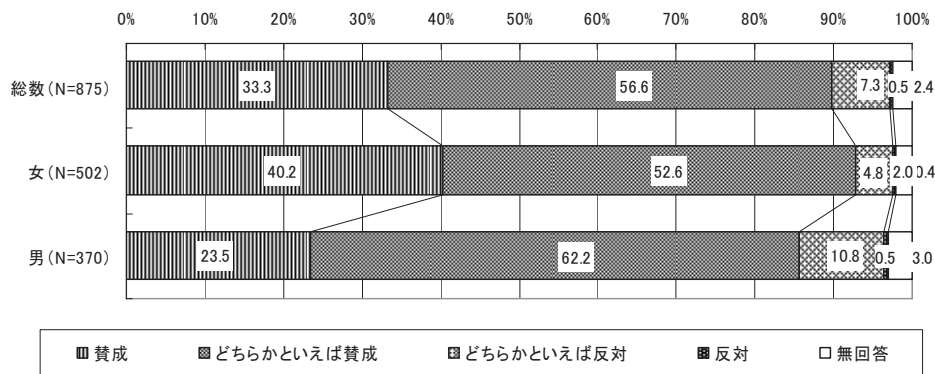
問 19. 「男性がもっと家庭生活に参加する必要がある」という考え方について

「男性がもっと家庭生活に参加する必要がある」という考え方については、「どちらかといえば賛成」が56.6%で最も多く、次いで「賛成」が33.3%で、合わせて賛成層が89.9%を占めている。

【性別】

性別にみると、女性では賛成層が92.8%で男性よりも7.1ポイント高い。

図 19①. 「男性がもっと家庭生活に参加する必要がある」という考え方について

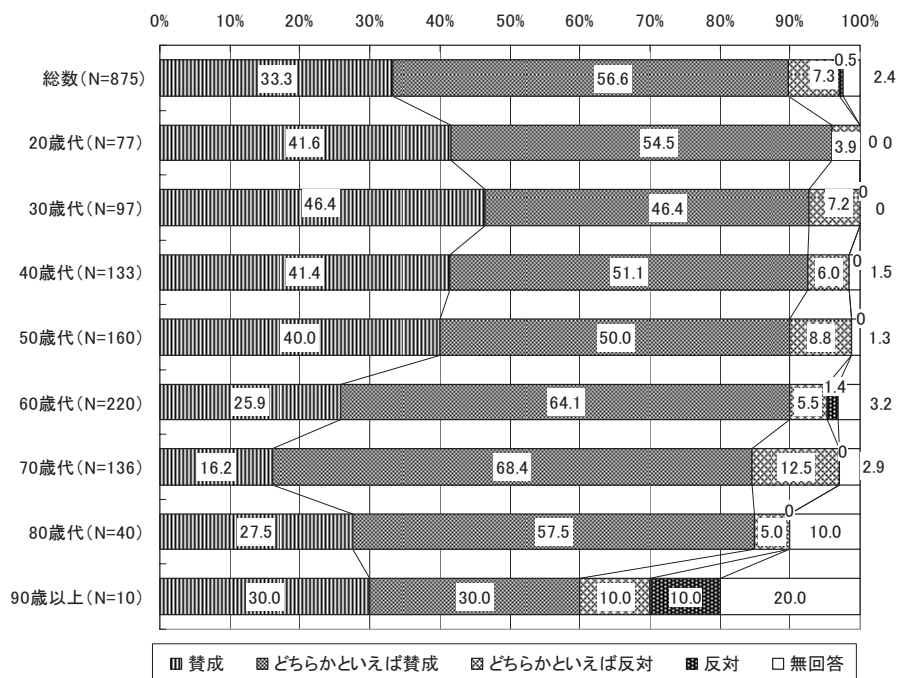


【年代別】

年代別にみると30歳代では「賛成」が46.4%で総数よりも約13ポイント高い。また30歳代から70歳代までは、年齢が高くなる程その割合は減少している。

「どちらかといえば賛成」は70歳代で68.4%と、総数よりも11.8ポイント高くなっている。

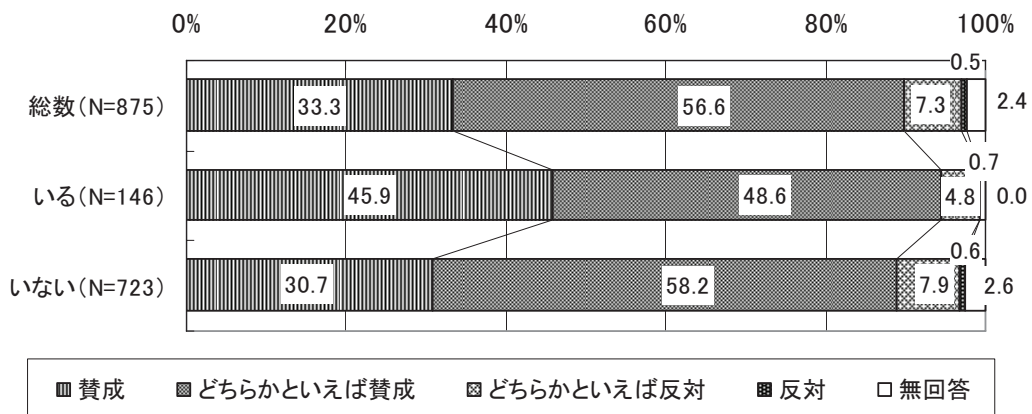
図 19②. 年代別 「男性がもっと家庭生活に参加する必要がある」という考え方について



【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「賛成」が 45.9%で「いない」より 15.2 ポイント高い。

図 19③. 中学生以下の子どもの有無別  
「男性がもっと家庭生活に参加する必要がある」という考え方について





## 問 20. 男性が家事・育児・介護などに参加していくため必要なこと

男性が家事・育児・介護などに参加していくため必要なことについては、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合う」が 45.5%で最も多く、次いで「男性が育児休業制度や介護休業制度を取得しやすい環境を整える」が 45.3%、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める」が 37.1%などとなっている。

### 【性別】

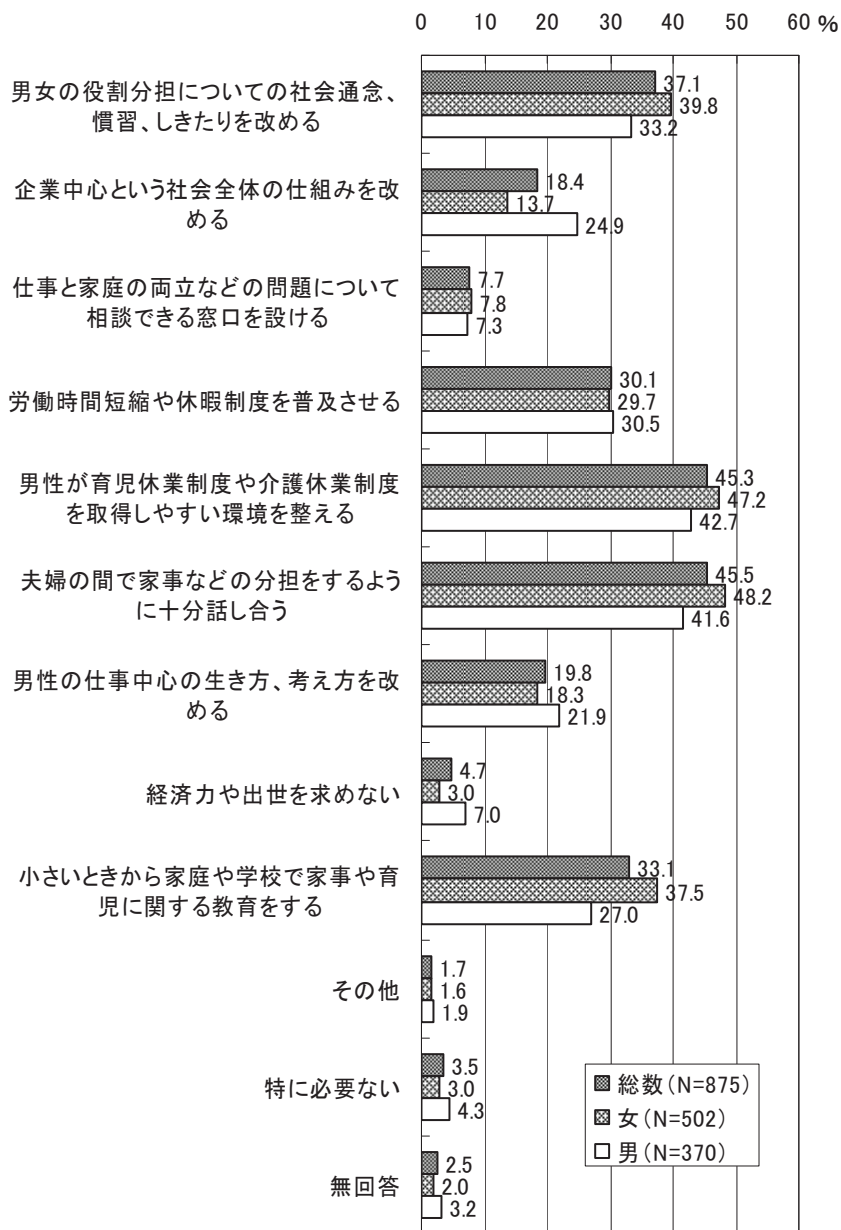
性別にみると、「小さいときから家庭や学校で家事や育児に関する教育をする」は女性で 37.5%で男性よりも 10.5 ポイント高い。

「企業中心という社会全体の仕組みを改める」は男性で 24.9%で女性よりも 11.2 ポイント高い。

### 【前回調査との比較】

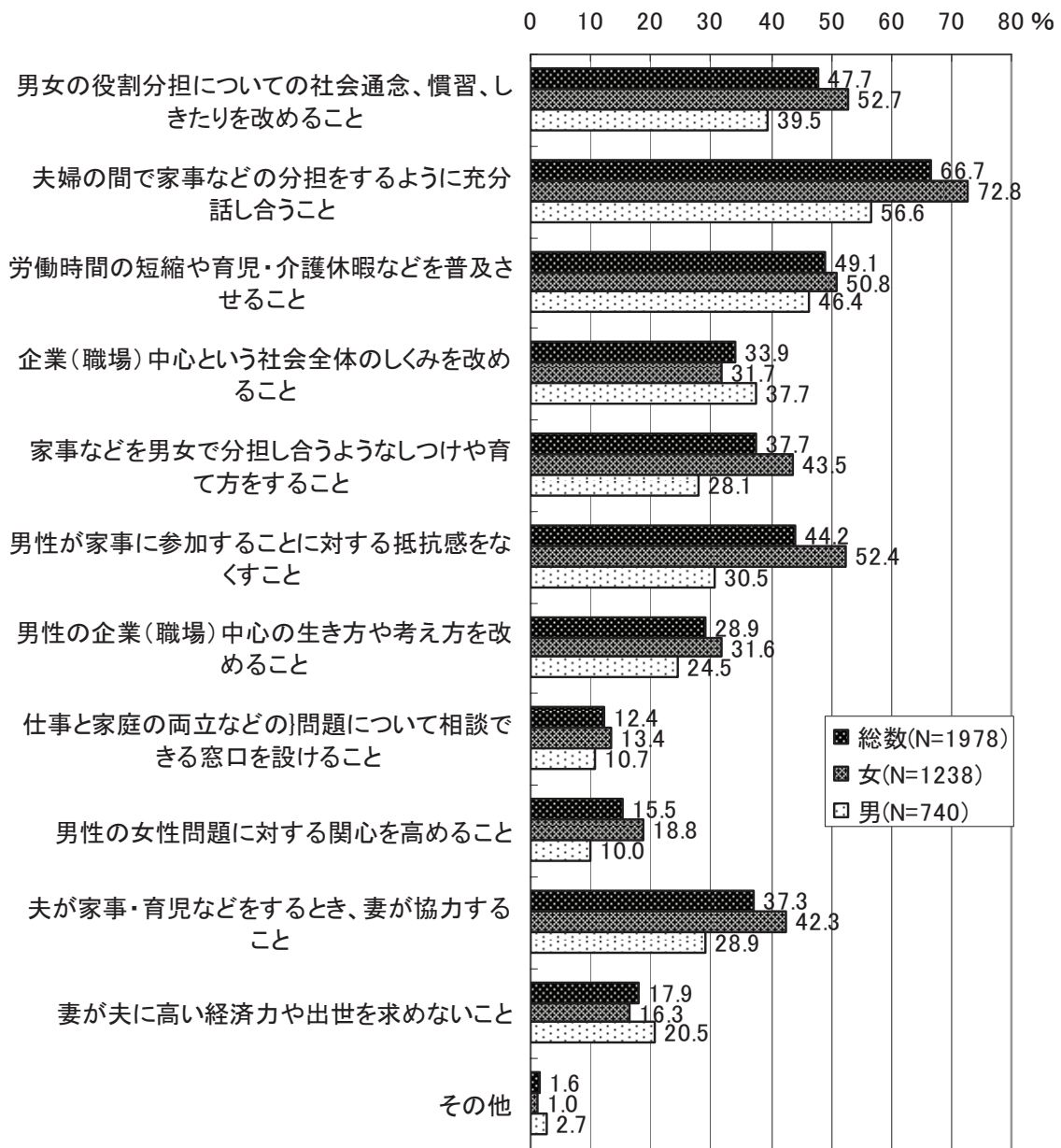
平成 11 年調査の結果と比較すると、「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合う」は総数で 21.2 ポイント減るなど、全項目にわたって前回よりも減っている。その中で、今回の「小さいときから家庭や学校で家事や育児に関する教育をする」に該当する「家事などを男女で分担し合うようなしつけや育て方をすること」の割合の減少は少なく、子どもの教育の重要性は常に変わらないことがうかがえる。

図 20①. 男性が家事・育児・介護に参加していくため必要なこと（複数回答）



平成 11 年調査

問 10 男性が家事・子育てや教育・介護などに参加するために必要な改善（複数回答）



【年代別】

年代別にみると70歳代では「夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合う」が55.9%で総数よりも約10ポイント高い。また80歳代、20歳代も50%を超えて高くなっている。

20歳代では、「男性が育児休業制度や介護休業制度を取得しやすい環境を整える」が63.6%で総数よりも約18ポイント高い。

表2. 年代別 男性が家事・育児・介護に参加していくため必要なこと（複数回答）

	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改める	企業中心という社会全体の仕組みを改める	仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設ける	労働時間短縮や休暇制度を普及させる	男性が育児休業制度や介護休業制度を取得しやすい環境を整える	夫婦の間で家事などの分担をするように十分話し合う
総数(N=875)	37.1	18.4	7.7	30.1	45.3	45.5
20歳代(N=77)	28.6	20.8	3.9	49.4	63.6	50.6
30歳代(N=97)	35.1	24.7	5.2	38.1	41.2	46.4
40歳代(N=133)	41.4	22.6	4.5	34.6	45.9	36.8
50歳代(N=160)	36.3	18.1	8.8	37.5	54.4	36.3
60歳代(N=220)	35.0	20.0	8.6	23.6	45.9	48.6
70歳代(N=136)	41.2	10.3	8.1	13.2	33.1	55.9
80歳代(N=40)	42.5	5.0	20.0	17.5	27.5	52.5
90歳以上(N=10)	50.0	20.0	-	30.0	10.0	20.0

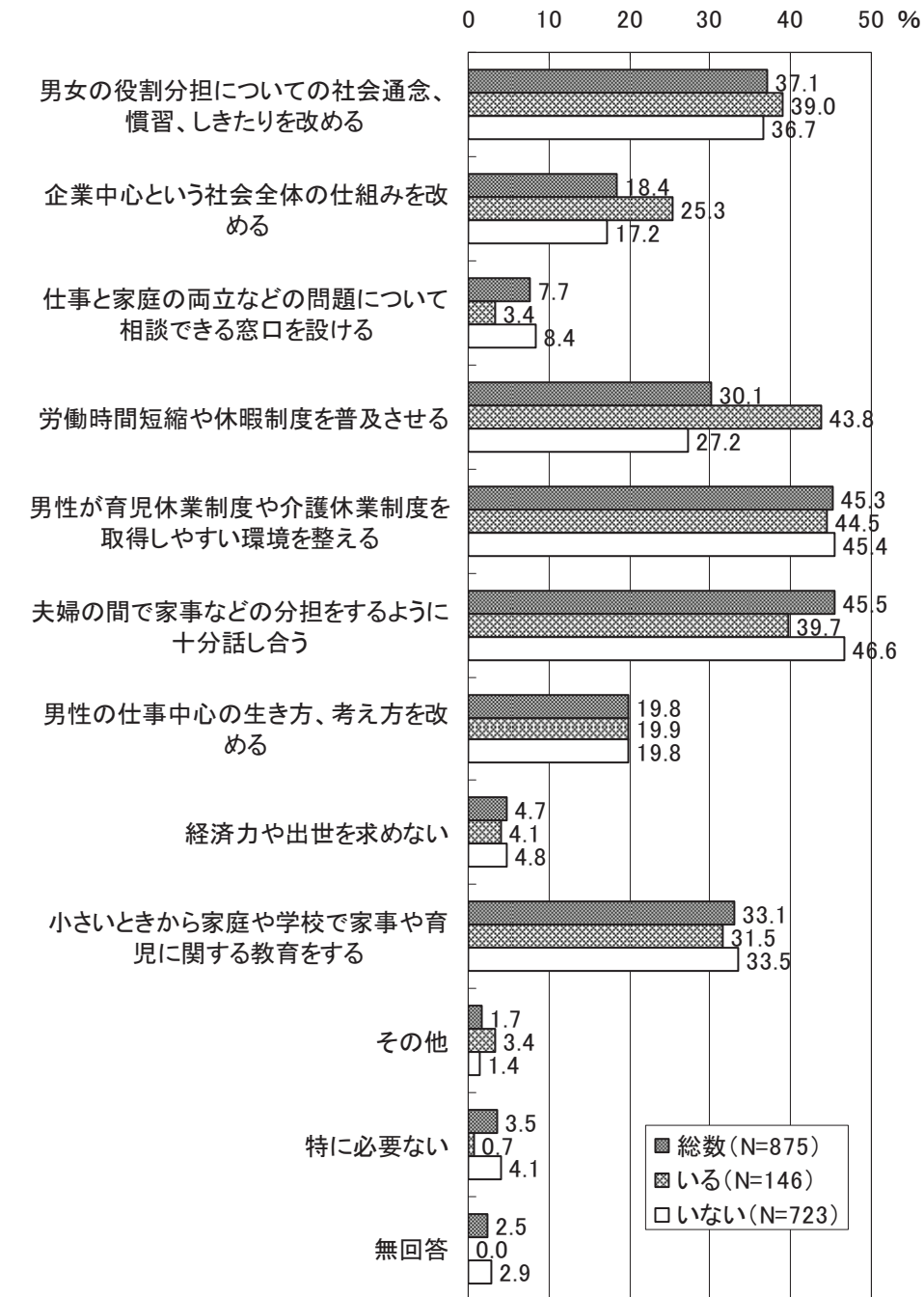
  

	男性の仕事中心の生き方、考え方を改める	経済力や出世を求めない	小さいときから家庭や学校で家事や育児に関する教育をする	その他	特に必要ない	無回答
総数(N=875)	19.8	4.7	33.1	1.7	3.5	2.5
20歳代(N=77)	18.2	5.2	15.6	1.3	1.3	1.3
30歳代(N=97)	17.5	2.1	27.8	3.1	2.1	1.0
40歳代(N=133)	21.1	4.5	32.3	0.8	1.5	-
50歳代(N=160)	24.4	8.1	40.0	1.3	2.5	0.6
60歳代(N=220)	17.7	3.6	35.0	2.3	4.5	3.2
70歳代(N=136)	19.9	5.1	36.0	1.5	6.6	5.9
80歳代(N=40)	15.0	2.5	37.5	2.5	5.0	7.5
90歳以上(N=10)	30.0	-	30.0	-	10.0	10.0

【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「労働時間短縮や休暇制度を普及させる」が43.8%で「いない」より16.6ポイント高い。

図 20②. 中学生以下の子どもの有無別  
男性が家事・育児・介護に参加していくため必要なこと（複数回答）



## 問 21. 育児休業などの制度の利用について

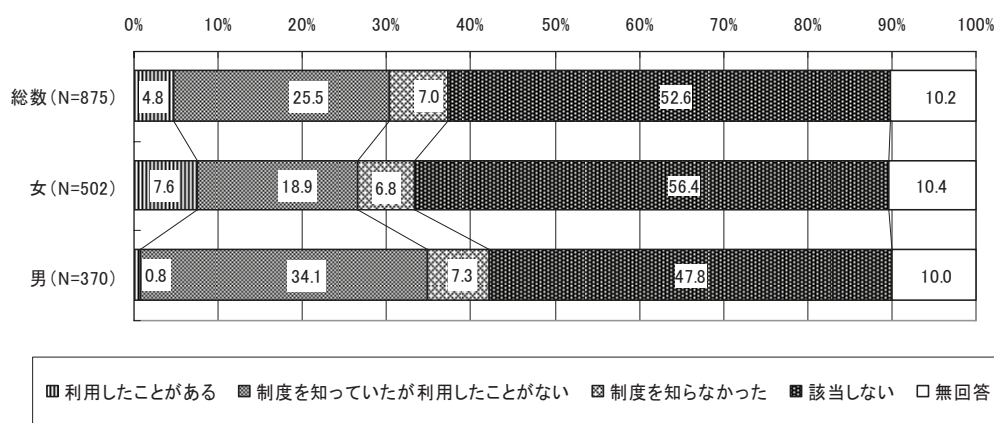
### ①育児休業

育児休業制度の利用について、「利用したことがある」が4.8%、「制度を知っていたが利用したことがない」が25.5%、「制度を知らなかった」が7.0%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、男性では「制度を知っていたが利用したことがない」が34.1%で女性よりも15.2ポイント高い。

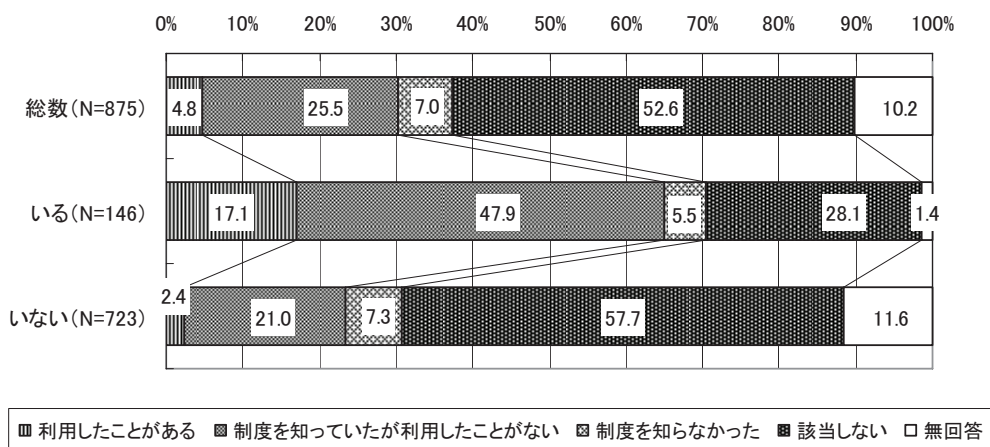
図 21. ①育児休業



#### 【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「制度を知っていたが利用したことがない」が47.9%で「いない」より26.9ポイント高い。

図 21. 中学生以下の子どもの有無別 ①育児休業



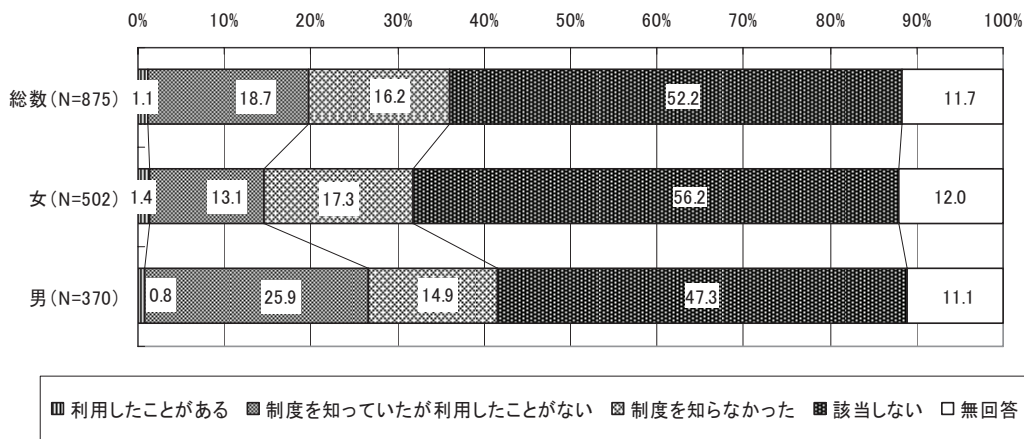
## ②子の看護休暇

子の看護休暇制度の利用について、「利用したことがある」が1.1%、「制度を知っていたが利用したことがない」が18.7%、「制度を知らなかった」が16.2%などとなっている。

### 【性別】

性別にみると、男性では「制度を知っていたが利用したことがない」が25.9%で女性よりも12.8ポイント高い。

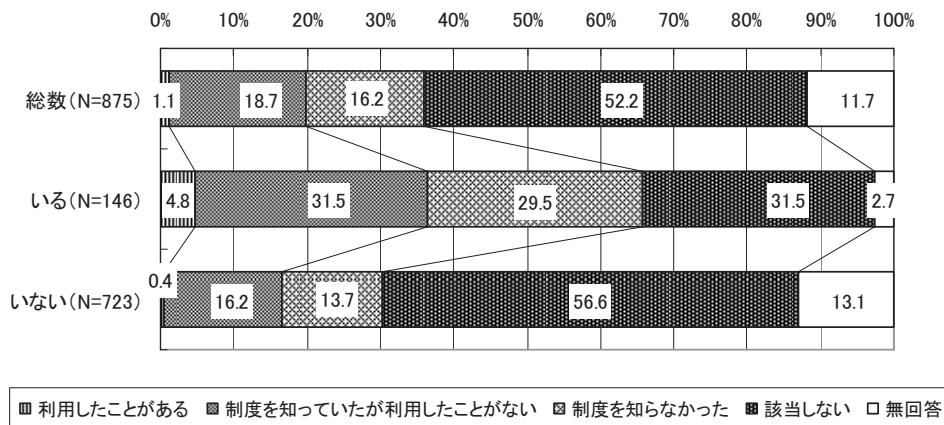
図 21. ②子の看護休暇



### 【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「制度を知っていたが利用したことがない」が31.5%で「いない」より15.3ポイント高い。また「制度を知らなかった」も29.5%で「いない」より15.8ポイント高くなっている。

図 21. 中学生以下の子どもの有無別 ②子の看護休暇



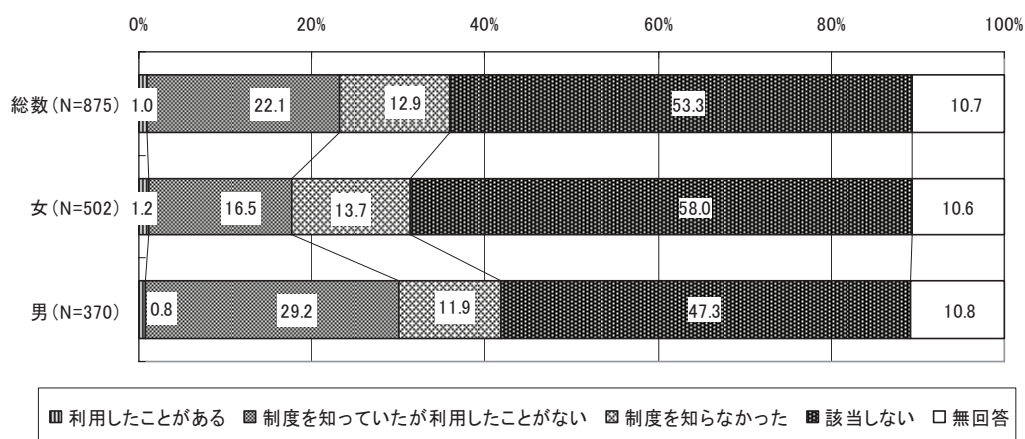
### ③介護休業

介護休業制度の利用について、「利用したことがある」が1.0%、「制度を知っていたが利用したことがない」が22.1%、「制度を知らなかった」が12.9%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、男性では「制度を知っていたが利用したことがない」が29.2%で女性よりも12.7ポイント高い。

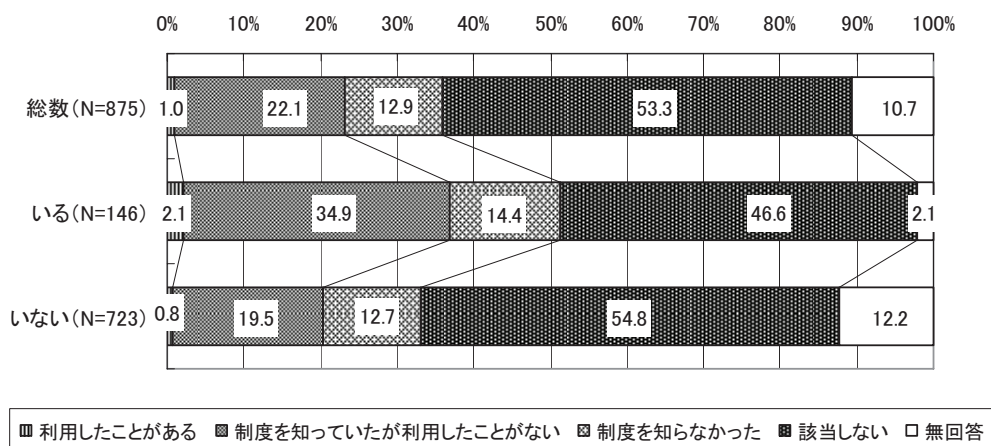
図 21. ③介護休業



#### 【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「制度を知っていたが利用したことがない」が34.9%で「いない」より15.4ポイント高い。

図 21. 中学生以下の子どもの有無別 ③介護休業





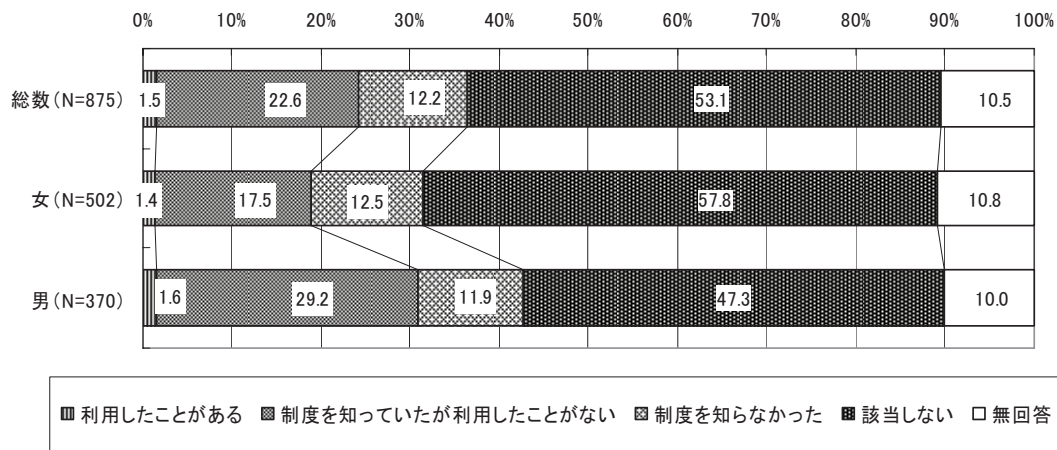
#### ④介護休暇

介護休暇制度の利用について、「利用したことがある」が1.5%、「制度を知っていたが利用したことがない」が22.6%、「制度を知らなかった」が12.2%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、男性では「制度を知っていたが利用したことがない」が29.2%で女性よりも11.7ポイント高い。

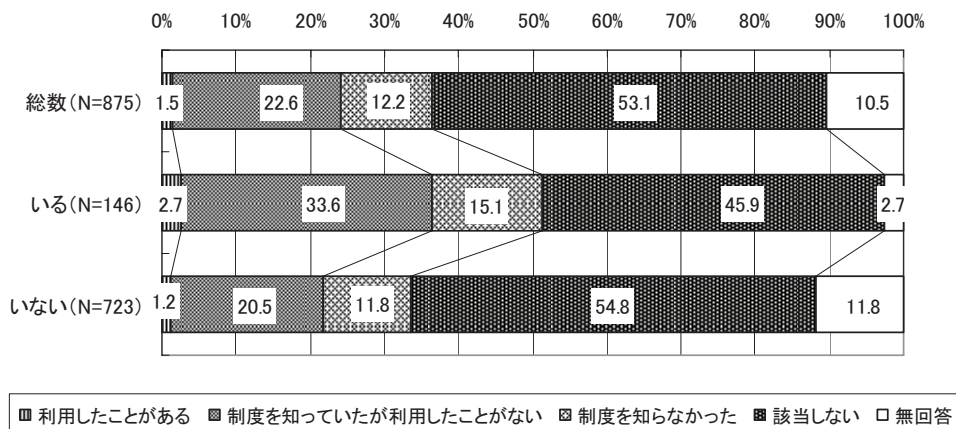
図 21. ④介護休暇



#### 【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「制度を知っていたが利用したことがない」が33.6%で「いない」より13.1ポイント高い。

図 21. 中学生以下の子どもの有無別 ④介護休暇



## 問 22. 制度を利用したことがない理由

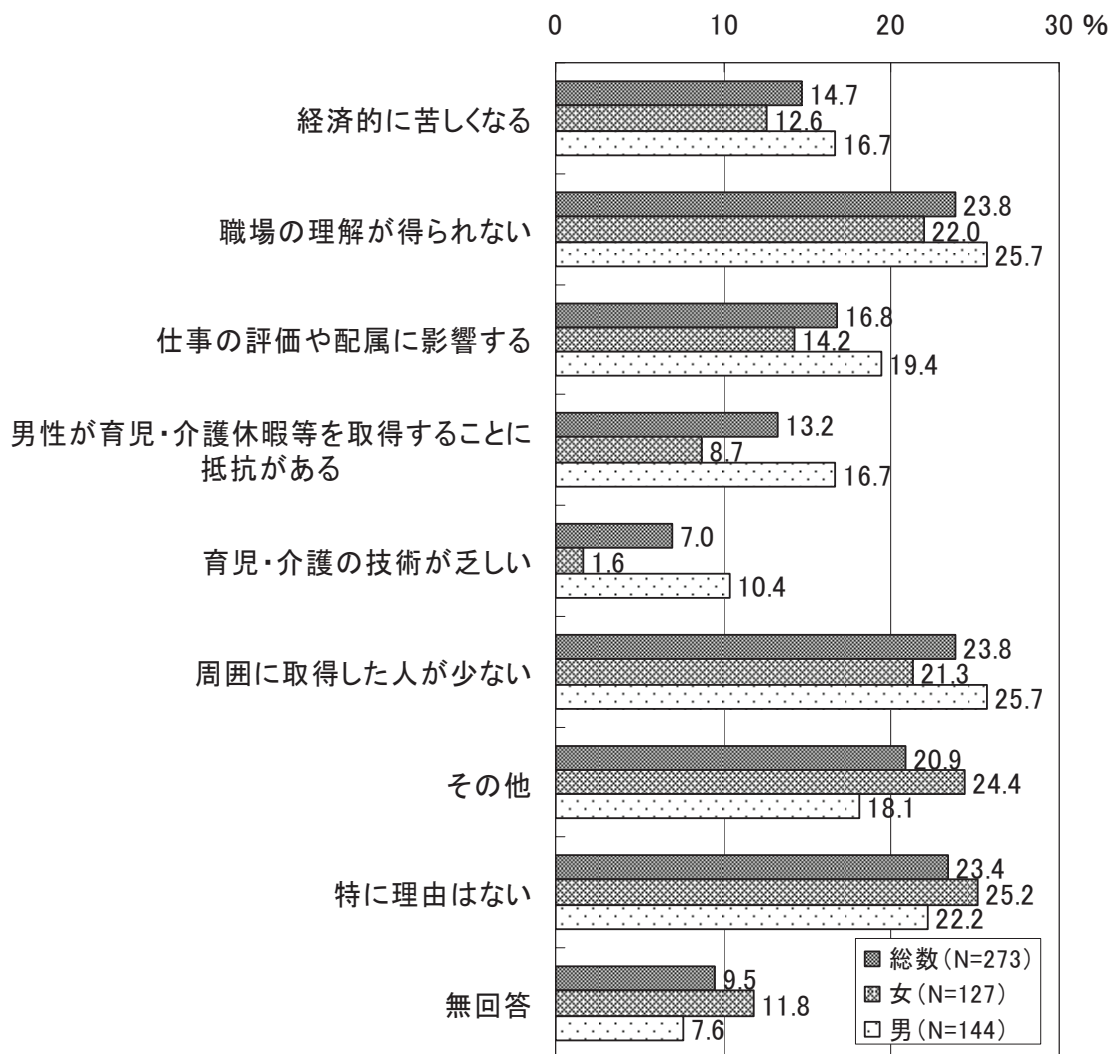
育児休業及び介護休業について「利用したことがない」と答えた方の理由については、「職場の理解が得られない」及び「周囲に取得した人がいない」がいずれも 23.8%で最も多く、次いで「特に理由はない」が 23.4%、「仕事の評価や配属に影響する」が 16.8%などとなっている。

### 【性別】

性別にみると、「男性が育児・介護休暇等を取得することに抵抗がある」は男性が 16.7%で女性よりも 8 ポイント高い。

「育児・介護の技術が乏しい」は男性が 10.4%で女性よりも 8.8 ポイント高い。

図 22. 制度を利用したことがない理由（複数回答）



## 問 23. 家庭における子どもの教育方針について

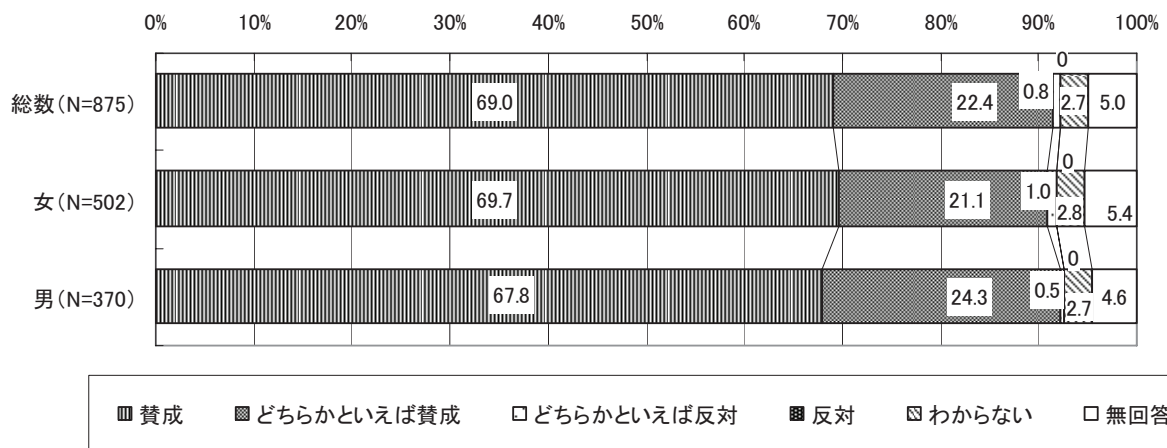
### ①性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方がよい

「性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方がよい」については、「賛成」が 69.0%で最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が 22.4%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、大差はない。

図 23. ①性別にこだわらず、子どもの個性を伸ばす方がよい



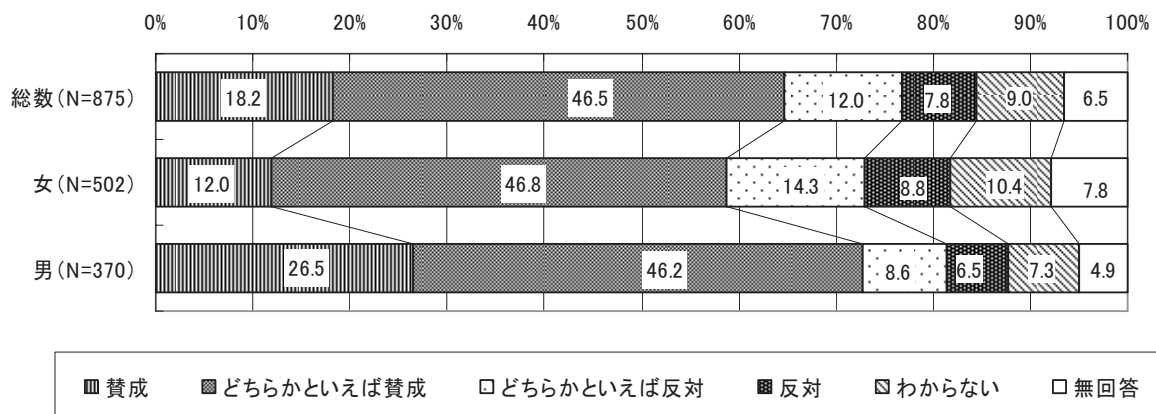
### ②女の子は女らしく、男の子は男らしく、しつけるのがよい

「女の子は女らしく、男の子は男らしく、しつけるのがよい」については、「どちらかといえば賛成」が 46.5%で最も多く、次いで「賛成」が 18.2%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、男性では「賛成」「どちらかといえば賛成」合わせた賛成層は 72.7%で女性よりも 13.9 ポイント高い。

図 23. ②女の子は女らしく、男の子は男らしく、しつけるのがよい



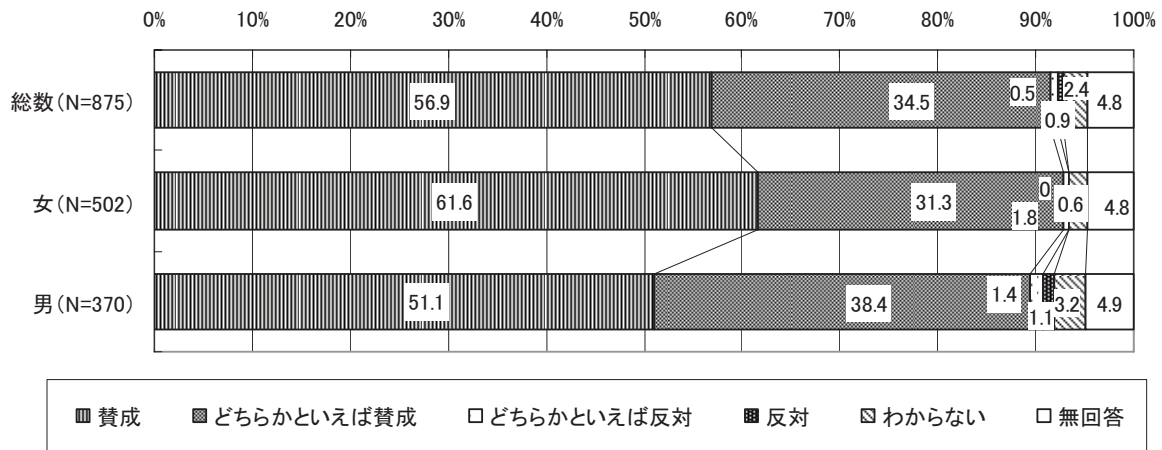
### ③性別にこだわらず、身の回りの家事ができるように育てるのがよい

「性別にこだわらず、身の回りの家事ができるように育てるのがよい」については、「賛成」が56.9%で最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が34.5%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性、男性とも賛成層は約9割あり大差はない。

図 23. ③性別にこだわらず、身の回りの家事ができるように育てるのがよい



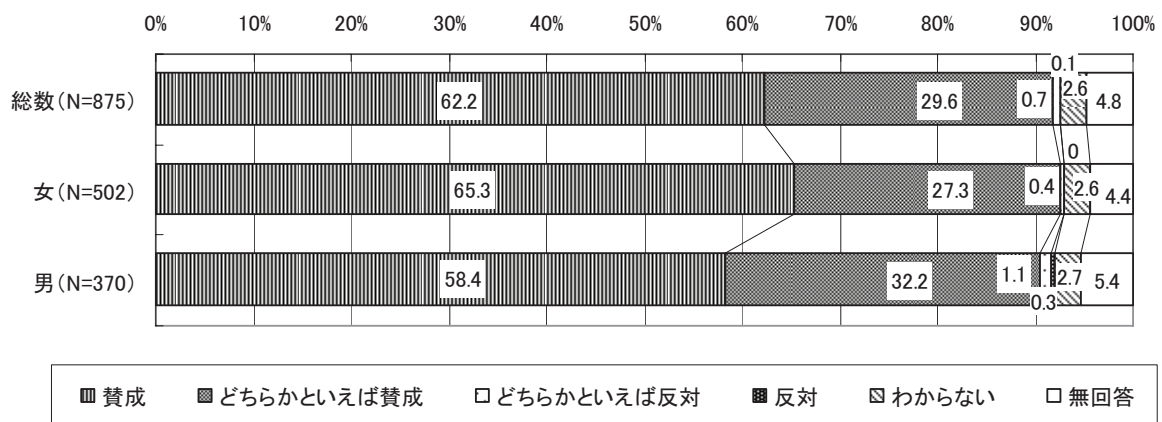
### ④性別にこだわらず、経済的に自立できるように育てるのがよい

「性別にこだわらず、経済的に自立できるように育てるのがよい」については、「賛成」が62.2%で最も多く、次いで「どちらかといえば賛成」が29.6%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性、男性とも賛成層は約9割あり大差はない。

図 23. ④性別にこだわらず、経済的に自立できるように育てるのがよい



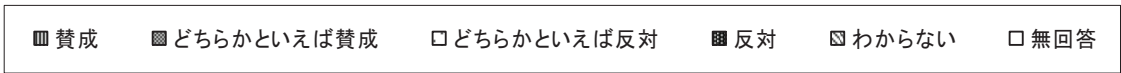
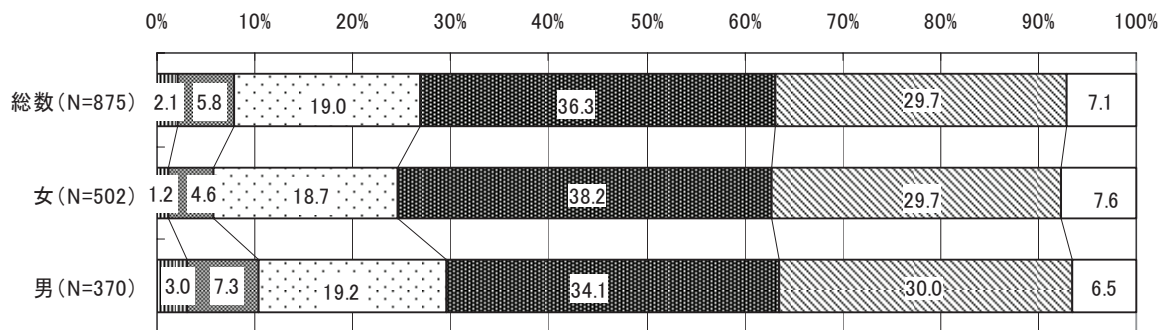
⑤男の子は理科系、女の子は文科系に進んだほうがよい

「男の子は理科系、女の子は文科系に進んだほうがよい」については、「反対」が 36.3%で最も多く、次いで「わからない」が 29.7%などとなっている。

【性別】

性別にみると、大差はない。

図 23. ⑤男の子は理科系、女の子は文科系に進んだほうがよい



## 4. 防災・災害対応について

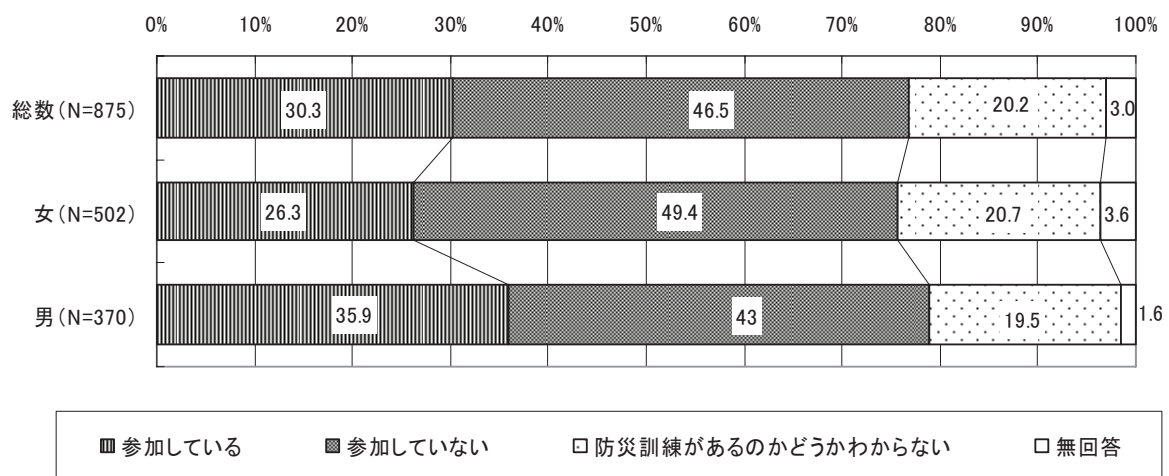
### 問 24. 防災訓練への参加

地域における防災訓練への参加については、「参加している」が 30.3%で、「参加していない」が 46.5%となっている。

#### 【性別】

性別にみると、男性では「参加している」が 35.9%で女性よりも 9.6 ポイント高い。

図 24①. 防災訓練への参加

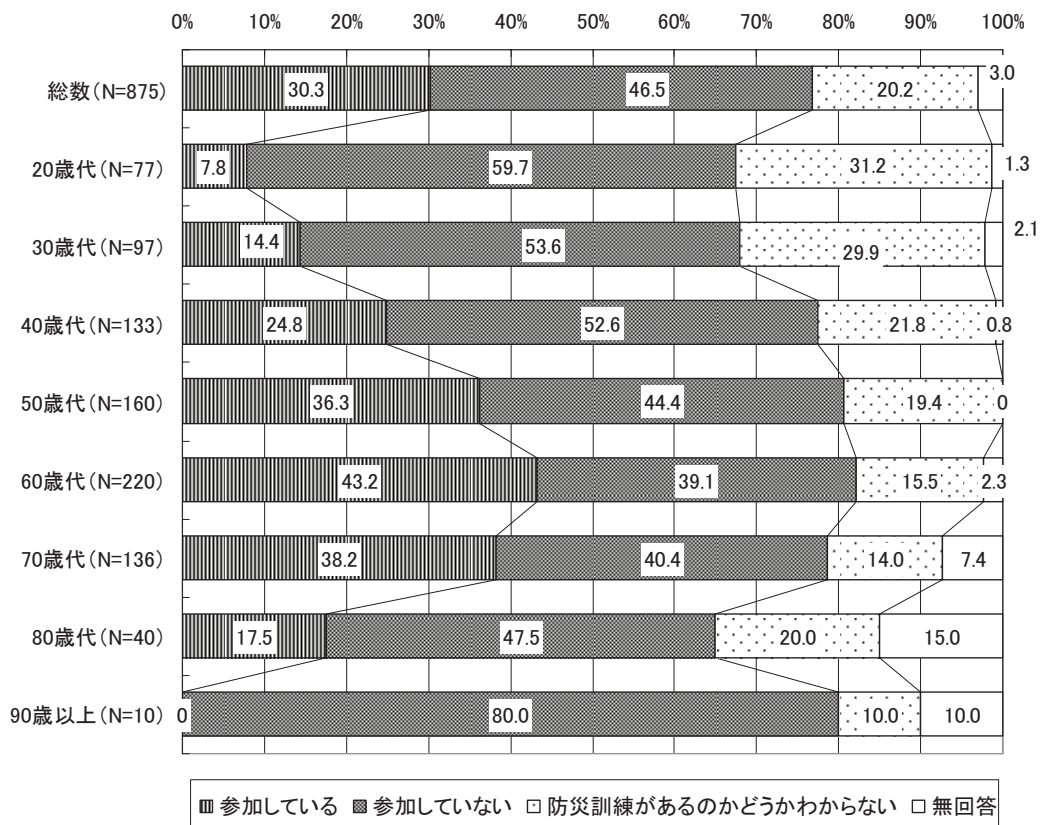


【年代別】

年代別にみると60歳代では「参加している」が43.2%で総数よりも約13ポイント高く、60歳代まででは年齢が高くなる程、割合は高くなっている。また60歳代以上では年齢が高くなる程、割合が減少している。

20歳代では、「防災訓練があるのかわからない」が31.2%で総数よりも11ポイント高く、20歳代から70歳代まででは年齢が高くなる程、その割合は低くなり、若年層ほど認知度が低いことが伺える。

図 24②. 年代別 防災訓練への参加



## 問 25. 災害時における避難所で女性に対して大切と思うこと

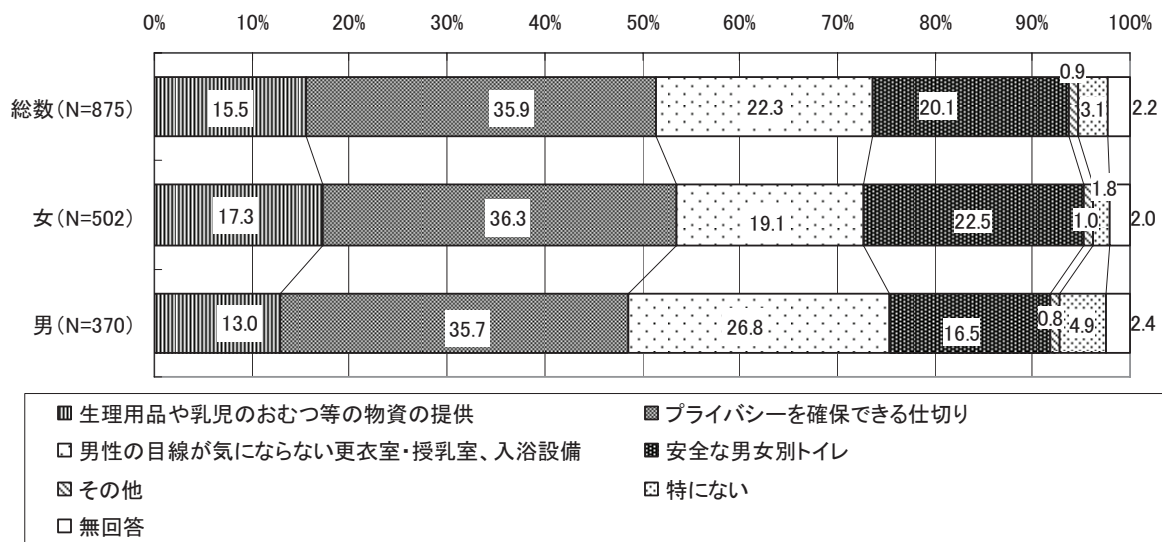
### (1) 災害時における避難所での個人的な希望

災害時における避難所での個人的な希望については、「プライバシーを確保できる仕切り」が 35.9%で最も多く、次いで「男性の視線が気にならない更衣室・授乳室、入浴設備」が 22.3%、「安全な男女別トイレ」が 20.1%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、男性では「男性の視線が気にならない更衣室・授乳室、入浴設備」が 26.8%で女性よりも 7.7 ポイント高い。

図 25. (1) 災害時における避難所での個人的な希望





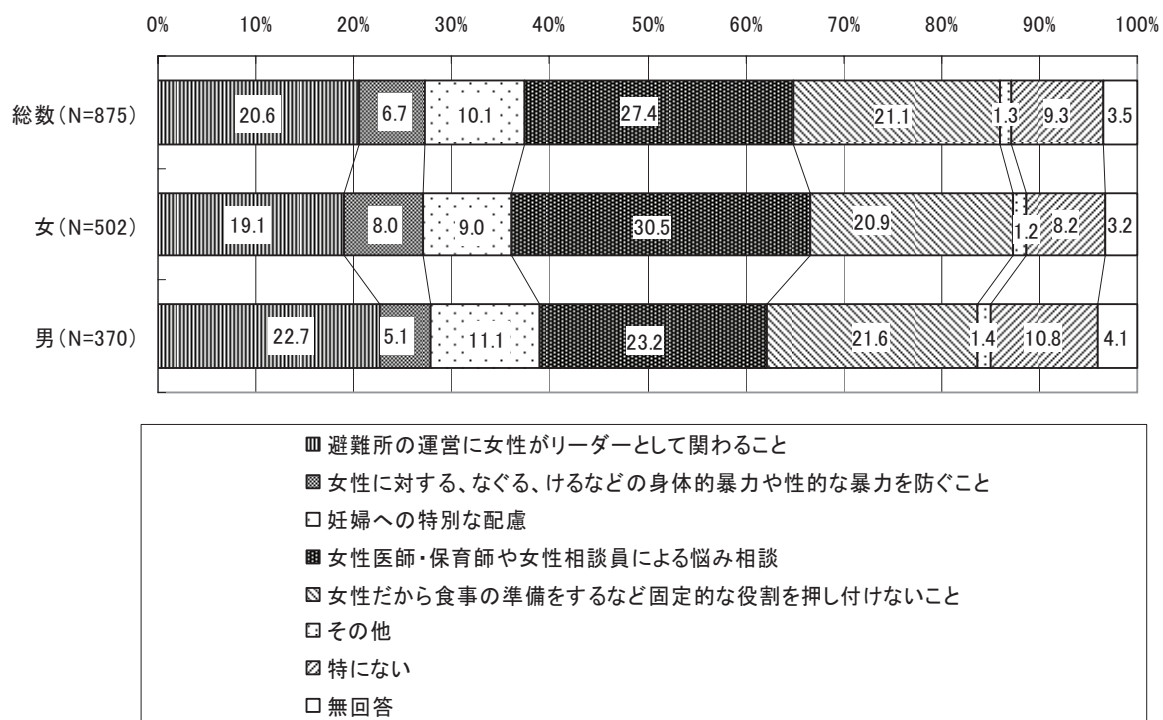
## (2) 災害時における避難所での運営について

災害時における避難所での運営については、「女性医師・保育師や女性相談員による悩み相談」が27.4%で最も多く、次いで「女性だから食事の準備をするなど固定的な役割を押し付けないこと」が21.1%、「避難所の運営に女性がリーダーとして関わること」が20.6%などとなっている。

### 【性別】

性別にみると、女性では「女性医師・保育師や女性相談員による悩み相談」が30.5%で男性よりも7.3ポイント高い。

図 25. (2) 災害時における避難所での運営について



## 5. セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメントについて

### 問 26. セクシャル・ハラスメント及びパワー・ハラスメントの被害経験

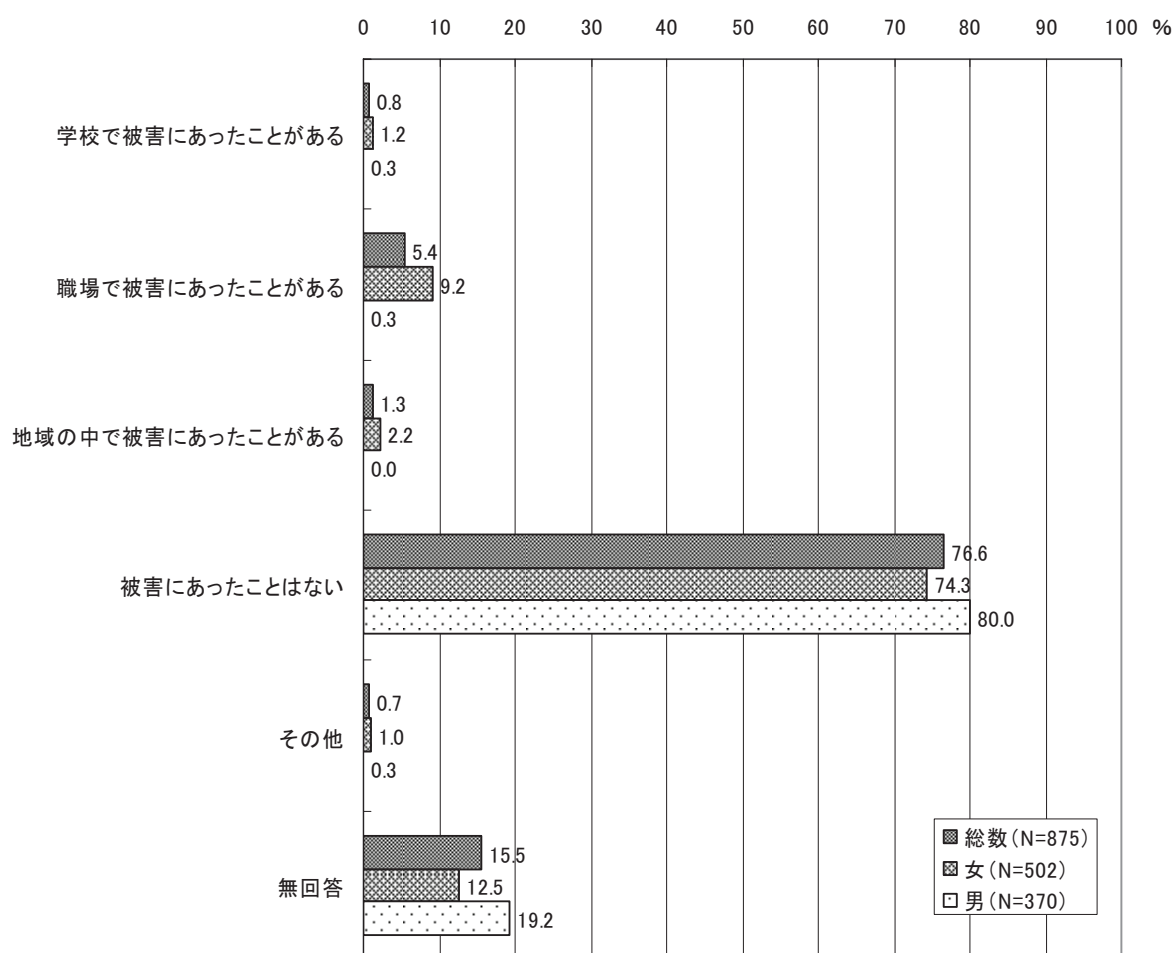
#### ①セクシャル・ハラスメントの被害経験の有無

セクシャル・ハラスメントの被害経験の有無については、「職場で被害にあったことがある」が5.4%で最も多く、次いで「地域の中で被害にあったことがある」が1.3%、「学校で被害にあったことがある」が0.8%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性では「職場で被害にあったことがある」が9.2%で男性よりも8.9ポイント高い。

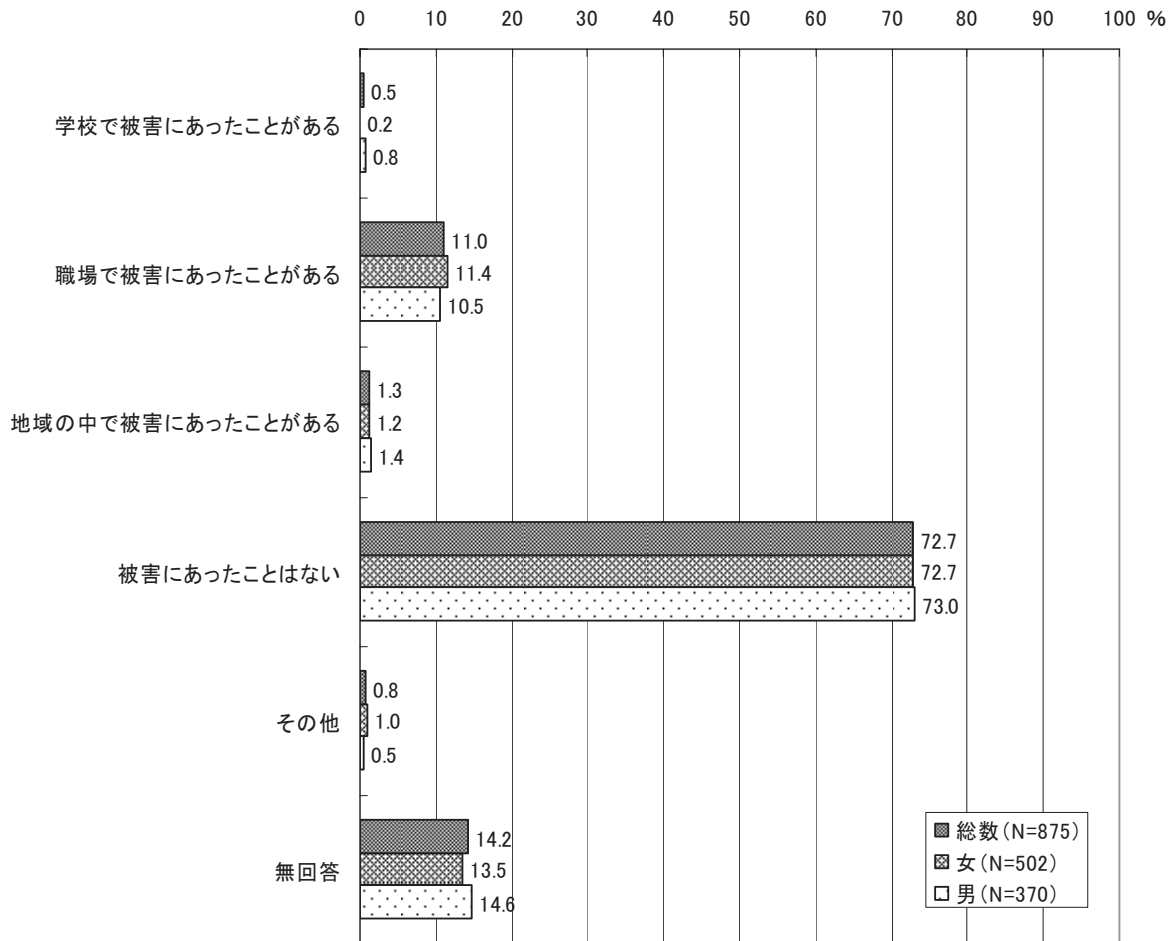
図 26. セクシャル・ハラスメントの被害経験の有無（複数回答）



## ②パワー・ハラスメントの被害経験の有無

パワー・ハラスメントの被害経験の有無については、「職場で被害にあったことがある」が11.0%で最も多く、次いで「地域の中で被害にあったことがある」が1.3%、「学校で被害にあったことがある」が0.5%などとなっている。

図 26. パワー・ハラスメントの被害経験の有無（複数回答）

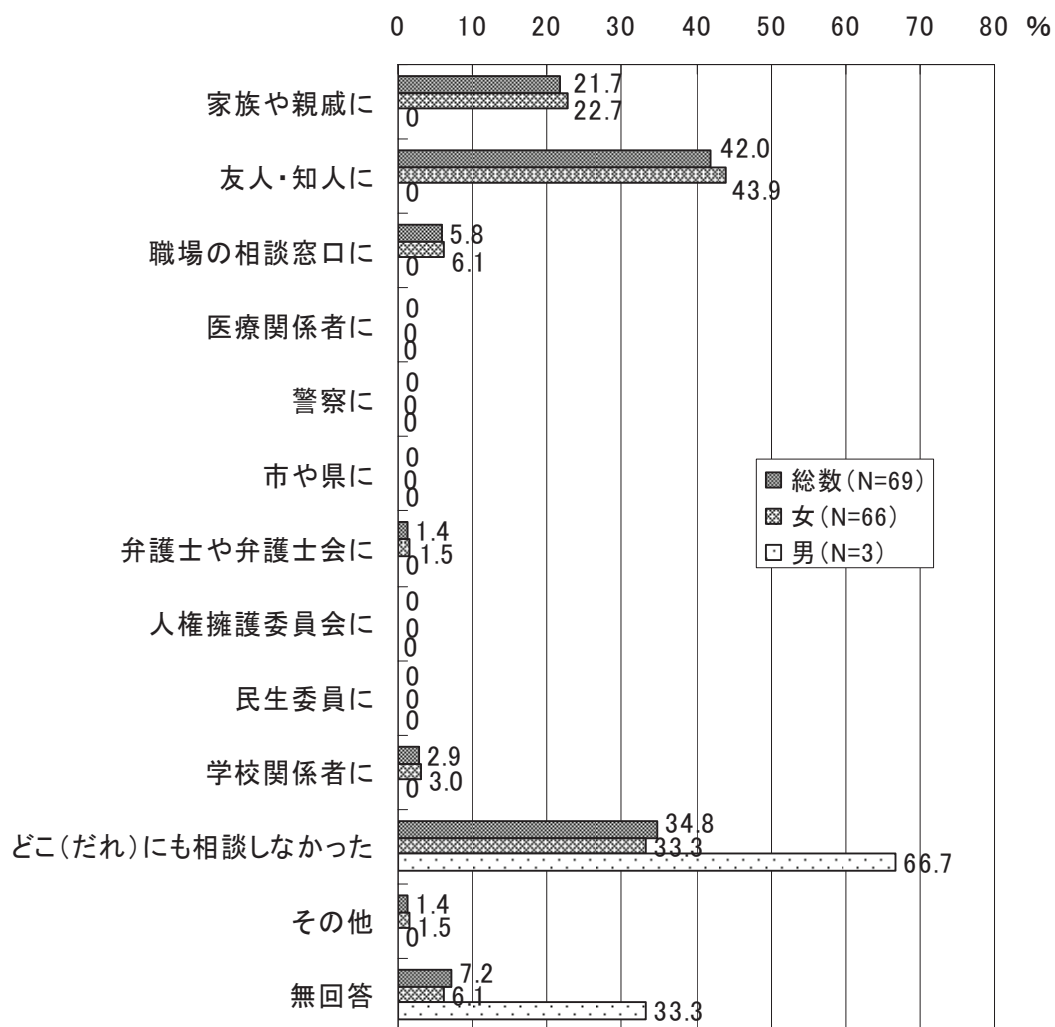


問 26 (1) セクシャル・ハラスメント及びパワー・ハラスメントの被害の相談

①セクシャル・ハラスメントの被害にあった時の相談相手・場所

セクシャル・ハラスメントの被害にあった時の相談相手・場所については、「友人・知人に」が42.0%で最も多く、次いで「どこ（だれ）にも相談しなかった」が34.8%、「家族や親戚に」が21.7%などとなっている。

図 26. セクシャル・ハラスメントの被害にあった時の相談相手・場所（複数回答）



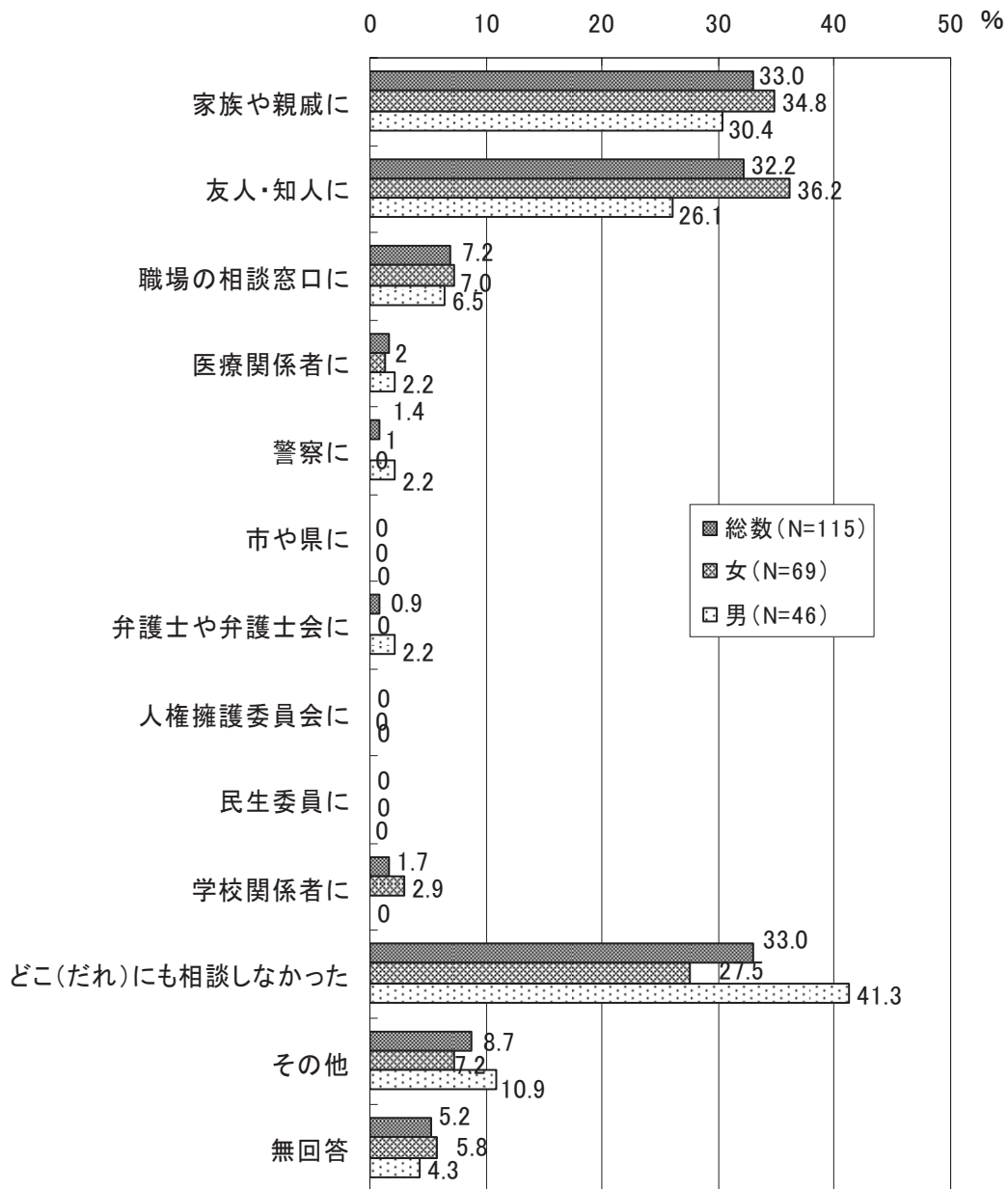
## ②パワー・ハラスメントの被害にあった時の相談相手・場所

パワー・ハラスメントの被害にあった時の相談相手・場所については、「家族や親戚に」及び「どこ（だれ）にも相談しなかった」がいずれも33.0%、「友人・知人に」が32.2%などとなっている。

### 【性別】

性別にみると、女性では「友人・知人に」が36.2%で男性よりも10.1ポイント高い。男性では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が41.3%で女性よりも13.8ポイント高い。

図 26. パワー・ハラスメントの被害にあった時の相談相手・場所（複数回答）



## 6. ドメスティック・バイオレンス（DV）について

### 問 27. 「夫（または妻）、恋人からの暴力」（DV）について

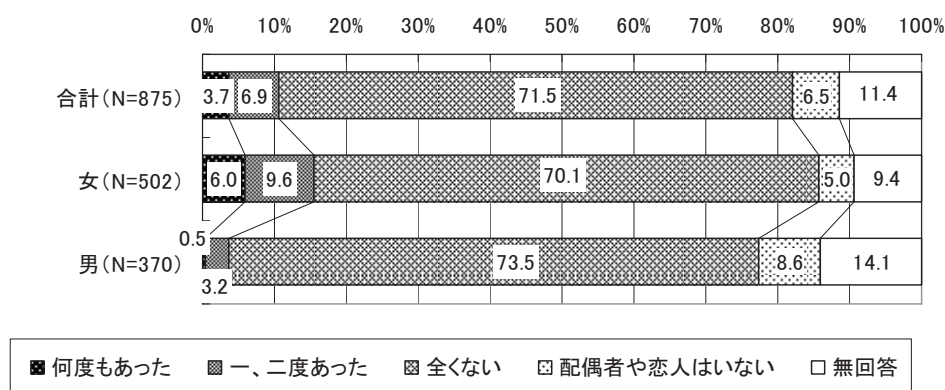
#### ①身体に対する暴力

「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの身体に対する暴行を受けた」については、「あった」が 3.7%、「一、二度あった」が 6.9%で、被害者は合わせて 10.6%となっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性では「何度もあった」「一、二度あった」あわせた被害者の割合は 15.6%で男性よりも 11.9 ポイント高い。

図 27. ①身体に対する暴力



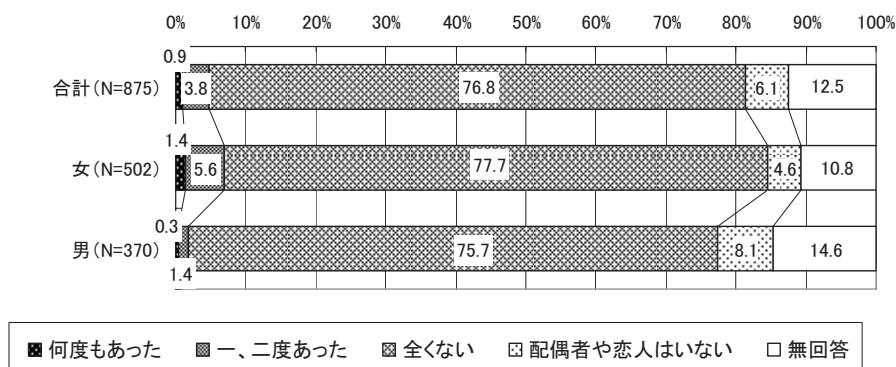
#### ②恐怖を感じる脅迫

「あなた又はあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた」については、「あった」が 0.9%、「一、二度あった」が 3.8%で、被害者は合わせて 4.7%となっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性では「何度もあった」「一、二度あった」あわせた被害者の割合は 7.0%で男性よりも 5.3 ポイント高い。

図 27. ②恐怖を感じる脅迫



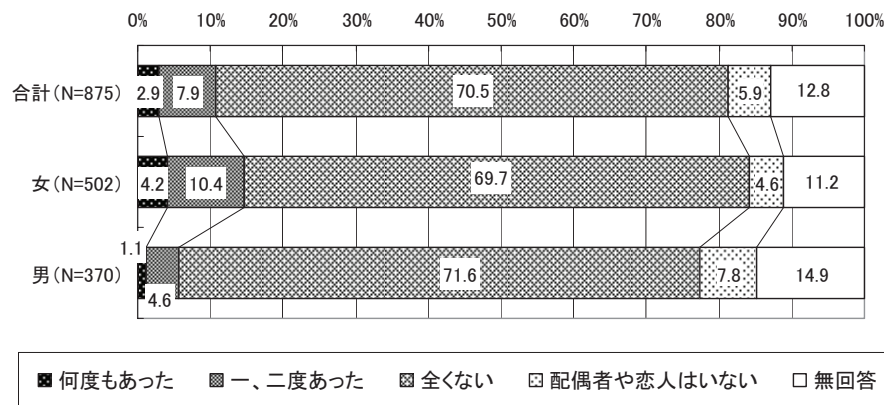
### ③精神的な嫌がらせ

「大切にしているものを壊す、人格を否定したりするような暴言や無視するなどの精神的ないやがらせを受けた」については、「あった」が2.9%、「一、二度あった」が7.9%で、被害者は合わせて10.8%となっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性では「何度もあった」「一、二度あった」あわせて被害者の割合は14.6%で男性よりも8.9ポイント高い。

図 27. ③精神的な嫌がらせ



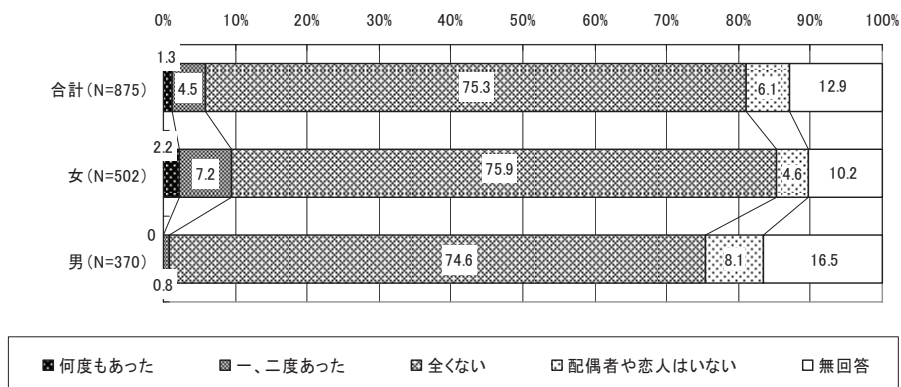
### ④性的暴力

「いやがっているのに性的な行為を強要する、避妊に協力しないなどの性的暴力を受けた」については、「あった」が1.3%、「一、二度あった」が4.5%で、被害者は合わせて5.8%となっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性では「何度もあった」「一、二度あった」あわせて被害者の割合は9.4%で男性よりも8.6ポイント高い。

図 27. ④性的暴力



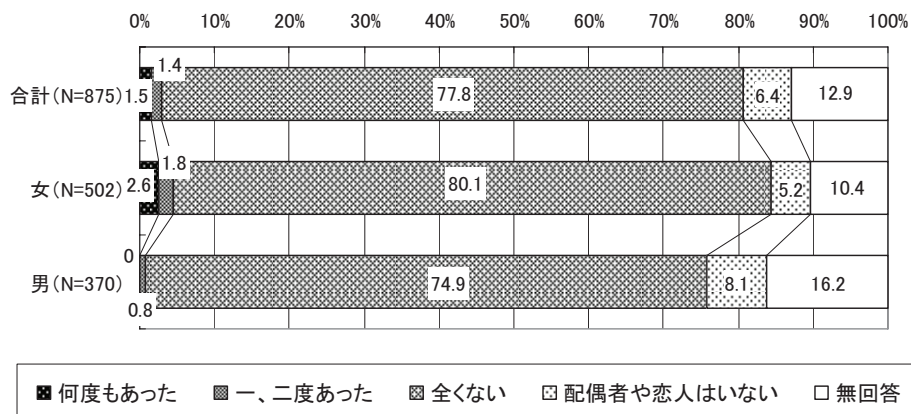
### ⑤経済的な制約

「生活費を渡さない、働きに行かせないなどの経済的な制約を受けた」については、「あった」が1.5%、「一、二度あった」が1.4%で、被害者は合わせて2.9%となっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性では「何度もあった」「一、二度あった」あわせた被害者の割合は4.4%で男性よりも3.6ポイント高い。

図 27. ⑤経済的な制約



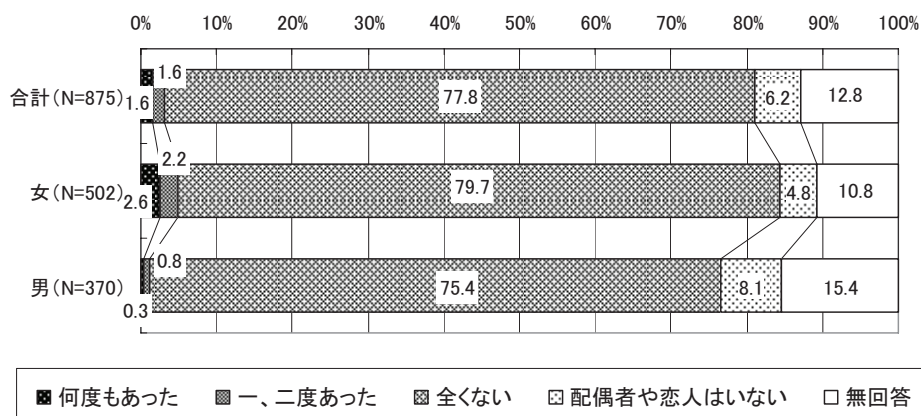
### ⑥束縛

「電話や手紙を細かくチェックする、交友関係や外出を制限する、実家や友人に会わせないなどの制約を受けた」については、「あった」が1.6%、「一、二度あった」が1.6%で、被害者は合わせて3.2%となっている。

#### 【性別】

性別にみると、女性では「何どもあった」「一、二度あった」あわせた被害者の割合は4.8%で男性よりも3.7ポイント高い。

図 27. ⑥束縛





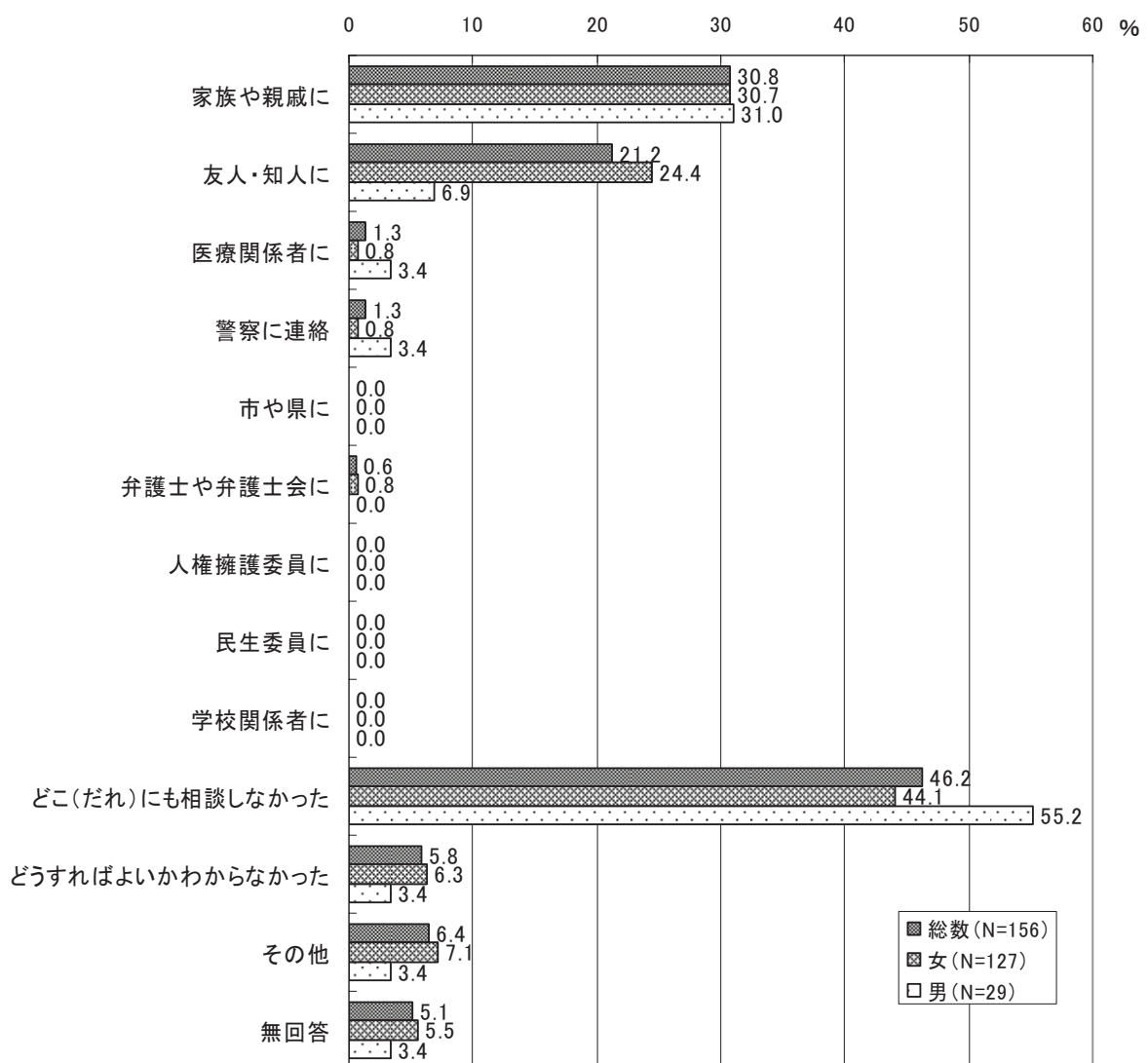
### 問 27. (1) DV の相談相手や相談場所

DVを受けた後の相談については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が46.2%で最も多く、次いで「家族や親戚に」が30.8%、「友人・知人に」が21.2%などとなっている。

#### 【性別】

性別にみると、男性では「どこ（だれ）にも相談しなかった」が55.2%で女性よりも11.1ポイント高い。

図 27. (1) DV の相談相手や相談場所（複数回答）



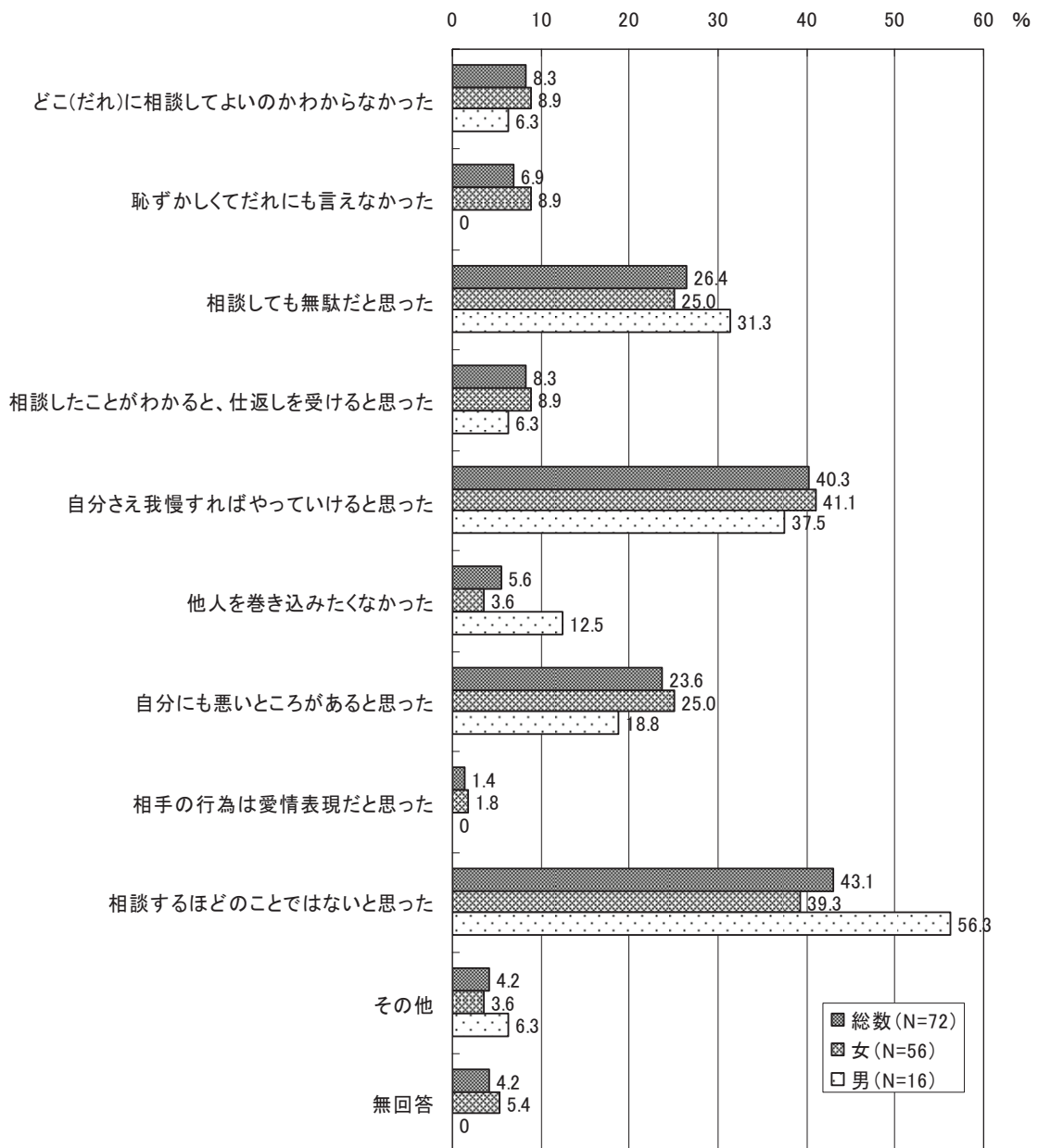
## 問 27. (2) 相談しなかった理由

どこ（だれ）にも相談しなかった理由は、「相談するほどではないと思った」が 43.1%で最も多く、次いで「自分さえ我慢すればやっていけると思った」が 40.3%、「相談しても無駄と思った」が 26.4%などとなっている。

### 【性別】

性別にみると、男性では「相談するほどではないと思った」が 56.3%で女性よりも 17ポイント高い。

図 27. (2) 相談しなかった理由（複数回答）



## 7. 男女共同参画に対する考えについて

### 問 28. 橋本市及び自分の周りでの男女の地位について

#### ①家庭生活で

「家庭生活で」は、「男性が優遇されている」8.3%で、「どちらかというとなりが優遇されている」が35.0%で、合わせて男性が優遇されていると考えている人は43.3%などとなっている。

##### 【性別】

性別にみると、女性では「男性が優遇されている」「どちらかというとなりが優遇されている」を合わせた男性が優遇されていると考えている人は46.9%で男性よりも8.6ポイント高い。

「平等である」は男性で43.0%で女性よりも13.9ポイント高い。

#### ②職場の中で

「職場の中で」は、「男性が優遇されている」11.2%で、「どちらかというとなりが優遇されている」が34.3%で、合わせて男性が優遇されていると考えている人は45.5%などとなっている。

##### 【性別】

性別にみると、男性では「平等である」が27.8%で女性よりも10.7ポイント高い。

#### ③地域活動の場で

「地域活動の場で」は、「男性が優遇されている」6.7%で、「どちらかというとなりが優遇されている」が28.5%で、合わせて男性が優遇されていると考えている人は35.2%などとなっている。

##### 【性別】

性別にみると、女性では「男性が優遇されている」「どちらかというとなりが優遇されている」を合わせた男性が優遇されていると考えている人は37.5%で男性よりも5.6ポイント高い。

「平等である」は男性で42.2%で女性よりも16.9ポイント高い。

#### ④学校教育の場で

「学校教育の場で」は、「平等である」が40.5%で、「どちらかというとなりが優遇されている」が12.5%などとなっている。

##### 【性別】

性別にみると、男性では「平等である」が45.7%で女性よりも9.2ポイント高い。

#### ⑤政治の場で

「政治の場で」は、「男性が優遇されている」18.2%で、「どちらかというとなりが優遇されている」が35.2%で、合わせて男性が優遇されていると考えている人は53.4%などとなっている。

##### 【性別】

性別にみると、女性では「男性が優遇されている」「どちらかというとなりが優遇されて

いる」を合わせた男性が優遇されていると考えている人は 55.6%で男性よりも 5.3 ポイント高い。

「平等である」は男性で 22.7%で女性よりも 13.3 ポイント高い。

#### ⑥法律や制度の上で

「法律や制度の上で」は、「男性が優遇されている」6.9%で、「どちらかというと男性が優遇されている」が 28.8%で、合わせて男性が優遇されていると考えている人は 35.7%などとなっている。

##### 【性別】

性別にみると、女性では「男性が優遇されている」「どちらかというと男性が優遇されている」を合わせた男性が優遇されていると考えている人は 39.1%で男性よりも 8.2 ポイント高い。

「平等である」は男性で 38.9%で女性よりも 20.4 ポイント高い。

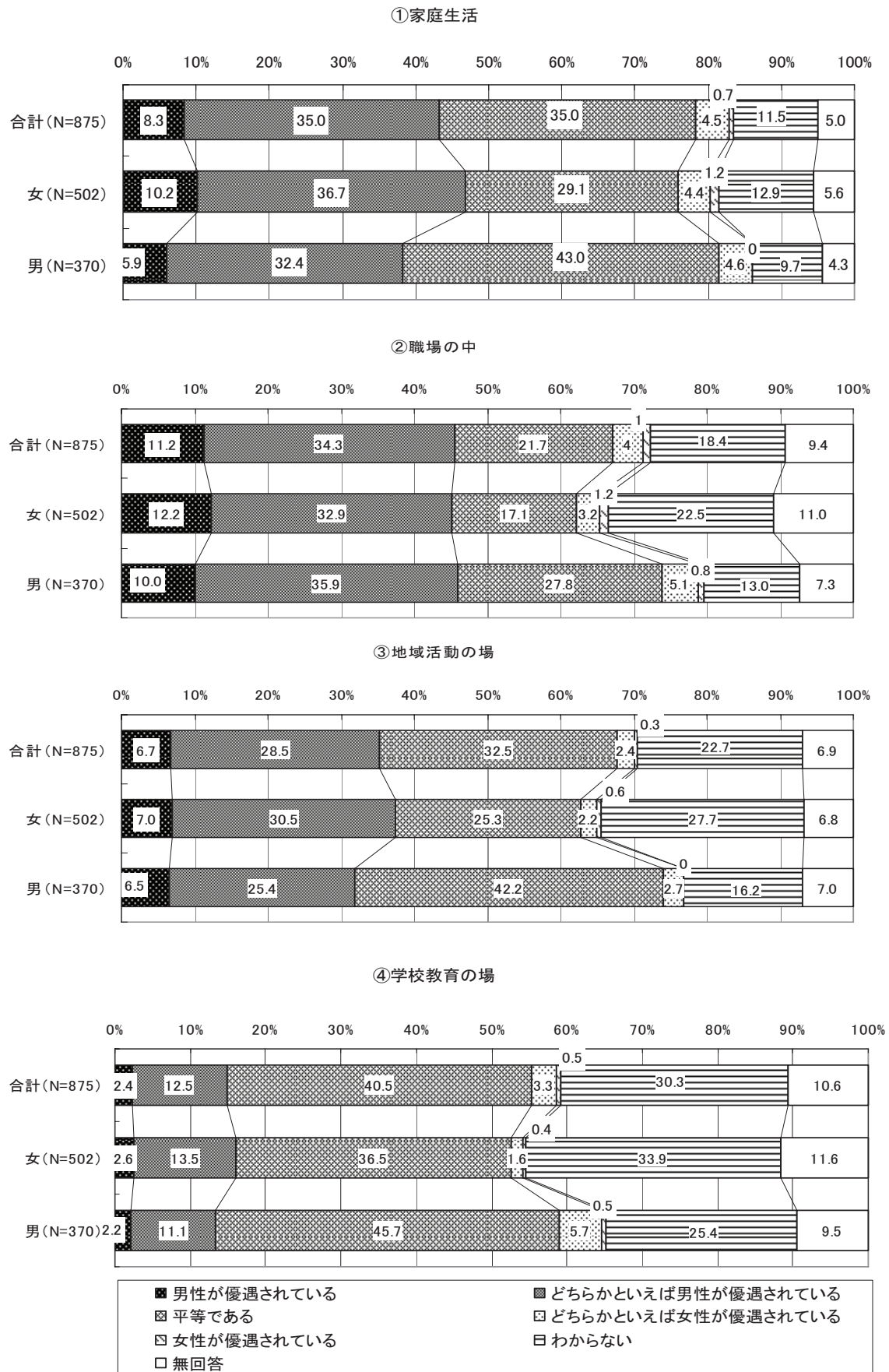
#### ⑦社会通念・慣習・しきたりなどで

「社会通念・慣習・しきたりなどで」は、「男性が優遇されている」18.6%で、「どちらかというと男性が優遇されている」が 46.7%で、合わせて男性が優遇されていると考えている人は 65.3%などとなっている。

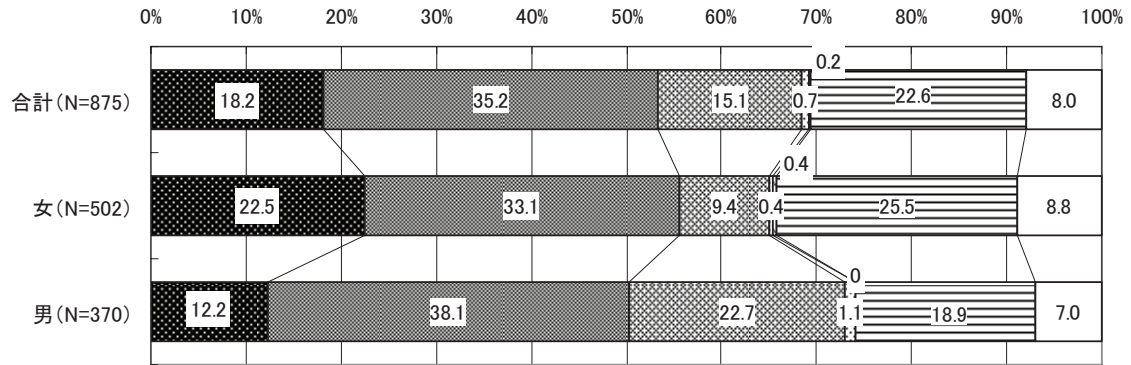
##### 【性別】

性別にみると、男性では「平等である」が 14.6%で女性より 8 ポイント高い。

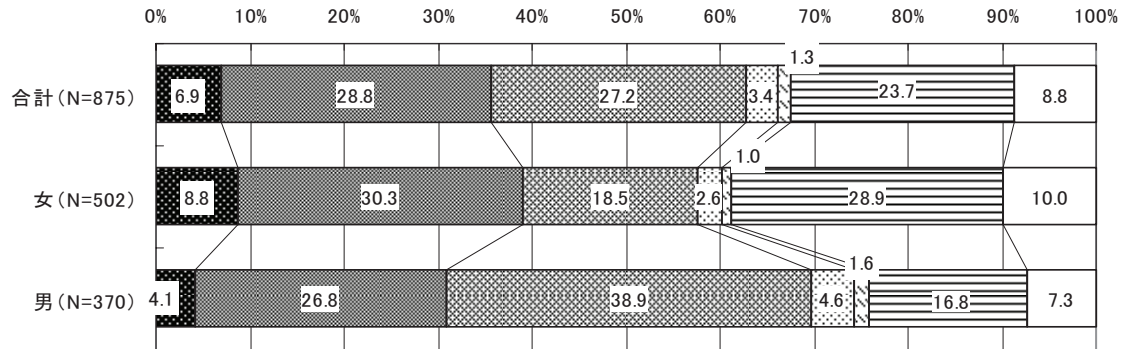
図 28. 橋本市及び自分の周りでの男女の地位について



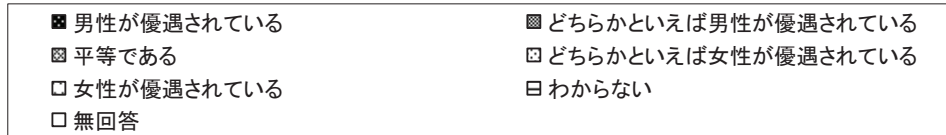
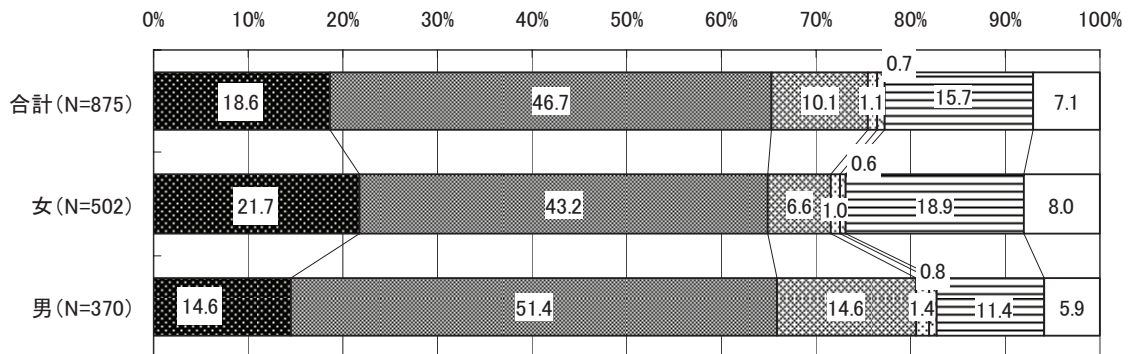
⑤政治の場



⑥法律や制度の上



⑦社会通念・慣習・しきたりなどで



## 問 29. 男女共同参画社会実現に向けて必要なこと

男女共同参画社会実現に向けて必要なことについては、「学校などにおける男女平等教育の推進」が 49.4%で最も多く、次いで「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」が 43.4%、「職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底」43.3%、「介護サービスの充実」が 41.7%、「女性の就労支援の充実」が 36.5%などとなっている。

### 【性別】

性別にみると、「介護サービスの充実」は女性が 44.0%で男性よりも 5.9 ポイント高い。

「地域活動における男女共同参画の推進」は男性で 32.4%で女性よりも 10.5 ポイント高い。

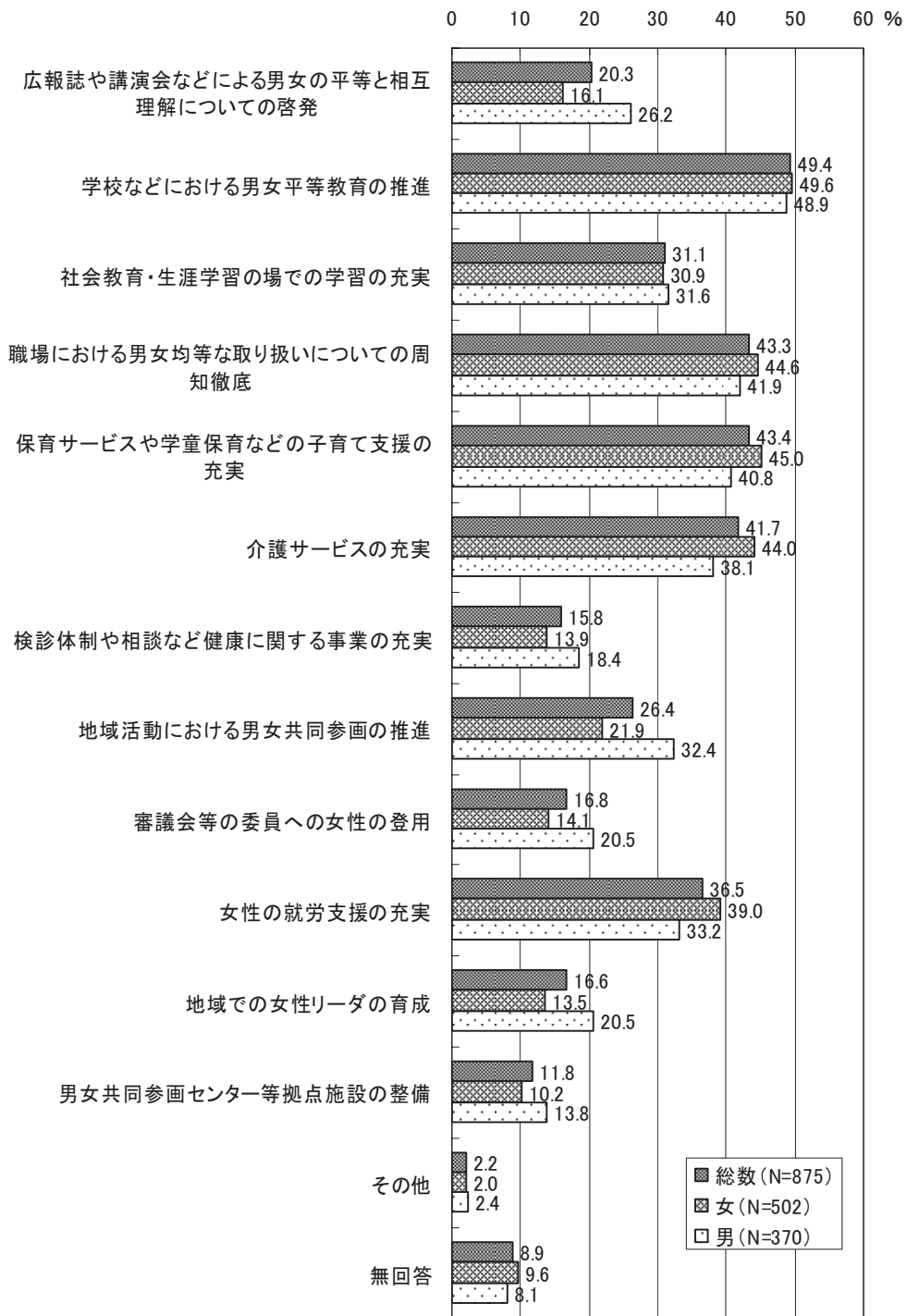
「広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発」は男性が 26.2%で女性よりも 10.1 ポイント高い。

### 【前回調査との比較】

平成 11 年調査では、「男女共同参画社会を推進していくために行政に期待すること」をきいている。

その結果と比較すると、今回の「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」及び「介護サービスの充実」に該当する「保育サービスや介護サービスの充実」の割合は、総数で 20 ポイント強減っており、充実がうかがえる。また、「職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底」の割合は、総数で 9.8 ポイント増えている。

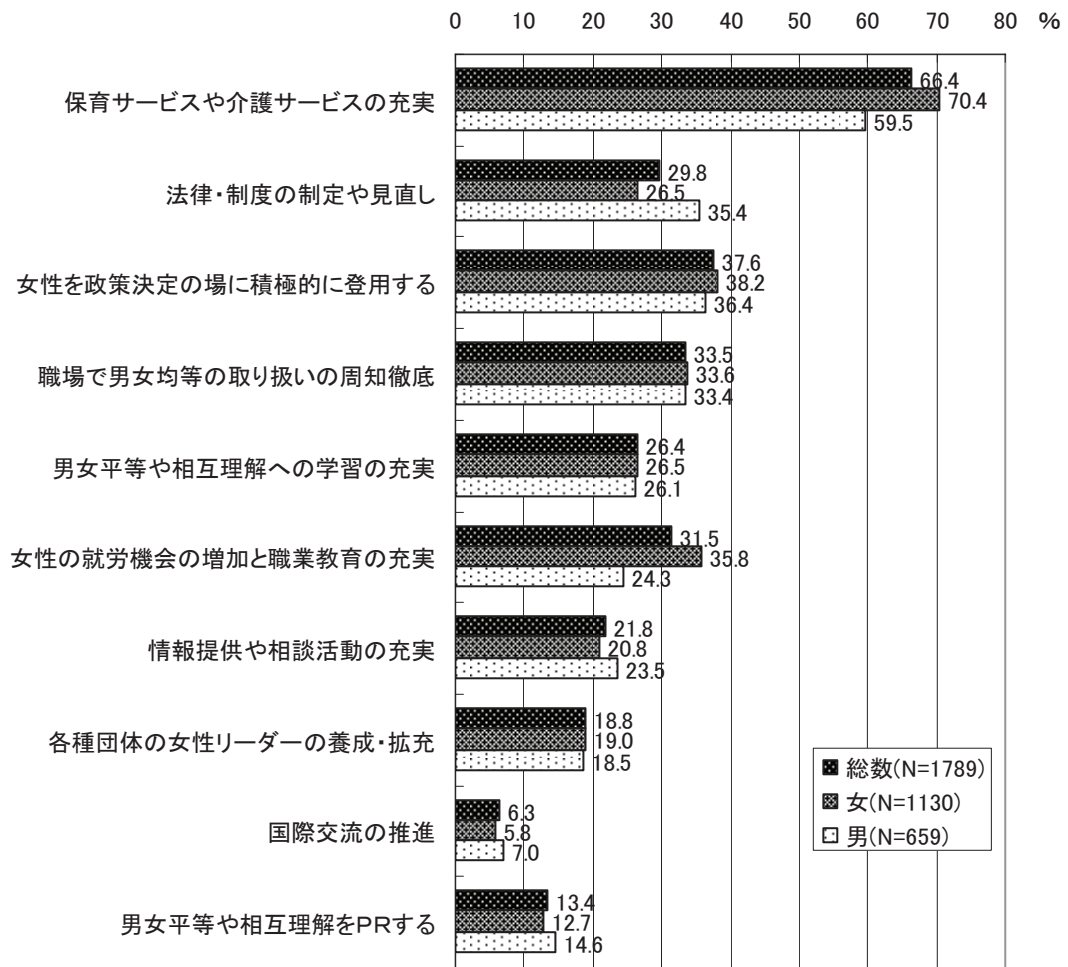
図 29①. 男女共同参画社会実現に向け必要なこと（複数回答）





平成 11 年調査

問 30 男女共同参画社会を推進していくために行政に期待すること（複数回答）



【年代別】

年代別にみると 20 歳代、30 歳代では「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」が 55%を超えて高くなっている。

20 歳代では「職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底」が 57.1%で総数よりも約 14 ポイント高い。

「介護サービスの充実」は 50 歳代で 50%を超えて高くなっている。

「女性の就労支援の充実」は 30 歳代で 46.4%と総数よりも約 10 ポイント高くなっている。

表 3. 年代別 男女共同参画社会実現に向け必要なこと（複数回答）

	広報誌や講演会などによる男女の平等と相互理解についての啓発	学校などにおける男女平等教育の推進	社会教育・生涯学習の場での学習の充実	職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底	保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実	介護サービスの充実	検診体制や相談など健康に関する事業の充実
総数(N=875)	20.3	49.4	31.1	43.3	43.4	41.7	15.8
20歳代(N=77)	11.7	51.9	35.1	57.1	57.1	42.9	16.9
30歳代(N=97)	9.3	44.3	32.0	50.5	55.7	40.2	12.4
40歳代(N=133)	18.8	54.9	28.6	51.9	40.6	39.8	9.0
50歳代(N=160)	20.0	51.3	31.3	41.9	43.8	50.6	12.5
60歳代(N=220)	23.2	48.2	31.4	42.3	39.5	38.2	18.2
70歳代(N=136)	31.6	47.8	32.4	30.9	35.3	39.0	23.5
80歳代(N=40)	17.5	42.5	22.5	22.5	40.0	42.5	15.0
90歳以上(N=10)	20.0	40.0	40.0	50.0	60.0	40.0	30.0

	地域活動における男女共同参画の推進	審議会等の委員への女性の登用	女性の就労支援の充実	地域での女性リーダーの育成	男女共同参画センター等拠点施設の整備	その他	無回答
総数(N=875)	26.4	16.8	36.5	16.6	11.8	2.2	8.9
20歳代(N=77)	18.2	20.8	37.7	22.1	5.2	2.6	6.5
30歳代(N=97)	14.4	15.5	46.4	14.4	8.2	3.1	3.1
40歳代(N=133)	24.8	15.0	37.6	13.5	8.3	1.5	4.5
50歳代(N=160)	26.9	16.3	45.0	17.5	9.4	2.5	7.5
60歳代(N=220)	29.1	15.0	34.5	16.8	15.5	2.3	7.7
70歳代(N=136)	37.5	22.8	27.2	17.6	19.1	1.5	18.4
80歳代(N=40)	20.0	10.0	15.0	7.5	10.0	2.5	20.0
90歳以上(N=10)	30.0	20.0	30.0	30.0	10.0	-	20.0

【中学生以下の子どもの有無別】

中学生以下の子どもの有無別にみると、「いる」では「職場における男女均等な取り扱いについての周知徹底」が 55.5%で「いない」より 14.7 ポイント高い。また「保育サービスや学童保育などの子育て支援の充実」や「女性の就労支援」も、それぞれ「いない」より 10.5 ポイント、11.3 ポイント高くなっている。

図 29②. 中学生以下の子どもの有無別 男女共同参画社会実現に向け必要なこと（複数回答）

